

[illegible]

14.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
15.	火曜日:各パートの研究発表(スタッフ) 金曜日:各パートの研究発表(キャスト)	発表後、各パートでフィードバックを行い、秋学期の活動へ向けての準備始めること。
16.	秋学期 火曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備(シラバスの便宜上授業回数を週2回としているが、実際には週平均5回の活動となる) 金曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
17.	火曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備 金曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
18.	火曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備 金曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
19.	火曜日:第1ドレス・リハーサルの予行演習 金曜日:第1ドレス・リハーサル	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
20.	火曜日:第1ドレス・リハーサルのフィードバック、及び第2ドレス・リハーサルの準備 金曜日:第2ドレス・リハーサル	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
21.	火曜日:第2ドレス・リハーサルのフィードバック、及び本番の準備 金曜日:本番1日目 土曜日:本番2日目	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
22.	火曜日:反省会 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成(並行して個人レポートも作成)	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
23.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
24.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
25.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
26.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
27.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
28.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
29.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
30.	火曜日:SPルームの整頓 金曜日:SPルームの整頓	

受講者へのメッセージやアドバイス: 舞台上演を行うに当たっては、参加者一人一人の積極的な取り組み、仲間との連帯が何よりも大切である。授業時間外の作業が多く(特に秋学期の上演までの期間)、体力と気力が大いに必要とされるので、覚悟の上、臨んでほしい。

フィードバックの方法: 春学期の成果発表、秋学期の本番の舞台上演へ向けての作業に対しては、担当教員が適宜、コメント、アドバイスをしていく。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への取り組み姿勢	30%	授業への意欲的な取り組み姿勢を評価する。
	春学期の成果発表	20%	春学期の取り組みの成果を評価する。
	本番での発表	40%	本番までの取り組みの成果を評価する。
	レポート、資料作成	10%	授業内容の総括ができているかを評価する。

教科書: ハンドアウト(上演用台本)を用意する。

参考書: 授業時に適宜紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力

教員との連絡
方法:

e-mail: htsuji@dwc.doshisha.ac.jp
tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	第二言語としての文法能力の役割とliteracy (reading & writing) について研究論文を書くことを通して、研究する。
授業の概要:	この授業では、第二言語習得における文法能力の役割とliteracyの関係、また文法能力とreading とwritingの関係について、理解し、実際に実験を試み、論文を書く過程を通して研究する。文法はreadingやwritingと関係があるとされているが、具体的にどのように関係しているかが不明確である。授業では、最も基本的なテーマについて教師の説明を聞きながら、各自が論文を読み、それぞれの内容について理解し、議論した上で、独自のresearch questionを作る。次に、扱ったテーマの中から各自が興味あるテーマを見つけ、研究に発展させることが第二の目標である。前半は、主な文献を購読し、実際に調査を行い、その調査についてまとめていくことが中心となる。後半は、実際に実験を行い、研究論文にまとめる。
到達目標:	(1) 文法能力とliteracyに関する文献を批判的に読むことができる。(2) 文献講読や議論を通して、独自のresearch questionを作る。(3) research questionに基づいて、実験計画を立て、実際に実験を試みることができる。(4) 実験結果をまとめ、発表することができる。(4) 論文の形式で実験結果をまとめ、議論することができる。
授業方法:	授業で扱うテーマは以下のものがある。ただし、そのテーマを全て扱うのではなく、受講者の希望が優先される。受講者が勉強したいテーマが選ばれる。毎回の授業は、それぞれのテーマに関する論文を読み、問題点やその論文の示唆することを議論する。そのような議論から、research questionを作るようにする。後半は、research questionに基づいた実験の結果について報告し、議論し、それを論文の形式にまとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	全体の授業内容の紹介と心構え	授業内容についてシラバスを読み、理解した上で授業に臨む。
2.	文法と文法能力の関係について研究論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
3.	文法能力とメタ言語能力関係について論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
4.	文法能力とメタ言語能力関係について論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
5.	バイリンガルの文法能力とメタ言語知識についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
6.	バイリンガルの文法能力とメタ言語知識についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
7.	発話と文法の関係についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
8.	発話と文法の関係についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
9.	理解と文法の関係についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
10.	理解と文法の関係についての論文を読み、議論する。。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
11.	読解と文法の関係についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
12.	Writingと文法の関係についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
13.	先行研究のまとめ及びresearch questionについて議論する。	先行研究をまとめた上で、research questionを作る。
14.	改訂されたresearch questionと研究方法について議論する。	授業で議論したことを活かし、research question を改訂し、研究方法を確立する。
15.	Research question、研究方法を確立し、予備実験を行い、その経過について報告し、方法について議論する。	改訂されたresearch quetionと研究方法を基に予備実験を行う。
16.	研究方法について深める。改訂された質問紙について議論する。	一度使った質問紙について振り返り、改訂する。
17.	結果の分析方法について学ぶ。実験計画における統計学の利用に関して理解する。	結果の分析方法についてまとめ、実験計画を作る。
18.	実際に行った実験について報告する。	実際に実験を行う。
19.	実験結果について信頼性、妥当性の観点から議論する。	実験結果について整理する。
20.	SPSSを使ってまとめた結果を議論する。	実験結果をまとめる。SPSSを使って、統計分析を行う。
21.	Resultの内容について議論する。	Resultのまとめを完成させる。
22.	Resultの内容について議論する。先行研究の結果と照らし合わせる。	議論したResultの内容に関して再度分析を行う。
23.	Resultの内容について議論する。	再度議論したResultの内容に関して、別の観点からまとめる。
24.	Resultの内容について議論する。先行研究の結果と照らし合わせる。	Resultの内容に関して、先行研究と比較しまとめる。
25.	Resultとして書いたものを議論する。	Resultの内容について考え、まとめる。
26.	書かれたDiscussionの内容について議論する。	Discussionの書き方について理解し、Discussionの部分を書く。
27.	Discussionの内容について議論する。先行研究と照らし合わせる。	再度、Discussionの内容について改訂する。

- | | | |
|-----|---|--------------------------------|
| 28. | Discussionとしてまとめたものについて議論する。研究の結果の意義について議論する。 | 先行研究を参考にした上で、Discussionを完成させる。 |
| 29. | Conclusionとして書いたものについて議論する。 | Conclusionをまとめる。 |
| 30. | 論文の形式にして提出する。最終的なチェックを行う。 | 論文として全体をまとめる。 |

受講者への
メッセージや
アドバイス:

この研究では、文献研究から始めて、実際に論文を書き終えるまでの過程に焦点を当てて、授業を展開します。一つひとつの作業を通して、論文を完成させる過程が楽しめます。

フィードバックの
方法:

毎回読んできた内容に関しては、受講者と担当者とのやり取りの中で、フィードバックを行う。p論文作成過程に関しては、授業中に提出された論文等について口頭でコメントしたり、マナビーを通して提出された論文にコメントを加えて返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の文献レポート	30	到達目標(1)に関して、毎回の文献レポートを内容面と議論の深さから評価する。
research questionと実験計画の作成	20	到達目標(2),(3)に関して、research questionと実験計画を独自性、内容の深さから評価する。
実験結果のまとめ	20	到達目標(3)に関して、実験のまとめを内容面と分かり易さの観点から評価する。
論文	30	到達目標(4)に関して、提出された論文を独自性、英語、論理性の観点から評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

E-mail, マナビー

授業テーマ:	R.Browning研究		
授業の概要:	19世紀ヴィクトリア朝の大詩人、ロバート・ブラウニングの詩を読み、作品の魅力を味わい、詩人の思想を理解する。		
到達目標:	ロバート・ブラウニングの作品からなるべく多くを取り上げて読む。難解な彼の長詩に挑むことにより英語読解力を強化し、彼の思想、特にその強靱な物の考え方の面白さに迫る。		
授業方法:	演習形式。作品および参考文献の訳読、質疑応答、担当者による補足説明の形で授業を進める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	イントロダクション	
	2.	初期の詩より “Porphiria”	予習し内容理解を確認する。自分の考えをまとめ、課題提出に備える。
	3.	Bells and Pomegranatesより “My Last Duchess”	同上
	4.	Men and womenより “Evelyn Hope”	同上
	5.	Men and Womenより “Up at Villa -- Down in the City”	同上
	6.	Men and Womenより “Fralippo Lippi”	同上
	7.	同上	同上
	8.	Men and Women より “Child Roland to the Dark Tower Came”	同上
	9.	同上	同上
	10.	Men and Womenより “The Statue and the Bust”	同上
	11.	同上	同上
	12.	Men and Womenより “The Last Ride Together”	同上
	13.	同上	同上
	14.	Robert Browningの7魅力 読んだ作品を振り返り、そこから見えてくる詩人の特色をまとめる	クラスで読んだ作品について不備な点を補い、内容を見直し考えをまとめる
	15.	同上	同上
	16.	Men and Womenより “Andrea del Sarto”	予習し、ないよう理解を確認する。自分の考えをまとめ、課題提出に備える。
	17.	同上	同上
	18.	Men and women より “Two in the Campagna”	同上
	19.	同上	同上
	20.	Men and Womenより “Love in a Life ” “Life in a Love”	同上
	21.	同上	同上
	22.	妻E. B. Browningの夫に宛てた愛のソネット	同上
	23.	同上	同上
	24.	同上	同上
	25.	Dramatic Personaeより “Rabbi Ben Ezra”	同上
	26.	同上	同上
	27.	同上	同上
	28.	Dramatic Personaeより “Prospice”	同上
	29.	Robert Browningの老年観 ブラウニングの作品から「老い」を考える	クラスで読んだ作品について不備を補い、内容を見直し考えをまとめる。
	30.	同上	同上
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	レポートは添削して返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	課題	100 %	春学期末と秋学期末に課題を提出させ、その内容により評価する
教科書:	R. Cronin & D. Mcmillan ed., 21st-Century Oxford Authors Robert Browning (Oxford Univ. Press)		
参考書:	クラスで指示する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー Eメール: ykohmoto@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

Thomas Hardyの小説研究

授業の概要:

19世紀後期のイギリス人作家Thomas Hardy (1840–1928)の6大作の一つThe Return of the Native (1878)を精読することによって、小説の高度な研究方法の習得を目指す。
(1) The Return of the Native (1878)の研究方法(講義)
(2) 作品の精読と分析
(3) 作品に関連した研究書のまとめの発表

到達目標:

アカデミックな小説研究の方法を習得し、あわせて作品の読み方を学んでいく。

授業方法:

人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的には、講義と精読と発表を中心に授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	授業についての質問を準備しておく。
2.	講義: The Return of the Nativeの研究方法(1)	質問を準備しておく。
3.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
4.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
5.	講義: The Return of the Nativeの研究方法(2)	質問を準備しておく。
6.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
7.	これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。
8.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
9.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
10.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
11.	これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。
12.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
13.	発表: 研究書のまとめ	レジュメの準備をする。
14.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
15.	学期末の総まとめ	これまでの授業内容を復習しておく。
16.	授業オリエンテーション	授業についての質問を準備しておく。

17.	講義: The Return of the Nativeの研究方法(3)	質問を準備しておく。
18.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
19.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
20.	発表: 研究書のまとめ	レジュメの準備をする。
21.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
22.	レポートについて	質問を準備しておく。
23.	これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。
24.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
25.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
26.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
27.	これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。
28.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
29.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
30.	おわりに	質問を準備しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

今回はハーディの中期の傑作The Return of the Nativeを取り上げます。エグドン・ヒースが舞台ですので、深遠な話しかないと想像しますが、実際は嫁姑問題や若いヒロインの夢をあつかった、美しいけれど俗っぽい筋の小説です。しかし、ハーディが書くとこのように芸術的になります、といった見本のような作品です。

フィードバックの方法:

レポーとは採点とコメントをして返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	秋学期の学期末のレポート1回	50%	小説研究の方法論を踏まえてレポートが書かれているかどうかを基準とする。
	発表	25%	レジュメの作り方や内容によって評価する。
	授業への積極的参加度	25%	準備学習への意欲によって評価する。

教科書:

Thomas Hardy, The Return of the Native (1878) (Norton Edition)

参考書:

授業中に提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Eメールやマナビーの連絡、および授業前後と授業外のアポで対応する。

授業テーマ: Literary Translation

授業の概要: The focus of this course will be literary translation. Besides the textbook, we will look at various articles and samples of literary translation from Japanese to English and vice versa (poetry as well as prose). We will consider the reading and writing skills, as well as the flexibility of approach, required to translate a work of art that does justice to the original. Actual works examined will vary with the students' interests.

到達目標: --to develop a sophisticated understanding of translation
 --to be able to critique a translation and analyze the approaches taken in it
 --to further develop knowledge of translation theory and apply what is learned
 --to enjoy the differences between English and Japanese

授業方法: Students will do assigned readings, including sections of books and papers as well as various sample translations, and discuss them in class. Each student will do at least two assigned translations (E-J and J-E) as well as two translations of works of her own choosing.

「授業内容」
 および
 「準備学習等の内
 容」:

授業内容

1. Introduction to literary translation J-E
2. Literary translation (J-E) 1
3. Literary translation (J-E) 2
4. Literary translation (J-E) 3
5. Literary translation (J-E) 4
6. Literary translation (J-E) 5
Discuss the translations
7. Literary translation (J-E) 6
Translation and introduction due
8. Literary translation (J-E) 7
9. Literary translation (J-E) 8
10. Literary translation (J-E) 9
11. Literary translation (J-E) 10
12. Literary translation (J-E) 11
13. Literary translation (J-E) 12
14. Literary translation (J-E) 13
Final translation and analytical introduction due
15. Student presentations
16. Introduction to literary translation (E-J)
17. Literary translation (E-J) 1
18. Literary translation (E-J) 2
19. Literary translation (E-J) 3
20. Literary translation (E-J) 4
21. Literary translation (E-J) 5
22. Literary translation (E-J) 6
Translation and analytical introduction due
23. Literary translation (E-J)
24. Literary translation (E-J)
25. Literary translation (E-J)
26. Literary translation (E-J)
27. Literary translation (E-J)
28. Literary translation (E-J)
Final draft of the translation due, with analytical introduction.
29. Literary translation (E-J)
30. Literary translation (E-J)
Student presentations

準備学習等の内容

- Read assigned chapter of The Routledge Course in Japanese translation
- Read assigned section of the Routledge book
- Read assigned section of the Routledge book
Begin translating an assigned work
- Read assigned section of the Routledge book
Work on the translation
Bring questions to class
- Read assigned section of the Routledge book
Work on the translation
- Revise the translation and prepare to hand it in with analytical introduction.
- Do the assigned reading
- Select a work of Japanese literature for translation, in consultation with the instructor.
Bring questions to class
- Continue working on the translation.
Do assigned reading.
- Continue working on the translation.
Do assigned reading.
- Revise the translation
Do assigned reading
- Prepare draft translation with introduction
- Revise paper
- Prepare presentation based on translation, for discussion
- Do the assigned reading
- Read a section of the Routledge book
- Read a section of the Routledge book
Begin translating an assigned work
- Read a section of the Routledge book
Work on the translation
- Read a section of the Routledge book
Work on the translation
- Do the assigned reading
Revise the translation
- Do the assigned reading
Prepare final draft of the translation with introduction.
- Do the assigned reading. Select a work of English literature for translation, in consultation with the instructor.
- Work on the translation
- Work on the translation
- Work on the translation
Do the assigned reading
- Work on the translation
Do the assigned reading
- Work on the translation
Prepare a draft translation with analytical introduction
- Do assigned reading
- Prepare presentation based on the translation, for discussion.

受講者への
メッセージや
アドバイス:

Literary translation is not easy, but it's not totally impossible either, so have courage! It is an adventure. There are no "right" answers, but if you have a love of language, reading and writing, you can do it. Practice makes perfect. The more you translate, the better you will become! Think ahead of time about what sort of literary translating would be most interesting and useful for you. Then let's learn and explore together. (Class will be conducted primarily in English but of necessity some Japanese will be used as well.)

フィードバックの方法:

Homework from the textbook will be discussed in class. Translations will be rewritten with guidance from the instructor and feedback from classmates.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and class participation	40%	Preparation, attitude, ability to ask questions and demonstrate understanding of the materials.
	Translations	60%	Accuracy, ability to apply what is learned, and flair for language.

教科書:

Hasegawa, Yoko. The Routledge Course in Japanese Translation. Routledge, 2012.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

、思考力、創造力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

--office hour
--email
--by appointment

授業テーマ:

Tactics to facilitate your research: Thesis from start to finish

授業の概要:

This one-semester course is designed to help master program students understand the requirement for studies of graduate school. Quite a few tactics are needed: ways of discussion/interaction or techniques to find appropriate references for their research topics, for example. Especially, this year emphasizes the following three points.

- 到達目標:
- At the end of the course, the participants will
1. Academic skills needed for the master program students

2. APA style

3. Elements of the master’s thesis and the importance of timeline

- 到達目標:
- At the end of the course, the participants will
1. ... know the required skills for the master’s program

2. ... establish an identity as graduate school students

3. ... have confidence to write a thesis in two years

授業方法:

Lecture and discussion

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

- 授業内容
1. Introduction to the course: Why do we need this course and what is the goal of this course?

2. How to find appropriate references (1)

3. How to find appropriate references (2)

4. How to find your research theme: What is a Research Question?

5. What is your Research Question? Presentation of participants’ research interests

6. Answering questions from course participants

7. Timeline of finishing a thesis: Overviewing two years

8. Rules of Master thesis: A-Z

9. Components of thesis: Functions of each chapter (1)

10. Components of thesis: Functions of each chapter (2)

11. Attending a presentation: How to take memos and ask questions

12. Styles of Master thesis, APA (1) : How to cite and make references

13. Styles of Master thesis, APA (2) : How to cite and make references

14. Attending a presentation of M2 students to know what research is

15. Consolidation of the course

- 準備学習等の内容
- Think about what you expect to this course.

Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.

Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.

Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.

Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.

Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.

Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.

Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.

Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.

Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.

Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.

Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.

Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.

Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.

Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.

Think about what you have achieved in this course.

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:

Two tasks will be returned to the participants with comments.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Two tasks	50%	Based on the rubric.
	Attitudes in class	50%	Based on the rubric.

教科書:

American Psychological Association. (2010). Publication manual of the American Psychological Association (6th ed.). Washington, DC: American Psychological Association.

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Participants could visit the instructors’ office or contact them by e-mail.

授業テーマ:

卒業論文作成のための研究指導。

授業の概要:

4年間の集大成として、各自が研究課題を設定。資料の調査・収集、検討・考察を加えて、卒業論文を作成する。

到達目標:

①適切な資料の調査収集。②先行研究の検討。③論旨の組み立て。④論文作成。

授業方法:

演習を基本とし、発表と質疑応答。質疑応答と進行状況によって、授業内容の配分は変更する場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究課題の設定についてのガイダンス①。3年次演習の成果の検討。今後の課題の確認。「卒論作成ガイド」の説明。	3年次演習の成果と今後の課題について、資料をまとめておく
2.	研究課題の設定についてのガイダンス②先行研究の整理と検討。テーマに関する文献リストの作成指導(その1)。	先行研究をリストアップしておく。
3.	研究課題の設定についてのガイダンス③。先行研究の整理と検討。テーマに関する文献リストの作成指導(その2)。	研究課題の検討。文献リストの作成。
4.	研究課題の設定についてのガイダンス④。先行研究の整理と検討。テーマに関する文献収集の指導。	研究課題の検討。文献リストの作成。現状報告の準備。
5.	各自の進行状況を報告。論題・目次案の検討①。	進行状況・論題・目次案の報告準備。
6.	各自の進行状況を報告。論題・目次案の検討②。	進行状況・論題・目次案の報告準備。
7.	各自の進行状況を報告。論題・目次案の検討③。	進行状況・論題・目次案の報告準備。論文構成案の発表準備。
8.	論題・目次案にもとづき各自の論文構成案を発表①。全員で質疑応答。	論文構成案の発表準備。質疑に対応。
9.	論題・目次案にもとづき各自の論文構成案を発表②。全員で質疑応答。	論文構成案の発表準備。質疑に対応。
10.	論題・目次案にもとづき各自の論文構成案を発表③。全員で質疑応答。	論文構成案の発表準備。質疑に対応。
11.	論題・目次案にもとづき各自の論文構成案を発表④。全員で質疑応答。	論文構成案の発表準備。質疑に対応。
12.	論題・目次案にもとづき各自の論文構成案を発表⑤。全員で質疑応答。	論文構成案の発表準備。質疑に対応。
13.	論題・目次案にもとづき各自の論文構成案を発表⑥。全員で質疑応答。	論文構成案の発表準備。質疑に対応。
14.	夏季休暇中の研究計画①草稿執筆にむけて、各自の問題点と今後の課題を明確にする。	夏季休暇中の研究計画を立てる。問題点と今後の課題をあげておく。
15.	夏季休暇中の研究計画②草稿執筆にむけて、各自の問題点と今後の課題を明確にする。	夏季休暇中の研究計画を立てる。問題点と今後の課題をあげておく。
16.	草稿をもとに中間発表①。質疑応答。改稿を指示する。	中間発表準備。
17.	草稿をもとに中間発表②。質疑応答。改稿を指示する。	中間発表と改稿。
18.	草稿をもとに中間発表③。質疑応答。改稿を指示する。	中間発表と改稿。
19.	草稿をもとに中間発表④。質疑応答。改稿を指示する。	中間発表と改稿。
20.	草稿をもとに中間発表⑤。質疑応答。改稿を指示する。	中間発表と改稿。
21.	草稿をもとに中間発表⑥。質疑応答。改稿を指示する。	中間発表と改稿。
22.	改稿をもとに再発表①。質疑応答。再改稿	中間発表と再改稿。
23.	改稿をもとに再発表②。質疑応答。再改稿	中間発表と再改稿。
24.	改稿をもとに再発表③。質疑応答。再改稿	中間発表と再改稿。
25.	完成原稿作成指導①	論文点検、完成原稿作成。
26.	完成原稿作成指導②	論文点検、完成原稿作成。
27.	完成原稿作成指導③	
28.	講評①	感想のまとめ
29.	講評②	感想のまとめ
30.	講評③	

受講者へのメッセージやアドバイス:

本文テキストと参考文献は、各自のテーマに応じて個別に指導する。多くの研究論文を読んで、優れた論文の書き方を参考にするとよい。他大学図書館、公共図書館なども積極的に利用するとよい。

フィードバックの方法:

目次案、論文構成案、草稿を添削し、教室で返却。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	論文の完成度	60	課題設定。論旨。論述。
	研究過程での努力	40	授業時の発表。質疑応答。

教科書:

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で対応。オフィスアワー。メールによる個別対応。

授業テーマ:	卒業論文作成に向けて																																																														
授業の概要:	四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集・調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。春学期は概要を含む演習形式、秋学期は個人発表ならびに論文執筆が主となる。開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を研究発表するのみならず、授業担当教員の指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。																																																														
到達目標:	卒業論文完成に向けて、各自のペースでスケジュールを考える。それによって資料の収集・調査を行い、その結果を逐次口頭発表し、質疑応答を通してよりよい論文の制作をめざす。論文執筆にあたっては、書式の修得や論理的な展開・構成に留意しつつ、各自のオリジナリティーを明確に打ち出していく。																																																														
授業方法:	演習																																																														
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. ガイダンス</td><td>各自研究テーマについて考えておく。</td></tr><tr><td>2. 個人発表などのスケジュール調整</td><td>用例の調査などを行っておく。</td></tr><tr><td>3. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議</td><td>発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>4. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議</td><td>発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>5. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議</td><td>発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>6. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議</td><td>発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>7. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議</td><td>発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>8. 個人発表後の論文執筆状況の確認並びに二回目の個人発表のスケジュール調整</td><td>二回目の個人発表の準備。</td></tr><tr><td>9. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議</td><td>二回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>10. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議</td><td>二回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>11. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議</td><td>二回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>12. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議</td><td>二回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>13. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議</td><td>二回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>14. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議</td><td>二回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>15. 夏休み中のゼミ合宿についての話し合い</td><td>春学期提出のレポートの準備。</td></tr><tr><td>16. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議</td><td>三回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>17. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議</td><td>三回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>18. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議</td><td>三回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>19. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議</td><td>三回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>20. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議</td><td>三回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>21. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議</td><td>三回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>22. 以後は卒業論文完成に向けての個人指導を行う</td><td>質問事項などを整理しておく</td></tr><tr><td>23. 個人指導を行う</td><td>質問事項などを整理しておく</td></tr><tr><td>24. 個人指導を行う</td><td>質問事項などを整理しておく</td></tr><tr><td>25. 卒業論文提出に向けて書式・体裁などの最終確認を行う</td><td>卒業論文の草稿をまとめておく。</td></tr><tr><td>26. 論文提出に向けて最終チェックを行う</td><td>完成原稿を用意する</td></tr><tr><td>27. 提出後は反省・総括を行う</td><td>各自自らの論文を総括しておく。</td></tr><tr><td>28. 卒業論文集作成に向けて作業を行う</td><td>論文原稿の再確認。</td></tr><tr><td>29. 卒業論文集作成に向けて作業を行う</td><td>論文集の編集作業を行う。</td></tr><tr><td>30. 卒業論文集を完成させる</td><td>論文集の編集作業を行う。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. ガイダンス	各自研究テーマについて考えておく。	2. 個人発表などのスケジュール調整	用例の調査などを行っておく。	3. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。	4. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。	5. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。	6. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。	7. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。	8. 個人発表後の論文執筆状況の確認並びに二回目の個人発表のスケジュール調整	二回目の個人発表の準備。	9. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。	10. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。	11. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。	12. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。	13. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。	14. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。	15. 夏休み中のゼミ合宿についての話し合い	春学期提出のレポートの準備。	16. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。	17. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。	18. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。	19. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。	20. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。	21. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。	22. 以後は卒業論文完成に向けての個人指導を行う	質問事項などを整理しておく	23. 個人指導を行う	質問事項などを整理しておく	24. 個人指導を行う	質問事項などを整理しておく	25. 卒業論文提出に向けて書式・体裁などの最終確認を行う	卒業論文の草稿をまとめておく。	26. 論文提出に向けて最終チェックを行う	完成原稿を用意する	27. 提出後は反省・総括を行う	各自自らの論文を総括しておく。	28. 卒業論文集作成に向けて作業を行う	論文原稿の再確認。	29. 卒業論文集作成に向けて作業を行う	論文集の編集作業を行う。	30. 卒業論文集を完成させる	論文集の編集作業を行う。
授業内容	準備学習等の内容																																																														
1. ガイダンス	各自研究テーマについて考えておく。																																																														
2. 個人発表などのスケジュール調整	用例の調査などを行っておく。																																																														
3. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。																																																														
4. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。																																																														
5. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。																																																														
6. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。																																																														
7. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。																																																														
8. 個人発表後の論文執筆状況の確認並びに二回目の個人発表のスケジュール調整	二回目の個人発表の準備。																																																														
9. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。																																																														
10. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。																																																														
11. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。																																																														
12. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。																																																														
13. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。																																																														
14. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。																																																														
15. 夏休み中のゼミ合宿についての話し合い	春学期提出のレポートの準備。																																																														
16. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。																																																														
17. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。																																																														
18. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。																																																														
19. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。																																																														
20. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。																																																														
21. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。																																																														
22. 以後は卒業論文完成に向けての個人指導を行う	質問事項などを整理しておく																																																														
23. 個人指導を行う	質問事項などを整理しておく																																																														
24. 個人指導を行う	質問事項などを整理しておく																																																														
25. 卒業論文提出に向けて書式・体裁などの最終確認を行う	卒業論文の草稿をまとめておく。																																																														
26. 論文提出に向けて最終チェックを行う	完成原稿を用意する																																																														
27. 提出後は反省・総括を行う	各自自らの論文を総括しておく。																																																														
28. 卒業論文集作成に向けて作業を行う	論文原稿の再確認。																																																														
29. 卒業論文集作成に向けて作業を行う	論文集の編集作業を行う。																																																														
30. 卒業論文集を完成させる	論文集の編集作業を行う。																																																														
受講者へのメッセージやアドバイス:	悔いのないよう全力で取り組んでほしい。																																																														
フィードバックの方法:	個人発表に際して意見を述べる。論文の草稿に朱を入れる。論文集作成に向けて全体の書式などを統一させる。																																																														
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>卒業論文</td><td>100</td><td>卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。																																																								
評価方法	割合	評価基準																																																													
卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。																																																													
教科書:	特になし																																																														
参考書:	特になし																																																														
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力																																																														

教員との連絡
方法:

研究室での応対、連絡メールによるやりとり。

授業テーマ:

卒業論文作成に取り組む。

授業の概要:

講義に加え個別指導にもとづいて各人の問題意識に基づいた卒業論文を作成する。

到達目標:

四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。

授業方法:

講義・個別指導など

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス・グループ分け	
	2. 文学研究の方法(応用)	
	3. 個別面談1	卒論の対象を明確にしておく
	4. 個別面談2	卒論の対象を明確にしておく
	5. 論文執筆の基礎	卒論で解明したい謎を明確にしておく
	6. 個別指導1	卒論で解明したい謎を明確にしておく
	7. 個別指導2	卒論で謎を解明するためのアプローチを明確にしておく
	8. 個別指導3	卒論で謎を解明するためのアプローチを明確にしておく
	9. グループ内での中間発表1	
	10. グループ内での中間発表2	
	11. 個別指導4	
	12. 個別指導5	
	13. 個別指導6	
	14. グループ内での中間発表3	
	15. グループ内での中間発表4	
	16. 論文の書式	
	17. 論文の文体1	
	18. 論文の文体2	9月下旬～10月初旬に卒論合宿を行う
	19. 個別指導7	
	20. 個別指導8	
	21. 個別指導9	
	22. 論文相互添削1	
	23. 論文相互添削2	
	24. 個別指導10	11月中旬にプレ論文をマナビーで提出する
	25. 個別指導11	
	26. 個別指導12	
	27. 振り返り	
	28. 振り返り	
	29. 振り返り	
	30. 振り返り	

受講者へのメッセージやアドバイス:

★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！

フィードバックの方法:

個別指導の中でコメントする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	受講態度	30	受講の態度(出席状況を含む)や積極性を総合的に考慮して評価する。
	ディスカッション	30	ディスカッションでの貢献度を総合的に考慮して評価する。
	中間発表	40	中間発表の完成度を総合的に考慮して評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

学内メール:kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要: 論文を完成する

到達目標: 論文の形式で書くことを目指す

授業方法: 演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 2名論文概要発表	レジュメ作成
	2. 2名論文概要発表	レジュメ作成
	3. 2名論文概要発表	レジュメ作成
	4. 2名論文概要発表	レジュメ作成
	5. 2名論文概要発表	レジュメ作成
	6. 2名論文概要発表	レジュメ作成
	7. 2名論文概要発表	レジュメ作成
	8. 2名論文概要発表	レジュメ作成
	9. 論文とはの概説	不要
	10. 重要項目(自分の意見)	不要
	11. データと意見があること	不要
	12. 論文の構成	不要
	13. 論文の要旨発表(5名)	要旨をまとめてくる(5名)
	14. 論文の要旨発表(5名)	要旨をまとめてくる(5名)
	15. 論文の要旨発表(5名)	要旨をまとめてくる(5名)
	16. 論文の執筆準備	要点を並べてくる(5名)
	17. 論文の執筆準備	要点を並べてくる(5名)
	18. 論文の執筆準備	要点を並べてくる(5名)
	19. 論文の提出・発表	論文の全文執筆(7名)
	20. 論文の提出・発表	論文の全文執筆(7名)
	21. 面談	論文を書き直してくる
	22. 面談	論文を書き直してくる
	23. 面談	論文を書き直してくる
	24. 読み合わせ	書き直した論文を持ってくる
	25. 読み合わせ	書き直した論文を持ってくる
	26. 読み合わせ	書き直した論文を持ってくる
	27. 反省会	簡単な反省レジュメ作成(4名)
	28. 反省会	簡単な反省レジュメ作成(4名)
	29. 反省会	簡単な反省レジュメ作成(4名)
	30. 反省会	簡単な反省レジュメ作成(4名)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

口頭試問

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	論文	100%	論旨が通っているか、自分の意見があるか

教科書: なし

参考書: なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 創造力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: メール soumen1949@docomo.ne.jp

授業テーマ:	卒業論文作成に向けて取り組む授業である		
授業の概要:	四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。 開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。		
到達目標:	①卒業論文作成のために必要な知識を集める(知識・理解) ②卒業論文作成のために論理的に考え、解決の方法を工夫し、主体的に取り組む(関心・意欲・態度) ③問題の設定、問題解決の方法、収集した情報の整理、推論の過程、その結果得られた結論を明快にわかりやすく論述し、卒業論文を完成させる。(表現・技能・能力)		
授業方法:	演習方式で行う。各自が事前に用意した進捗報告やデータをもとにディスカッションをし、対話を通して次の問題点を見つけ、解決策とともに考える。データがまとまり、文章としての執筆に入る際に合宿を行う。		

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	ガイダンス	特になし
	2.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	3.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	4.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	5.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	6.	発表の総括と合評会	特になし
	7.	第二回発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	8.	第二回発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	9.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	10.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	11.	進捗発表	特になし
	12.	進捗発表	個別に質問ができるように各自進捗をまとめておく。
	13.	中間発表会準備	個別に質問ができるように各自進捗をまとめておく。
	14.	中間発表会	パワーポイントによるプレゼンテーションを準備すること。
	15.	夏休みに向けての計画	夏休みの計画を具体的に書いてくること。
	16.	夏休み進捗発表会	夏休みの成果を第一次草稿としてまとめてくること。
	17.	卒論作成に向けて	卒論執筆についての基礎的事項の確認と今後の計画立案
	18.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	19.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	20.	進捗発表	個別に質問ができるように各自進捗をまとめておく。
	21.	進捗発表	個別に質問ができるように各自進捗をまとめておく。
	22.	中間発表会	第二稿を提出する。
	23.	進捗発表	草稿
	24.	論文執筆について	作成過程の草稿
	25.	個別指導期間	各自論文執筆を進める
	26.	個別指導期間	各自論文執筆を進める
	27.	卒業論文反省会	特になし
	28.	卒業論文反省会	特になし
	29.	卒業論文合評会	特になし
	30.	卒業論文合評会	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス: 指示を待つのではなく問題解決に向けて主体的にとりくむこと。

フィードバックの方法: Eメールによる(アドレスは授業時に開示する)

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Eメールによる(アドレスは授業時に開示する)

授業テーマ:

卒業論文の作成

授業の概要:

各自の設定した課題、それを解くための予備調査を発表し、設定課題の意義の有無、調査方法の有効性などについての意見を聞き、修正を加える。その作業を可能な限り幾度も繰り返して行う。

到達目標:

卒業論文と呼べるに値するものを完成させる。

授業方法:

演習。時に講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の進め方についての説明など	
2.	第1回目の発表①	各自当日発表のためのレジメを用意すること
3.	第1回目の発表②	同上
4.	第1回目の発表③	同上
5.	第1回目の発表④	同上
6.	第2回目の発表①	前回の発表時に受けた意見を考慮して書き直したレジメを用意すること
7.	第2回目の発表②	同上
8.	第2回目の発表③	同上
9.	第2回目の発表④	同上
10.	第3回目の発表①	同上
11.	第3回目の発表②	同上
12.	第3回目の発表③	同上
13.	第3回目の発表④	同上
14.	これまでの各自の発表についての全体的なコメント①	同上
15.	これまでの各自の発表についての全体的なコメント①	同上
16.	これからの作業の段取りについて	
17.	第4回目の発表①	論文全体の構成が分かるようなレジメを用意すること
18.	第4回目の発表②	同上
19.	第4回目の発表③	同上
20.	第4回目の発表④	同上
21.	第5回目の発表①	前回の発表時に受けた意見を考慮したレジメを用意すること
22.	第5回目の発表②	同上
23.	第5回目の発表③	同上
24.	第5回目の発表④	同上
25.	第6回目の発表①	草稿レベルのレジメを用意すること
26.	第6回目の発表②	同上
27.	第6回目の発表③	同上
28.	第6回目の発表④	同上
29.	提出論文の講評①	
30.	提出論文の講評②	

受講者へのメッセージやアドバイス:

上記「授業内容」は各自の論文の進捗状態状況によって変更することがある。自分の研究の過程で他の人の研究の参考になることを発見することがあるので、他の人の研究テーマを覚えておき、相互に提供しあうこと。必要に応じて夏休み中に中間発表会を行う。

フィードバックの方法:

授業の中で、行うことを原則とする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	提出論文	100	取り上げた内容の価値と論文の完成度による。

教科書:

なし

参考書:

各自のテーマに応じて随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール OA

授業テーマ:	卒業論文作成に向けて取り組む授業である。		
授業の概要:	四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。		
到達目標:	論文作成を通じて、客観的・科学的なデータ収集・整理・分析の力、論理的な考察の力、分かり易く明確に表現する力をつける。長期的な目標に向かって自己管理する力をつける。		
授業方法:	学生の発表、議論と個別指導を中心とする。授業外にも随時指導を受けることができる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1.	今後の授業方針の打合せ	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	2.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	3.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	4.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	5.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	6.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	7.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	8.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	9.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	10.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	11.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	12.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	13.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	14.	夏休みに向けての相談	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	15.	夏休みに向けての相談	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	16.	休み明けの成果発表	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	17.	休み明けの成果発表	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	18.	休み明けの成果発表	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	19.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	20.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	21.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	22.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	23.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	24.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	25.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	26.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	27.	ふりかえり・講評	提出した卒業論文を見直してくること。
	28.	ふりかえり・講評	提出した卒業論文を見直してくること。
	29.	ふりかえり・講評	提出した卒業論文を見直してくること。
	30.	総まとめ	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。		

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡
方法:

マナビーから、あるいは、研究室などでの面談による。

授業テーマ:	卒業論文を作成する																																																																
授業の概要:	4年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査のうえ、十分な考察をくわえて卒業論文を作成する。開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進捗状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。																																																																
到達目標:	①科学的なデータデータを収集・整理・分析する能力をやしなう。 ②論理的に考察する能力をやしなう。 ③平明にして達意の文章表現力をやしなう。																																																																
授業方法:	学生による発表と学生相互の質疑応答を中心とする。																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>2. 第1回発表(1)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>3. 第1回発表(2)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>4. 第1回発表(3)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>5. 第1回の発表の総括と合評</td><td>第1回の発表の振り返りをおこなう。</td></tr><tr><td>6. 第2発表(1)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>7. 第2回発表(2)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>8. 第2回発表(3)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>9. 第2回発表の総括と合評</td><td>第2回の発表の振り返りをおこなう。</td></tr><tr><td>10. 春学期中間発表会(1)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>11. 春学期中間発表会(2)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>12. 春学期中間発表会(3)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>13. 春学期の中間発表会(4)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>14. 春学期の中間発表会(5)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>15. 春学期の総括</td><td>夏季休暇中の課題を設定する。</td></tr><tr><td>16. 秋学期の中間発表会(1)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>17. 秋学期の中間発表会(2)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>18. 秋学期の中間発表会(3)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>19. 秋学期の中間発表会(4)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>20. 秋学期の中間発表会(5)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>21. 個別指導(1)</td><td>草稿の執筆。</td></tr><tr><td>22. 個別指導(2)</td><td>草稿の執筆。</td></tr><tr><td>23. 個別指導(3)</td><td>草稿の執筆。</td></tr><tr><td>24. 個別指導(4)</td><td>草稿の執筆。</td></tr><tr><td>25. 個別指導(5)</td><td>草稿の執筆。</td></tr><tr><td>26. 個別指導(6)</td><td>草稿の執筆。</td></tr><tr><td>27. 卒業論文反省会(1)</td><td>自分の卒論を再読すること。</td></tr><tr><td>28. 卒業論文反省会(2)</td><td>自分の卒論を再読すること。</td></tr><tr><td>29. 卒業論文反省会(3)</td><td>自分の卒論を再読すること。</td></tr><tr><td>30. 総まとめ</td><td>「卒論をかきおえて」等の題目でエッセイを作成すること。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション	報告または質疑の準備をする。	2. 第1回発表(1)	報告または質疑の準備をする。	3. 第1回発表(2)	報告または質疑の準備をする。	4. 第1回発表(3)	報告または質疑の準備をする。	5. 第1回の発表の総括と合評	第1回の発表の振り返りをおこなう。	6. 第2発表(1)	報告または質疑の準備をする。	7. 第2回発表(2)	報告または質疑の準備をする。	8. 第2回発表(3)	報告または質疑の準備をする。	9. 第2回発表の総括と合評	第2回の発表の振り返りをおこなう。	10. 春学期中間発表会(1)	報告または質疑の準備をする。	11. 春学期中間発表会(2)	報告または質疑の準備をする。	12. 春学期中間発表会(3)	報告または質疑の準備をする。	13. 春学期の中間発表会(4)	報告または質疑の準備をする。	14. 春学期の中間発表会(5)	報告または質疑の準備をする。	15. 春学期の総括	夏季休暇中の課題を設定する。	16. 秋学期の中間発表会(1)	報告または質疑の準備をする。	17. 秋学期の中間発表会(2)	報告または質疑の準備をする。	18. 秋学期の中間発表会(3)	報告または質疑の準備をする。	19. 秋学期の中間発表会(4)	報告または質疑の準備をする。	20. 秋学期の中間発表会(5)	報告または質疑の準備をする。	21. 個別指導(1)	草稿の執筆。	22. 個別指導(2)	草稿の執筆。	23. 個別指導(3)	草稿の執筆。	24. 個別指導(4)	草稿の執筆。	25. 個別指導(5)	草稿の執筆。	26. 個別指導(6)	草稿の執筆。	27. 卒業論文反省会(1)	自分の卒論を再読すること。	28. 卒業論文反省会(2)	自分の卒論を再読すること。	29. 卒業論文反省会(3)	自分の卒論を再読すること。	30. 総まとめ	「卒論をかきおえて」等の題目でエッセイを作成すること。		
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. オリエンテーション	報告または質疑の準備をする。																																																																
2. 第1回発表(1)	報告または質疑の準備をする。																																																																
3. 第1回発表(2)	報告または質疑の準備をする。																																																																
4. 第1回発表(3)	報告または質疑の準備をする。																																																																
5. 第1回の発表の総括と合評	第1回の発表の振り返りをおこなう。																																																																
6. 第2発表(1)	報告または質疑の準備をする。																																																																
7. 第2回発表(2)	報告または質疑の準備をする。																																																																
8. 第2回発表(3)	報告または質疑の準備をする。																																																																
9. 第2回発表の総括と合評	第2回の発表の振り返りをおこなう。																																																																
10. 春学期中間発表会(1)	報告または質疑の準備をする。																																																																
11. 春学期中間発表会(2)	報告または質疑の準備をする。																																																																
12. 春学期中間発表会(3)	報告または質疑の準備をする。																																																																
13. 春学期の中間発表会(4)	報告または質疑の準備をする。																																																																
14. 春学期の中間発表会(5)	報告または質疑の準備をする。																																																																
15. 春学期の総括	夏季休暇中の課題を設定する。																																																																
16. 秋学期の中間発表会(1)	報告または質疑の準備をする。																																																																
17. 秋学期の中間発表会(2)	報告または質疑の準備をする。																																																																
18. 秋学期の中間発表会(3)	報告または質疑の準備をする。																																																																
19. 秋学期の中間発表会(4)	報告または質疑の準備をする。																																																																
20. 秋学期の中間発表会(5)	報告または質疑の準備をする。																																																																
21. 個別指導(1)	草稿の執筆。																																																																
22. 個別指導(2)	草稿の執筆。																																																																
23. 個別指導(3)	草稿の執筆。																																																																
24. 個別指導(4)	草稿の執筆。																																																																
25. 個別指導(5)	草稿の執筆。																																																																
26. 個別指導(6)	草稿の執筆。																																																																
27. 卒業論文反省会(1)	自分の卒論を再読すること。																																																																
28. 卒業論文反省会(2)	自分の卒論を再読すること。																																																																
29. 卒業論文反省会(3)	自分の卒論を再読すること。																																																																
30. 総まとめ	「卒論をかきおえて」等の題目でエッセイを作成すること。																																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	他のゼミ仲間の研究テーマにも十分に関心をもち、適宜、疑問点を指摘したり、提案などができるようにつとめること。人の研究からも直接・間接に何かをまなびとろうとする努力を常におこたらないように。																																																																
フィードバックの方法:	基本的には授業時におこなう。																																																																
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>卒業論文</td><td>100</td><td>卒業論文の完成度・論文作成に対してかたむけた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度をふくむ)を総合的に考慮して評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対してかたむけた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度をふくむ)を総合的に考慮して評価する。																																																										
評価方法	割合	評価基準																																																															
卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対してかたむけた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度をふくむ)を総合的に考慮して評価する。																																																															
教科書:																																																																	
参考書:																																																																	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力。																																																																
教員との連絡方法:	オフィスアワー。Eメール。																																																																

授業テーマ:

卒業論文作成に向けての取り組み

授業の概要:

各自で研究テーマを設定し、資料を収集・調査した上で十分な考察を加え、卒業研究を行う。

到達目標:

卒業論文を作成すること

授業方法:

前半3回は教師が講義を行う。その後は、個人指導とする。ただし、全員が出席するクラス授業として、夏休みの前後2回、中間発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究遂行と卒業論文執筆における基本的事項の確認 1	レジメを読んでおく。
2.	卒業研究遂行と卒業論文執筆における基本的事項の確認 2	各自のテーマをもとに、基本的事項を確認する。
3.	卒業研究遂行と卒業論文執筆における基本的事項の確認 3	各自のテーマをもとに、基本的事項を確認する。
4.	個人指導 1	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
5.	個人指導 2	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
6.	個人指導 3	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
7.	中間発表 1	中間発表1の準備をする。
8.	中間発表 2	中間発表2の準備をする。
9.	個人指導 4	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
10.	個人指導 5	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
11.	個人指導 6	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
12.	個人指導 7	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
13.	個人指導 8	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
14.	個人指導 9	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
15.	個人指導 10	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
16.	中間発表 3	中間発表3の準備をする。
17.	個人指導 11	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
18.	個人指導 12	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
19.	個人指導 13	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
20.	個人指導 14	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
21.	個人指導 15	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
22.	個人指導 16	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
23.	個人指導 17	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
24.	個人指導 18	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
25.	個人指導 19	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
26.	個人指導 20	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
27.	個人指導 21	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
28.	個人指導 22	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
29.	振り返り 1	卒業研究の過程を成果を内省する。
30.	振り返り 2	卒業研究の過程を成果を内省する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

卒業研究は、4年間の学業の華・果実である。自分自身が大学でどういうことに興味を持ち、それをどう学んだか、その学びの成果を自分自身でどう組み立てたかが問われる。そのことを、十二分に心得ること。卒業論文は言われたから出すような位置づけにはない。まして、ちょっと長めのレポートなどではないし出せば通るというものでももちろんない。自分で自分に課す課題で、自分で評価すべきものがある。

フィードバックの方法:

個人指導を通して、フィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文	100%	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

教科書:

マナビーで指示する。

参考書:	都度、指示する。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法:	以下のアドレを使用すること。 kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	卒業論文作成に向けて取り組む授業																																																																
授業の概要:	四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成します。 開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を教員に報告し、指導を受けることを要します。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこと。																																																																
到達目標:	自らが設定した問題について追究し、自らの考えを構築し発信する作業である主体的学習活動を通じ、以下の能力や態度を養うことを到達目標とします。 ①自ら問題を設定し、それらの問題を解決するために必要な情報を収集、整理し、実証的、論理的、多角的に物事を考えることができる。 ②論理的に思考し、その結果を適正な日本語を用いて分かりやすく伝えることができる。 ③異なる文化・言語を背景に持つ人の視点等、多角的な視点から日本語・日本文化に迫り、理解を深めると同時に、異文化への柔軟な態度や社会貢献の姿勢をもはぐくむ。 ④自分の考えを持ち、自分を表現できる真の国際人としての態度を培う。 ⑤生涯にわたって学び、真理探求することで今後の自己形成につなげていくことができる態度を培う。																																																																
授業方法:	講義のほか、卒業研究に関する発表および討論・助言、個別の執筆指導などの方法で進めます。																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション、進捗状況の報告</td><td>3年次末に完成させた研究計画書、および、春休み中に進めた研究内容のまとめを報告・提出できる準備をしておく。</td></tr><tr><td>2. 卒業論文の構成、文章作法</td><td>配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを読んでおく。</td></tr><tr><td>3. パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。</td><td>配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを読んでおく。 序論や調査の概要(研究方法)を書き進める。</td></tr><tr><td>4. パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。</td><td>配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを参照しながら、書き進める。</td></tr><tr><td>5. パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。</td><td>配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを参照しながら、書き進める。</td></tr><tr><td>6. 発表</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>7. 発表</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>8. 発表</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>9. 発表</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>10. 発表</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>11. まとめ</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>12. 先行研究の章を書く。</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>13. 先行研究の章を書く。</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>14. 先行研究の章を書く。</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>15. 序論、調査の概要(研究方法)、先行研究の各章の下書きを完成させる。</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>16. 中間発表</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>17. 中間発表</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>18. 中間発表</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>19. 中間発表</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>20. 個人指導</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>21. 個人指導</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>22. 個人指導</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>23. 個人指導</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>24. 個人指導</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>25. 個人指導</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>26. 個人指導</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>27. 個人指導</td><td>各自研究を進める。</td></tr><tr><td>28. ふりかえり</td><td>自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。</td></tr><tr><td>29. ふりかえり</td><td>自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。</td></tr><tr><td>30. ふりかえりと総評</td><td>自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション、進捗状況の報告	3年次末に完成させた研究計画書、および、春休み中に進めた研究内容のまとめを報告・提出できる準備をしておく。	2. 卒業論文の構成、文章作法	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを読んでおく。	3. パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを読んでおく。 序論や調査の概要(研究方法)を書き進める。	4. パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを参照しながら、書き進める。	5. パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを参照しながら、書き進める。	6. 発表	各自研究を進める。	7. 発表	各自研究を進める。	8. 発表	各自研究を進める。	9. 発表	各自研究を進める。	10. 発表	各自研究を進める。	11. まとめ	各自研究を進める。	12. 先行研究の章を書く。	各自研究を進める。	13. 先行研究の章を書く。	各自研究を進める。	14. 先行研究の章を書く。	各自研究を進める。	15. 序論、調査の概要(研究方法)、先行研究の各章の下書きを完成させる。	各自研究を進める。	16. 中間発表	各自研究を進める。	17. 中間発表	各自研究を進める。	18. 中間発表	各自研究を進める。	19. 中間発表	各自研究を進める。	20. 個人指導	各自研究を進める。	21. 個人指導	各自研究を進める。	22. 個人指導	各自研究を進める。	23. 個人指導	各自研究を進める。	24. 個人指導	各自研究を進める。	25. 個人指導	各自研究を進める。	26. 個人指導	各自研究を進める。	27. 個人指導	各自研究を進める。	28. ふりかえり	自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。	29. ふりかえり	自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。	30. ふりかえりと総評	自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。		
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. オリエンテーション、進捗状況の報告	3年次末に完成させた研究計画書、および、春休み中に進めた研究内容のまとめを報告・提出できる準備をしておく。																																																																
2. 卒業論文の構成、文章作法	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを読んでおく。																																																																
3. パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを読んでおく。 序論や調査の概要(研究方法)を書き進める。																																																																
4. パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを参照しながら、書き進める。																																																																
5. パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを参照しながら、書き進める。																																																																
6. 発表	各自研究を進める。																																																																
7. 発表	各自研究を進める。																																																																
8. 発表	各自研究を進める。																																																																
9. 発表	各自研究を進める。																																																																
10. 発表	各自研究を進める。																																																																
11. まとめ	各自研究を進める。																																																																
12. 先行研究の章を書く。	各自研究を進める。																																																																
13. 先行研究の章を書く。	各自研究を進める。																																																																
14. 先行研究の章を書く。	各自研究を進める。																																																																
15. 序論、調査の概要(研究方法)、先行研究の各章の下書きを完成させる。	各自研究を進める。																																																																
16. 中間発表	各自研究を進める。																																																																
17. 中間発表	各自研究を進める。																																																																
18. 中間発表	各自研究を進める。																																																																
19. 中間発表	各自研究を進める。																																																																
20. 個人指導	各自研究を進める。																																																																
21. 個人指導	各自研究を進める。																																																																
22. 個人指導	各自研究を進める。																																																																
23. 個人指導	各自研究を進める。																																																																
24. 個人指導	各自研究を進める。																																																																
25. 個人指導	各自研究を進める。																																																																
26. 個人指導	各自研究を進める。																																																																
27. 個人指導	各自研究を進める。																																																																
28. ふりかえり	自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。																																																																
29. ふりかえり	自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。																																																																
30. ふりかえりと総評	自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。																																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	・発表の際は、自身の研究の単なる経過報告に止まらず、他者の意見が聞きたい点・議論したい点も明確に示すことで、ゼミの場が活かされます。十分な準備をして臨みましょう。 ・卒論と就職活動や進学準備との両立はなかなか大変ですが、緩急はつけながらも手を止めず、こつこつと研究を進めるようにしましょう。 ・卒業論文は指導教官の指導を受けながら進めるものです。どんなときも指導教官との連絡を絶やさない！これは絶対に守ってください。																																																																
フィードバックの方法:	授業のほか、メールや面談で行います。																																																																
「成績評価方法」:	評価方法	割合	評価基準																																																														
「成績評価基準」:	卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。																																																														
教科書:																																																																	
参考書:	授業や個人指導のなかで、それぞれの研究に参考になるものを紹介します。																																																																

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

調査、発表、執筆など一連の作業を通じて、四年間の学びの集大成となる卒業論文を完成させる。

授業の概要:

開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受ける。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。

到達目標:

四年間に身につけた技能を応用し、各自の問題意識に基づく問への答えを導く。必要な資料を収集、調査し、十分な考察を加えた卒業論文を完成させる。

授業方法:

春学期には中間発表を各自一回行う。
秋学期には夏休み中に書き上げた論文の下書きに基づき、個別に指導する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	全体での打ち合わせ(春学期)／基礎文献、参考文献などの紹介、今後の進め方についてのオリエンテーション	構想、概要について説明できるようにしておく。
2.	論文の計画についての個別指導	各自の関心、主題、問に基づき、必要な準備を進める。
3.	論文の計画についての個別指導	各自の関心、主題、問に基づき、必要な準備を進める。
4.	論文の計画についての個別指導	各自の関心、主題、問に基づき、必要な準備を進める。
5.	論文の計画についての個別指導	各自の関心、主題、問に基づき、必要な準備を進める。
6.	論文の計画についての個別指導	各自の関心、主題、問に基づき、必要な準備を進める。
7.	学生による中間発表	執筆中の論文についての中間発表を行い、参加者全員でディスカッションを行う。今後に向けての課題や必要な作業について確認し、計画的に執筆を進める。
8.	学生による中間発表	執筆中の論文についての中間発表を行い、参加者全員でディスカッションを行う。今後に向けての課題や必要な作業について確認し、計画的に執筆を進める。
9.	学生による中間発表	執筆中の論文についての中間発表を行い、参加者全員でディスカッションを行う。今後に向けての課題や必要な作業について確認し、計画的に執筆を進める。
10.	学生による中間発表	執筆中の論文についての中間発表を行い、参加者全員でディスカッションを行う。今後に向けての課題や必要な作業について確認し、計画的に執筆を進める。
11.	学生による中間発表	執筆中の論文についての中間発表を行い、参加者全員でディスカッションを行う。今後に向けての課題や必要な作業について確認し、計画的に執筆を進める。
12.	学生による中間発表	執筆中の論文についての中間発表を行い、参加者全員でディスカッションを行う。今後に向けての課題や必要な作業について確認し、計画的に執筆を進める。
13.	学生による中間発表	執筆中の論文についての中間発表を行い、参加者全員でディスカッションを行う。今後に向けての課題や必要な作業について確認し、計画的に執筆を進める。
14.	学生による中間発表	執筆中の論文についての中間発表を行い、参加者全員でディスカッションを行う。今後に向けての課題や必要な作業について確認し、計画的に執筆を進める。
15.	今後に向けて	執筆と発表から得た気づきをもとに、さらなる執筆を進める。
16.	全体での打ち合わせ(秋学期)／今後の進め方についてのオリエンテーション	執筆中の論文について、問と答え(の概要)を示せるようにしておく。
17.	論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。
18.	論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。
19.	論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。
20.	論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。
21.	論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。
22.	論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。
23.	論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。
24.	論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。
25.	論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。
26.	論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。
27.	ふりかえり	これまでをふりかえり、気づきや課題についてまとめる。
28.	ふりかえり	これまでをふりかえり、気づきや課題についてまとめる。
29.	ふりかえり	これまでをふりかえり、気づきや課題についてまとめる。
30.	ふりかえり	これまでをふりかえり、気づきや課題についてまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

適宜相談の機会を設け、不安や迷いがあれば一緒に解消していきたいと思います。発表やディスカッションもその助けになります。随時、スケジュールを確認しながら進めていきましょう。

フィードバックの方法:

個別指導時に行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に傾けた努力の度合(出席状況・授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

教科書:

随時、指示する。

参考書:

随時、指示する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Eメール(初回で案内する)

授業テーマ:	卒業論文の完成		
授業の概要:	「卒業研究」に準じる		
到達目標:	卒業論文の完成を通じ、自律的な問題解決の態度と思考力を身につける		
授業方法:	担当教員の指導を受け、卒業論文を完成させ提出する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. なし	なし	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	「卒業研究」に準じる		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法 卒業論文	割合 100%	評価基準 「卒業研究」の合格を必要条件とし、主査及び副査により下記の点を審査して評価する。卒業論文は、担当教員より十分な指導を受け、所定の期限内に提出されたものでなければならない。 (1) 卒業論文の完成度。 (2) 卒業論文の書式等が「卒業論文作成ガイド」(学科で配布)に準拠していること。 ※卒業論文は、原則として、論文形式で提出する。ただし、分野やテーマの特性上、論文形式になじまない場合は、指導教員の許可と学科主任の承認を受けて、論文相当の成果物を提出することができる。
教科書:	なし		
参考書:	担当教員の指示による		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己実現力		
教員との連絡方法:	「卒業研究」の授業		

授業テーマ:

日本語学の研究方法

授業の概要:

主に、コーパスに立脚した言語研究の方法を扱う。コーパスからのデータ取得と、テキストファイル処理の技術を身につける。コーパスを用いた研究例や研究にあたって注意すべき点を学ぶ。各自関心のある問題について分析を行い、議論する。

到達目標:

コーパスを用いて日本語の研究を行う上での問題点を理解し、自らデータを取得・加工し、分析に利用できる技術を身につける。

授業方法:

講義・講読・実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業内容の説明	
	2. 回により、講義、文献の講読、データ取得・処理の実習、課題発表、議論 以下同じ	指定された文献を事前に読み、課題を行ってくる。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
	3. 総まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

ノートPC(Windows)を持っている人は持参、持っていない人はUSBメモリー等を持参のこと。
毎回、相当量の課題がある。それらを行って来ない場合、授業の理解は困難である。

フィードバックの方法:

課題については総括的にコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	毎回の課題	40	課題を通じて、到達目標に向けての進歩が見られたかを評価する。
	授業への参加態度	30	授業へのとりくみを通じて、到達目標に向けての進歩が見られたかを評価する。
	最終レポート	30	コーパスを用いた日本語分析の力がついたかを評価する。

教科書:

参考書:

『講座日本語コーパス6 コーパスと日本語学』朝倉書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

マナビーから、または、面談

授業テーマ:	ヘボン訳『真理易知』の訳文を検討する。		
授業の概要:	和訳『真理易知』は禁教下に印刷され頒布された最古のキリスト教伝道小冊子であり、ヘボンの最初の聖句和訳であるとされるが、初訳と改訳とがある。授業では二つの日本語訳を比較しながら読み進め、それぞれの訳が果たした時代的役割について考える。		
到達目標:	①原文および初訳本の日本キリスト教伝道に果たした役割を明らかにする。 ②改訳とヘボン訳福音書の日本語訳との関係を明らかにする。		
授業方法:	演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 『真理易知』について・講義	禁止教下のキリスト教関係の書物出版について調べておくこと。	
	2. ヘボン訳福音書について・講義	ヘボンについて学習しておくこと。	
	3. 『真理易知』第1章会読①	授業で扱う範囲の文章の漢文の原文および初訳と改訳とを対照させたものが制作すること。	
	4. 『真理易知』第1章会読②	同上	
	5. 『真理易知』第2章会読①	同上	
	6. 『真理易知』第2章会読②	同上	
	7. 『真理易知』第3章会読①	同上	
	8. 『真理易知』第3章会読②	同上	
	9. 『真理易知』第4章会読①	同上	
	10. 『真理易知』第4章会読②	同上	
	11. 『真理易知』第5章会読①	同上	
	12. 『真理易知』第5章会読②	同上	
	13. 『真理易知』第6章会読①	同上	
	14. 『真理易知』第6章会読②	同上	
	15. 『真理易知』第7章会読①	同上	
	16. 『真理易知』第7章会読②	同上	
	17. 『真理易知』第8章会読①	同上	
	18. 『真理易知』第8章会読②	同上	
	19. 『真理易知』第9章会読①	同上	
	20. 『真理易知』第9章会読②	同上	
	21. 『真理易知』第10章会読①	同上	
	22. 『真理易知』第10章会読②	同上	
	23. 『真理易知』第11章会読①	同上	
	24. 『真理易知』第11章会読②	同上	
	25. 見出された問題の整理1		
	26. 見出された問題の整理2		
	27. 見出された問題の整理3		
	28. 見出された問題の整理4		
	29. 見出された問題の整理5		
	30. 今後の課題について		
受講者へのメッセージやアドバイス:	進度は受講者との話し合いによって変更することがある。		
フィードバックの方法:	授業時の活発な意見交換を望む。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	50	レジュメの正確さを重視する。
	レポート	50	独自の観点があることを重視する。
教科書:	市販なし。こちらでコピーを用意する。		
参考書:	第1講時にまとめて紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	OA。授業時。Eメール		

授業テーマ:

授業の概要:『更級日記』を読む

到達目標:時間表現を通して『更級日記』を読む

授業方法:演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 概説	不要
	2. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	3. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	4. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	5. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	6. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	7. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	8. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	9. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	10. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	11. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	12. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	13. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	14. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	15. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	16. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	17. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	18. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	19. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	20. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	21. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	22. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	23. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	24. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	25. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	26. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	27. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	28. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	29. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	30. 演習各回2ページ	発表者レジюме作成、発表者以外は本文を読んでもること
	レポート提出	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:レポート

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	80%	論文としての形式を保っているか
	出席	20%	

教科書:

影印本を各自購入のこと

参考書:

なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

メール soumen1949@docomo.ne.jp

授業テーマ:

今日の社会と日本語教育

授業の概要:

「留学生10万人計画」以降の日本語教育の変遷を取り上げ、社会と外国語教育がどのように関わるかを考える。

到達目標:

①「留学生10万人計画」以降の日本語教育を取り巻く社会的状況を理解すること
②①の状況下において、日本語教育がどのような質の変化を見せたかを理解すること
③社会のありようが外国語教育にどのように影響するか、その仕組みを国内の日本語教育の変遷を通して学ぶこと

授業方法:

演習形式。「留学生10万人計画」以降の日本語教育を4期に分け、実際の新聞記事などの読解やニュース・特集番組などの視聴を通して、社会の流れとそれによって日本語教育がどのような影響を受けたか、今日の日本語教育に何が求められているかを考える。したがって、ほとんど毎回VTRを視聴する。また、各期テーマを設け、それについて各自調べ発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	修士課程で学ぶことに関するオリエンテーション	レジメを読んでおく。
2.	「留学生10万人計画」以降の「教員養成期」「機関整備期」を理解する。 1	「留学生10万人計画」について調べておく。発表が当たっている場合は準備する。
3.	「留学生10万人計画」以降の「教員養成期」「機関整備期」を理解する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
4.	「留学生10万人計画」以降の「教員養成期」「機関整備期」を理解する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
5.	「留学生10万人計画」以降の「教員養成期」「機関整備期」を理解する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
6.	「留学生10万人計画」以降の「教員養成期」「機関整備期」を理解する。 5	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
7.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 1	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
8.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
9.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
10.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
11.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 5	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
12.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 6	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
13.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 7	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
14.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 8	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
15.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」について解説する。 9	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
16.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 10	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
17.	「留学生10万人計画」以降の「日本語教育見直し期」を理解する。 1	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
18.	「留学生10万人計画」以降の「日本語教育見直し期」について理解する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
19.	「留学生10万人計画」以降の「日本語教育見直し期」を理解する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
20.	「留学生10万人計画」以降の「日本語教育見直し期」を理解する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
21.	「留学生10万人計画」以降の「日本語教育見直し期」を理解する。 5	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
22.	日本語教育に関わる今日の新しい社会の動きについて理解する。 1	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
23.	日本語教育に関わる今日の新しい社会の動きを理解する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
24.	日本語教育に関わる今日の新しい社会の動きを理解する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
25.	日本語教育に関わる今日の新しい社会の動きを理解する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
26.	日本語教育に関わる今日の新しい社会の動きを理解する。 5	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
27.	「留学生10万人計画」以降の日本語教育の流れを踏まえた上で、今後の課題について検討する。 1	「留学生10万人計画」以降の動きをまとめた上で、レジメを読んでおく。
28.	「留学生10万人計画」以降の日本語教育の流れを踏まえた上で、今後の課題について検討する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
29.	「留学生10万人計画」以降の日本語教育の流れを踏まえた上で、今後の課題について検討する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
30.	「留学生10万人計画」以降の日本語教育の流れを踏まえた上で、今後の課題について検討する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中並びに前後に対応する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法		評価基準
	授業への積極的な参加度	割合 60%	
	発表	40%	教師への質疑応答並びに発表者への質疑応答などを通して、到達目標①～③がいかに達成されたかを評価する。ただし、正当な理由なく5回以上欠席した場合は不可とする。
教科書:	マナビー参照のこと。		発表内容とその仕方を、①～③の観点から評価する。
参考書:	都度、指示する。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡 方法:	以下のアドレス使用すること。 kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

京都イメージの再検討

授業の概要:

京都イメージは多様であるが、〈古都〉であることは共通認識であろう。観光客が見る京都と、住民が見る京都では、同じ景観でも見え方が異なる。それは景観の背後に日常生活や年中行事が営まれているから、当然のことである。たとえ学生の4年間でも住めば住民であるし、長い歳月の間には日常生活や年中行事も変遷している。外側の視点と、内側の視点から、現在の京都と、1200年の歴史をもつ京都を重ねて検証し、〈古都〉のイメージの形成過程について、考えてみよう。

到達目標:

①授業内容の理解。②疑問点・問題点の指摘。③各自の課題の発見。

授業方法:

各自の発表を基本とし、質疑応答によって課題の所在を明確にして、考察を深める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 授業テーマの趣旨説明。参考文献解説。発表準備の指導。	適宜、参考文献を通覧する。
2. 発表・質疑応答①	配布資料と参考文献の通覧。
3. 講評・質疑応答①	配布資料と参考文献の通覧。
4. 発表・質疑応答②	配布資料と参考文献の通覧。
5. 講評・質疑応答②	配布資料と参考文献の通覧。
6. 発表・質疑応答③	配布資料と参考文献の通覧。
7. 講評・質疑応答③	配布資料と参考文献の通覧。
8. 発表・質疑応答④	配布資料と参考文献の通覧。
9. 講評・質疑応答④	配布資料と参考文献の通覧。
10. 発表・質疑応答⑤	配布資料と参考文献の通覧。
11. 講評・質疑応答⑤	配布資料と参考文献の通覧。
12. 発表・質疑応答⑥	配布資料と参考文献の通覧。
13. 講評・質疑応答⑥	配布資料と参考文献の通覧。
14. 発表・質疑応答⑦	配布資料と参考文献の通覧。
15. 講評・質疑応答⑦	配布資料と参考文献の通覧。
16. 発表・質疑応答⑧	配布資料と参考文献の通覧。
17. 講評・質疑応答⑧	配布資料と参考文献の通覧。
18. 発表・質疑応答⑨	配布資料と参考文献の通覧。
19. 講評・質疑応答⑨	配布資料と参考文献の通覧。
20. 発表・質疑応答⑩	配布資料と参考文献の通覧。
21. 講評・質疑応答⑩	配布資料と参考文献の通覧。
22. 発表・質疑応答⑪	配布資料と参考文献の通覧。
23. 講評・質疑応答⑪	配布資料と参考文献の通覧。
24. 発表・質疑応答⑫	配布資料と参考文献の通覧。
25. 講評・質疑応答⑫	配布資料と参考文献の通覧。
26. 発表・質疑応答⑬	配布資料と参考文献の通覧。
27. 講評・質疑応答⑬	配布資料と参考文献の通覧。
28. 発表・質疑応答⑭	配布資料と参考文献の通覧。
29. 講評・質疑応答⑭	配布資料と参考文献の通覧。
30. 全体討論「京都イメージ形成について」	全体討論のために自説をまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

京都は現在でも、日々移り変わっており、〈モノ〉や〈コト〉の、あらゆる局面で新旧の交替が進んでいる。町を歩き、その実態を自分の目で見て、所感を報告してもらいたい。

フィードバックの方法:

Eメールでレポートの講評をする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	60	授業の趣旨の理解。各自の発見。
授業への参加度	40	質疑応答などの発言。

教科書:

小林文広・高木博志・三林暁子『京都の歴史を歩く』岩波新書

参考書:

京都市編『京都の歴史』全10巻。
京都市編『京都の歴史・史料編』全10巻。
村井康彦編『京の歴史と文化』全 巻、1994、講談社。
丸山宏・伊従勉・高木博志編『近代京都研究』2008 思文閣出版。
丸山宏・伊従勉・高木博志編『みやこの近代』2008 思文閣出版。
林屋辰三郎『京都』岩波新書。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール(アドレスは授業中に指示)

授業テーマ:

音楽理論研究

授業の概要:

和声・対位法（フーガを含む）等の実習、および楽曲分析を各々の学生の進度に合わせ、授業を行う。

到達目標:

楽曲分析、および調性音楽理論による高度な音楽書法の修得を目標とする。
過去の名曲といわれる楽曲を分析することにより、作曲に対する技法や時代背景を研究する。
そしてその一助となる和声法や対位法を学習する。

授業方法:

基本としてグループレッスン形式にて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 音楽理論研究 1	大学で学んだ理論科目の復習
	2. 音楽理論研究 2	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	3. 音楽理論研究 3	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	4. 音楽理論研究 4	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	5. 音楽理論研究 5	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	6. 音楽理論研究 6	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	7. 音楽理論研究 7	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	8. 音楽理論研究 8	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	9. 音楽理論研究 9	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	10. 音楽理論研究 10	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	11. 音楽理論研究 11	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	12. 音楽理論研究 12	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	13. 音楽理論研究 13	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	14. 音楽理論研究 14	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	15. 音楽理論研究 15	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	16. 音楽理論研究 16	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	17. 音楽理論研究 17	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	18. 音楽理論研究 18	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	19. 音楽理論研究 19	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	20. 音楽理論研究 20	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	21. 音楽理論研究 21	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	22. 音楽理論研究 22	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	23. 音楽理論研究 23	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	24. 音楽理論研究 24	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	25. 音楽理論研究 25	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	26. 音楽理論研究 26	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	27. 音楽理論研究 27	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	28. 音楽理論研究 28	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	29. 音楽理論研究 29	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	30. 音楽理論研究 30	前回の授業で与えられた課題の実践と復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

大学で学んだ理論科目の知識および技術を基にした授業を行う。

フィードバックの方法:

適宜、予習及び復習を行わせる。
授業の復習としての宿題や、次回の授業の課題準備などを課す。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	50	課題の実践状況など
	レポート	50	実習した課題・作品の提出など

教科書:

適宜その都度指定する

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー他

授業テーマ:	芸術と精神病理		
授業の概要:	芸術行為の臨床的意義を、臨床心理学や精神分析の関連理論を通して考察する。音楽療法・芸術療法関連の文献(主として英語による原著)を読み解くことを通して、1)その背景となる理論を理解し、2)芸術の臨床応用の実際と可能性について討議する。		
到達目標:	・音楽療法・芸術療法の理論を習得する ・芸術の臨床応用の実際について理解する。		
授業方法:	文献の講読と討議を中心とする演習形式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション:音楽療法・芸術療法, および精神分析の概略	次回に講読する文献の予習	
	2. 音楽療法の理論に関する文献講読と討議1	講読文献の予復習	
	3. 音楽療法の理論に関する文献講読と討議2	講読文献の予復習	
	4. 音楽療法の理論に関する文献講読と討議3	講読文献の予復習	
	5. 音楽療法の理論に関する文献講読と討議4	講読文献の予復習	
	6. 音楽療法の理論に関する文献講読と討議5	講読文献の予復習	
	7. 文献内容のまとめと討議	講読した文献から関心のあるテーマを見つけ、研究発表の準備をする。	
	8. 研究発表1	発表の準備, および発表後に受けたコメントの整理	
	9. 芸術療法に関する文献講読と討議1	講読文献の予復習	
	10. 芸術療法に関する文献講読と討議2	講読文献の予復習	
	11. 芸術療法に関する文献講読と討議3	講読文献の予復習	
	12. 芸術療法に関する文献講読と討議4	講読文献の予復習	
	13. 芸術療法に関する文献講読と討議5	講読文献の予復習	
	14. 文献内容のまとめと討議	講読した文献から関心のあるテーマを見つけ、研究発表の準備をする。	
	15. 研究発表2	発表の準備, および発表後に受けたコメントの整理	
	16. 音楽療法・芸術療法の実際についての討議1	学術雑誌から、音楽療法・芸術療法に関する事例を精査する。	
	17. 音楽療法・芸術療法の実際についての討議2	学術雑誌から、音楽療法・芸術療法に関する事例を精査する。	
	18. 芸術と精神分析に関する文献研究と討議1	講読文献の予復習	
	19. 芸術と精神分析に関する文献研究と討議2	講読文献の予復習	
	20. 芸術と精神分析に関する文献研究と討議3	講読文献の予復習	
	21. 芸術と精神分析に関する文献研究と討議4	講読文献の予復習	
	22. 芸術と精神分析に関する文献研究と討議5	講読文献の予復習	
	23. 文献内容のまとめと討議	講読した文献から関心のあるテーマを見つけ、研究発表の準備をする。	
	24. 研究発表3	発表の準備, および発表後に受けたコメントの整理	
	25. 芸術と精神病理に関する文献研究と討議1	講読文献の予復習	
	26. 芸術と精神病理に関する文献研究と討議2	講読文献の予復習	
	27. 芸術と精神病理に関する文献研究と討議3	講読文献の予復習	
	28. 芸術と精神病理に関する文献研究と討議4	講読文献の予復習	
	29. 研究発表4	発表の準備, および発表後に受けたコメントの整理	
	30. 芸術行為の意義についての総括	芸術行為の意義について、自分の言葉で語れるよう、コメントを準備する。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	履修者は、音楽理論の十分な知識と心理学の基礎知識を備えていること。また、当科目分野の専門書は英語によるものがほとんどである事情から、英語読解力も必須である。		
フィードバックの方法:	提出物は、授業内でコメントした上で返却する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的な参加	60%	文献の予復習状況と、到達目標における、音楽療法・芸術療法の理論の習得に基づく討議ができていることについて評価する。
	研究発表およびレポート課題	40%	到達目標における、芸術の臨床応用の実際についての理解に基づき、論理的な考察ができていることを評価する。
教科書:	教材はプリント配布する。		
参考書:	稲田雅美『音楽が創る治療空間:精神分析の関係理論とミュージックセラピー』ナカニシヤ出版(2012年)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:

日本人は「西洋音楽」をどのように受けとめ、理解し、一方で「日本音楽」をどのように異国の人に伝えたか？

授業の概要:

本講義では、近代以降の日本人が、文化・民族・社会・音楽の関係をどのように捉え、「音楽」の送受信を行ってきたかを具体的な事例に基づいて考察する。
春学期は、19世紀から現代に至る日本近代音楽史に大きな位置を占めている「西洋芸術音楽／ポピュラー音楽」の導入と定着のプロセスを、「文化の振興」という切り口で読み解き、あわせて近代日本に着座した「西洋音楽」が世界の音楽市場でどのように位置づけられるのかをも探る。
秋学期は、日本人が創造／伝承してきた多様な「日本の伝統音楽」が、国外にどのように発信されたかについて、「脱コンテクスト化」された事例にもとづいて考察する。その際、日本音楽を受けとめた外国人の行動意識、発信のための人的ネットワーク、音楽実践における身体との関連性に着目して考察する。

到達目標:

一年間の分析考察作業を通して、1)音楽文化の再生産の背後にある仕掛けを見抜く洞察力を身につけ、2)映し出される日本音楽の創出と伝承の特性を見出す力を養う。

授業方法:

講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本音楽文化の世界にどのように扉をあけ、西洋文化をどのように観察したか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
2.	世界に発信された日本音楽文化は西洋からどのように観察されたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
3.	官立音楽学校において「西洋芸術音楽」の受容システムはいかに構築されたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
4.	私立音楽学校において「西洋芸術音楽」の実践はどのように推進されたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
5.	総合大学において「西洋芸術音楽」をどのように取り入れたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
6.	一般企業において西洋音楽をどのように宣伝媒体として取り込んだか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
7.	西洋音楽をどのように企業がサポートしたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
8.	西洋のポピュラー音楽がラジオというメディアによってどのように拡散していったか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
9.	日本人演奏家がどのようにして「西洋芸術音楽」を生業とできるようになったか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
10.	亡命音楽家が日本の「西洋芸術音楽」の振興にどのように貢献したか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
11.	第二次世界大戦後の音楽振興(ポピュラー音楽)に誰が手を差しのべたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
12.	ポピュラー音楽は、現在、どういうネットワークのなかにおかれているのか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
13.	グローバル化にみるポピュラー音楽の行方	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
14.	ポピュラーミュージシャンを生み出すプロダクションの戦略	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
15.	世界音楽史における近代日本音楽史の特質とは	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
16.	伝統音楽の脱コンテクスト化とは	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
17.	日本の音楽はだれによって発見され、国外に連れ出されたのか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
18.	近代化の道を歩みはじめた時、伝統音楽はどういう危機に遭遇したか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
19.	欧米ツアーに連れ出された江戸の音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
20.	西洋人創作オペラに引用された日本音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
21.	外地でのラジオ放送が在留邦人の音楽体験に与えたもの	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
22.	能の宗家による外地での公演	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
23.	日本伝統音楽の外地での教習の実態	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
24.	新作狂言に魅了される現代の聴衆	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
25.	現代音楽に組み込まれた和太鼓	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
26.	映画音楽に組み込まれた和楽器	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
27.	現代の近世邦楽の海外公演	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
28.	現代の歌舞伎の海外公演	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
29.	津軽三味線の世界ツアー	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
30.	文化・民族・社会・音楽の関係(総括)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるもの)

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。

フィードバックの方法:	提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学期末のレポート	55%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
	授業への参加度	25%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。
	発表、ディスカッション	20%	準備学習（予習、復習）、受講者のコメントの読み取りから、総合的に授業目標の達成の有無を判断する。
教科書:	特に指定しない。		
参考書:	講義時に、適宜、提示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:

作曲家/演奏家の視点から見た声楽作品研究

授業の概要:

ドイツ歌曲やオペラ等の声楽作品が作曲されるにあたり、作曲時の生活環境や心理状態が、作品に何らかの影響を及ぼしていると考えられる。それを演奏するにあたり、関係文献を精読、分析し、パフォーマーからの目で見ただけの解釈を進めていく。

到達目標:

1. 参考文献の精読による理解と解説力。
2. 歌詞の解釈と表現力。
3. 声の出し方。

授業方法:

授業開始にイタリア、ドイツ、日本の声楽作品から研究作品を決め、その時代の文献を精読し、授業内での発表と実演を進めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業説明と研究作品についての質疑応答。	授業開始までに自分であらかじめ研究作曲家を決めておく。
2.	発声と歌唱(1) 声を出すこととは	発声についての準備はいらないが、研究作曲家については文献の精読を開始しておく。 歌唱作品についての譜読み。 次週の発表についての準備。
3.	発声と歌唱(2) 発声の仕方と楽曲へのアプローチ	
4.	作曲家研究発表 1	資料を作成し、配布できるように準備。
5.	発声と歌唱(3) より煮詰めた歌唱	歌唱作品の音楽上の準備。
6.	発声と歌唱(4)	平素より声を出すトレーニングをしておく。
7.	発声と歌唱(5)	
8.	作曲家研究発表 2	資料作成と配布の準備。
9.	発声と歌唱(6)	
10.	発声と歌唱(7)	
11.	発声と歌唱(8)	
12.	作曲家研究発表 3	資料作成と配布の準備。
13.	発声と歌唱(9)	
14.	発声と歌唱(10)	歌唱と最終段階での資料まとめに入る。
15.	まとめ+α	資料作成と配布の準備。
16.	春学期とは違うジャンルの作曲家研究。	歌曲かオペラ作品かを事前に決定しておくこと。
17.	発声と歌唱(11) 発声について自分流を開発する。	歌唱に入れるように譜読みをしておく。
18.	発声と歌唱(12)	声のトレーニング。
19.	作曲家研究発表 4	資料作成と配布準備。
20.	発声と歌唱(13)	
21.	発声と歌唱(14)	
22.	作曲家研究発表 5	資料作成と配布準備。
23.	発声と歌唱(15)	
24.	発声と歌唱(16)	
25.	発声と歌唱(17)	
26.	作曲家研究発表 6	資料作成と配布準備。
27.	発声と歌唱(18)	
28.	発声と歌唱(19)	
29.	発声と歌唱(20)	歌唱と最終段階での資料まとめに入る。
30.	総括	資料作成と配布の準備。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

発表毎に教室にて解説をします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表、討論	40%	研究レポートをもとに説明の仕方と質疑応答などの理解度を段階的に評価する。
	授業への参加度	60%	演習の歌唱における発声と発音の到達度と、質疑応答の参加度を段階的に評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。Eメール(tinoue@dwc.doshisha.ac.jp)

授業テーマ:	平安朝文学を読む		
授業の概要:	平安朝文学、主に源氏物語を対象としてその作品分析を行う。本文をどのように読み、そこからどのように研究へ発展させるかということに関して、引用や特殊表現に注目し、また文学史的な展望の中で問題を掘り下げていく。		
到達目標:	自立して研究ができるようになることをめざす。そのために研究法の確立、問題点を発見する力、論理の展開、結論への導き方などを体得することをめざす。あわせて学位論文の執筆。		
授業方法:	演習、討議方式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	発表の準備	
	2. 演習及び討議	発表の準備	
	3. 演習及び討議	発表の準備	
	4. 演習及び討議	発表の準備	
	5. 演習及び討議	発表の準備	
	6. 演習及び討議	発表の準備	
	7. 演習及び討議	発表の準備	
	8. 演習及び討議	発表の準備	
	9. 演習及び討議	発表の準備	
	10. 演習及び討議	発表の準備	
	11. 演習及び討議	発表の準備	
	12. 演習及び討議	発表の準備	
	13. 演習及び討議	発表の準備	
	14. 演習及び討議	発表の準備	
	15. 演習及び討議	発表の準備	
	16. 演習及び討議	発表の準備	
	17. 演習及び討議	発表の準備	
	18. 演習及び討議	発表の準備	
	19. 演習及び討議	発表の準備	
	20. 演習及び討議	発表の準備	
	21. 演習及び討議	発表の準備	
	22. 演習及び討議	発表の準備	
	23. 演習及び討議	発表の準備	
	24. 演習及び討議	発表の準備	
	25. 演習及び討議	発表の準備	
	26. 演習及び討議	発表の準備	
	27. 演習及び討議	発表の準備	
	28. 演習及び討議	発表の準備	
	29. 演習及び討議	発表の準備	
	30. 総括	論文執筆の準備	
受講者へのメッセージやアドバイス:	学位取得をめざして頑張ってもらいたい		
フィードバックの方法:	口頭発表についてはそのつど意見・批判を行う。論文については質問・相談に応じ、草稿に朱をいれて完成にむけて修正を行う。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート(論文)	100	論文の内容によって評価する
教科書:	特になし		
参考書:	特になし		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業時及び研究室にて対応。メールでも対応する。		

授業テーマ:

ひととまちの景観:「まちを生きる」諸相からみえる「まちの姿」を、住まいから出発して、界隈を散策し、そして、周辺郊外へと遠出する仮想のルートを辿って、近現代京都の風景の成り立ちと変容を理解する。その途上、さまざまな媒体に表現される京都イメージや、また海外都市のすまいの事情との比較により、虚実入り交じった京都のイメージ世界を探索してみよう。

授業の概要:

よくも悪しくも人間社会がつくり出してきた都市的環境を人がどのように捉えてきたかという、人と環境の関係の歴史(履歴)認識には、虚実が交錯する都市景観のイメージが伴っている。モノの変化としての都市の変貌は記録できるものであるが、人の係わり(文化的・歴史的な慣習の変容を伴う)の履歴は、それぞれの時代を生きたひとびとの共通了解として共有されながら、それとして記録されにくい。都市環境への人の係わりのイメージ表現として景観を捉えると、そのイメージを記録する媒体にはいろいろなものがある。本講義では、文学作品やエッセイそして映画などに表現される都市イメージ、あるいは都市計画の構想や事業の経過、そして都市の町並みや建築自体を、都市環境と人間(社会)の係りの記憶装置や痕跡、あるいは媒体として捉え、都市景観の多彩な立ち現れ方を解釈する方法について演習する。その具体的なフィールドが近現代の京都だが、京都を相対化するために他の都市文化を参照する。履修には、院生の側の上記問題への関心が前提であるから、授業には院生による問題発掘を期待するため、できるだけ時間に余裕のある修士1年生や博士後期1年生での履修を推奨する。

到達目標:

1.理論的目標都市相貌を景観と受け取る通俗的な理解に止まらず、土地の風土的な特性の表現のひとつが「都市景観」であることを、人文科学的に理解する。
2.表現媒体の多様性現実の都市街区に止まらず、都市景観の現象はさまざまな表象媒体におよんでいることを理解すると、都市文学、都市映像、そして都市計画などの表現手段の多様性が理解できる。
3.歴史的経緯の尊重土地の風土的特徴の形成には、それなりの歴史的文化的経緯がかかわっていることを理解する。
4.風評への批判力時代ごとに流行る景観イメージの虚実に対する批判力を知的に形成する。

授業方法:

ゼミ室での講義・演習を主とするが、テーマが決まった段階で受講生が実地調査や資料探索をするアドヴァイスを適宜、個人別にする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:風土と景観と風景:文献紹介	参考書などを大学・公設図書館で探索する場合の助言を行う。
2.	原論演習1「風土」「景観」「風景」とは何か	基本的に準備的学習は不要だが、授業で紹介した参考文献を個人的に消化するのは、授業時間外の受講生の努力に負うことになる。以下、すべて同じ。
3.	原論演習2	
4.	講義 京都のすまい方の風景:エッセイを通してみる町家のくらし	見学できる町家を紹介
5.	講義 同上(続き)	
6.	講義 欧州都市のすまいの風景(1):ロンドンにあって京都にないもの	都市を舞台とした映画を紹介するので、授業外にビデオでみることを推奨する。
7.	講義 欧州都市のすまいの風景(2):英国映画にみる都市住まい	
8.	講読 京都の路地と辻子(1):エッセーにみる都市遊歩	類似エッセーの読書
9.	講読 京都の路地と辻子(2):都市史研究にみる辻子と路地	参考文献紹介
10.	講読 京都の路地と辻子(3):京都映画にみるまちの界隈の記憶	都市を舞台とした映画を紹介するので、授業外にビデオでみることを推奨する。
11.	講義 欧州都市のすまいの風景(3) 資料紹介:パリにあって京都にもあるもの	
12.	講義 欧州都市のすまいの風景(3) 資料紹介:パリにあって京都にないもの	
13.	講義 欧州都市のすまいの風景(5):映画にみるパリ住まいと界隈	都市を舞台とした映画を紹介するので、授業外にビデオでみることを推奨する。
14.	講義 近代京都の道路景観の変容(1):明治と大正	受講生自身がまち歩きをすることを推奨する。
15.	講義 京都近代の道路景観の変容(2):戦前昭和	同上
16.	中間発表1 受講生の関心テーマについて、発表と議論	
17.	中間発表2 同上	
18.	講義 戦後京都のまちの変容:広幅員道路の誕生	
19.	講義 戦後京都のすまいの変容:まちやとマンション	見学できる町家を訪ねた印象をベースにしなが
20.	講義 戦後京都の都市景観の変容	
21.	講義 まちの風景(1):現代の京都が失ったものとパリが得たもの	
22.	講義 まちの風景(2):同上	
23.	討議 現代のまちの観察(1) 京都の魅力は町家にあるのか	
24.	討議 現代のまちの観察(2) 京都は町家で生き残れるのか	
25.	討議「京都の歴史イメージと現代」	
26.	受講生発表1 調査・研究成果の発表	
27.	受講生発表2 調査・研究成果の発表	
28.	まとめ	
29.	レポート講評(1)	
30.	レポート講評(2)	

受講者へのメッセージやアドバイス:

後期授業。講義にはビデオ・パソコンによるプログラム・紙媒体の資料などを使用し、実地見学に出ることがある。受講者は、授業中に紹介する文献や映像資料などを出発点として、自分が関心する京都についての著作や問題について、主体的に調査して面白い問題を掘り出してほしい。対象は文学・エッセイ・映画あるいは祭礼などのイベント、特定の歴史的な事象など、ジャンルは問わない。過去或いは現在の具体的な問題を取り上げてもよい。例えば、京都を描いた文学作品に関しては、いくつか編集されている『京都文学散歩』が参照できる。映画であれば、制作年代の京都のまちのイメージが背景に見え隠れする。作品に描かれる京都イメージの成り立ちやその虚実の関係を分析し授業中に発表してほしい。最終的にレポートにまとめる。試験はない。主題選択には相談に応ずる。少人数授業のため、欠席予定の際は、事前連絡を送ること。

フィードバックの方法： 中間発表へのコメントや講評は口頭で行う。授業中の質問には適宜応じる。最終的には、期末レポートを提出してもらうが、個別に講評結果をメールにて回答する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	30	出席は8割以上ないと、内容が理解できない。
	中間発表への出席と内容	30	
	最終レポートの提出	40	

教科書：

参考書： 丸山・伊従・高木編『みやこの近代』思文閣出版、2008年
同上編者『近代京都研究』思文閣出版、2008年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法： 授業中にメールアドレスを伝える

授業テーマ:	日本における一年の暮らしと芸能																																																															
授業の概要:	全国各地には様々な祭礼や芸能がある。祭や芸能は「〇〇祭」として、それだけを取り上げられることが多い。芸能それ自体の研究も重要であるが、一年間の行事・祭礼・芸能は、それぞれの地域の自然や生業と、密接な関係にある。本講では、一年を通しての、全国各地の人々のさまざまな暮らしや生産活動を取り上げ、それに関わる行事や祭礼に込められた人々の想いを追求していきたい。さらにそれらの生活の中で発生し、伝えられてきた祭礼や芸能と、芸能それ自体の発展、変容についても講じていきたい。また、日本全国の具体事例を知るために映像資料を多用する。 ただし、大学院生対象の講義であることから、受講生が少ない場合、その受講生の専門性に関わる民俗学の著作や論文をテキストにし、講読を行う場合もある。																																																															
到達目標:	(1)祭や芸能が単独で存在してきたわけではなく、人々の生活の中ではなくてきた民俗であることを確認できる。 (2)学生諸氏にとっては、祭礼や芸能の中にとどめられている歴史性や文学性、あるいは宗教性や芸術性に気づき、専門との関わりを持たせることができる。																																																															
授業方法:	5:講義/演習の混合																																																															
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><thead><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>1. ガイダンス:講義の進め方を説明する。受講生の人数と専門性を確認し、それによって、受講生の専門と関わりの深い書籍、論文の講読に変更することもあり得る。あるいは、春学期は講義形式にし、秋学期を講読にすることもあり得る。</td><td>自らの研究と民俗学の関わりがどのあたりにあるかを考えてくる。</td></tr><tr><td>2. マクロな視点から見た日本の地域:バリエーション豊富な自然と様々な言語・文化などから、日本の南北、日本の東西、農村と山村(水田耕作と焼き畑)、中央と地方(都市と農村)などの区分について概観する。</td><td>網野善彦『東と西の語る日本の歴史』など東西を論じる書籍に目を通してみる。</td></tr><tr><td>3. 日本の地域(その1):雪国の暮らし</td><td>市川健夫『雪国の自然と暮らし』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>4. 日本の地域(その2):南島の暮らし</td><td>伊波普猷『をなり神の島 1』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>5. 日本の地域(その3):山村の暮らし</td><td>湯川洋司『変容する山村ー民俗再考』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>6. 日本の地域(その4):漁村の暮らし</td><td>山口徹『海の生活誌 一半島と島の暮らし』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>7. 日本の地域(その5):湖岸の暮らし</td><td>橋本鉄男『琵琶湖の民俗誌』、長谷川嘉和『近江の民具ー滋賀県立琵琶湖博物館の収蔵品から』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>8. 日本の地域(その6):焼き畑をする暮らし</td><td>佐々木高明『日本の焼き畑』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>9. 日本の地域(その7):畑作民の暮らし</td><td>白石昭臣『畑作の民俗』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>10. 日本の地域(その8):狩猟民の暮らし</td><td>山村民俗の会『狩猟 一狩りの民俗と山の動物誌』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>11. 日本の地域(その9):水田耕作民の暮らし</td><td>坪井洋文『稲を選んだ日本人』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>12. 生業サイクルと四季の祭:冬から春の祭、夏の祭、秋の祭、それぞれが持つ意味を考える。</td><td>本田安次『日本の祭と芸能』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>13. 冬から春の祭(予祝行事):愛知県花祭り、静岡県西浦田楽などの事例から</td><td>早川孝太郎『花祭り』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>14. 夏の祭(厄払い行事 その1):京都祇園会の事例から</td><td>脇田晴子『中世京都と祇園祭ー疫神と都市の生活』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>15. 夏の祭(厄払い行事 その2)と盆:京都やすらい花、夏越の祓、そして馬音内盆踊りなどから</td><td>山路興造『京の歳時記 今むかし』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>16. 秋の祭(収穫感謝祭):熊本県球磨地方などの事例から</td><td>三隅治雄『踊りの宇宙ー日本の民族芸能』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>17. 都市の祭(その1):滋賀県長浜市曳山祭、福井県小浜祭などの事例から</td><td>植木行宣、福原敏男『山・鉾・屋台行事ー祭りを飾る民俗造形』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>18. 都市の祭(その2):大阪市天神祭、長崎くんちなどの事例から</td><td>米山俊直『天神祭ー大阪の祭礼』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>19. 修験系行事:岩手県早池峰神楽、黒森神楽などの事例から</td><td>宮古市教育委員会『黒森神楽(資料篇)ー無形民俗文化財』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>20. 神楽:京都市太田神社巫女舞、石清水八幡宮の御神楽などの事例から</td><td>本田安次『日本の民俗芸能(第1)神楽(1966年)』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>21. 言祝ぐ行事:三河万歳、秋田万歳、佐渡の春駒などから漫才へ</td><td>小沢昭一『芸人の肖像』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>22. 仏教行事(その1):当麻寺練供養、四天王寺の聖霊会などから</td><td>中村元『仏教行事散策』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>23. 仏教行事(その2 念仏・説経):京都市六歳念仏や空也堂踊躍念仏、節談説経などから</td><td>五来重『仏教と民俗 仏教民俗入門』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>24. 芸能の展開の道筋:これまで見てきた芸能の流れを整理する。</td><td>民俗学的視点で自らの研究を分析してみる。</td></tr><tr><td>25. 仏教行事(その3 教化の芝居):千葉県鬼来迎、京都市壬生狂言などから芝居へ</td><td>梅原猛、西川 照子『壬生狂言の魅力ー梅原猛の京都遍歴』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>26. 唱える芸能:念仏、声明から歌へ</td><td>五来重『踊り念仏』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>27. 語る芸能:青森のイタコ、そして説経節、義太夫、そして浪曲、落語</td><td>岩崎武夫『さんせう太夫考ー中世の説経語り』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>28. 歌う芸能:様々な民謡と歌</td><td>町田嘉章、浅野建二『日本民謡集』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>29. 見せる芸能:江戸期に展開した芝居文化</td><td>服部幸雄『大いなる小屋 江戸歌舞伎の祝祭空間』などに目を通してみる。</td></tr><tr><td>30. 総括:人の暮らしと芸能の関係を整理し、確認する。</td><td>身近な芸能を調査して、まとめてみる。</td></tr></tbody></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. ガイダンス:講義の進め方を説明する。受講生の人数と専門性を確認し、それによって、受講生の専門と関わりの深い書籍、論文の講読に変更することもあり得る。あるいは、春学期は講義形式にし、秋学期を講読にすることもあり得る。	自らの研究と民俗学の関わりがどのあたりにあるかを考えてくる。	2. マクロな視点から見た日本の地域:バリエーション豊富な自然と様々な言語・文化などから、日本の南北、日本の東西、農村と山村(水田耕作と焼き畑)、中央と地方(都市と農村)などの区分について概観する。	網野善彦『東と西の語る日本の歴史』など東西を論じる書籍に目を通してみる。	3. 日本の地域(その1):雪国の暮らし	市川健夫『雪国の自然と暮らし』などに目を通してみる。	4. 日本の地域(その2):南島の暮らし	伊波普猷『をなり神の島 1』などに目を通してみる。	5. 日本の地域(その3):山村の暮らし	湯川洋司『変容する山村ー民俗再考』などに目を通してみる。	6. 日本の地域(その4):漁村の暮らし	山口徹『海の生活誌 一半島と島の暮らし』などに目を通してみる。	7. 日本の地域(その5):湖岸の暮らし	橋本鉄男『琵琶湖の民俗誌』、長谷川嘉和『近江の民具ー滋賀県立琵琶湖博物館の収蔵品から』などに目を通してみる。	8. 日本の地域(その6):焼き畑をする暮らし	佐々木高明『日本の焼き畑』などに目を通してみる。	9. 日本の地域(その7):畑作民の暮らし	白石昭臣『畑作の民俗』などに目を通してみる。	10. 日本の地域(その8):狩猟民の暮らし	山村民俗の会『狩猟 一狩りの民俗と山の動物誌』などに目を通してみる。	11. 日本の地域(その9):水田耕作民の暮らし	坪井洋文『稲を選んだ日本人』などに目を通してみる。	12. 生業サイクルと四季の祭:冬から春の祭、夏の祭、秋の祭、それぞれが持つ意味を考える。	本田安次『日本の祭と芸能』などに目を通してみる。	13. 冬から春の祭(予祝行事):愛知県花祭り、静岡県西浦田楽などの事例から	早川孝太郎『花祭り』などに目を通してみる。	14. 夏の祭(厄払い行事 その1):京都祇園会の事例から	脇田晴子『中世京都と祇園祭ー疫神と都市の生活』などに目を通してみる。	15. 夏の祭(厄払い行事 その2)と盆:京都やすらい花、夏越の祓、そして馬音内盆踊りなどから	山路興造『京の歳時記 今むかし』などに目を通してみる。	16. 秋の祭(収穫感謝祭):熊本県球磨地方などの事例から	三隅治雄『踊りの宇宙ー日本の民族芸能』などに目を通してみる。	17. 都市の祭(その1):滋賀県長浜市曳山祭、福井県小浜祭などの事例から	植木行宣、福原敏男『山・鉾・屋台行事ー祭りを飾る民俗造形』などに目を通してみる。	18. 都市の祭(その2):大阪市天神祭、長崎くんちなどの事例から	米山俊直『天神祭ー大阪の祭礼』などに目を通してみる。	19. 修験系行事:岩手県早池峰神楽、黒森神楽などの事例から	宮古市教育委員会『黒森神楽(資料篇)ー無形民俗文化財』などに目を通してみる。	20. 神楽:京都市太田神社巫女舞、石清水八幡宮の御神楽などの事例から	本田安次『日本の民俗芸能(第1)神楽(1966年)』などに目を通してみる。	21. 言祝ぐ行事:三河万歳、秋田万歳、佐渡の春駒などから漫才へ	小沢昭一『芸人の肖像』などに目を通してみる。	22. 仏教行事(その1):当麻寺練供養、四天王寺の聖霊会などから	中村元『仏教行事散策』などに目を通してみる。	23. 仏教行事(その2 念仏・説経):京都市六歳念仏や空也堂踊躍念仏、節談説経などから	五来重『仏教と民俗 仏教民俗入門』などに目を通してみる。	24. 芸能の展開の道筋:これまで見てきた芸能の流れを整理する。	民俗学的視点で自らの研究を分析してみる。	25. 仏教行事(その3 教化の芝居):千葉県鬼来迎、京都市壬生狂言などから芝居へ	梅原猛、西川 照子『壬生狂言の魅力ー梅原猛の京都遍歴』などに目を通してみる。	26. 唱える芸能:念仏、声明から歌へ	五来重『踊り念仏』などに目を通してみる。	27. 語る芸能:青森のイタコ、そして説経節、義太夫、そして浪曲、落語	岩崎武夫『さんせう太夫考ー中世の説経語り』などに目を通してみる。	28. 歌う芸能:様々な民謡と歌	町田嘉章、浅野建二『日本民謡集』などに目を通してみる。	29. 見せる芸能:江戸期に展開した芝居文化	服部幸雄『大いなる小屋 江戸歌舞伎の祝祭空間』などに目を通してみる。	30. 総括:人の暮らしと芸能の関係を整理し、確認する。	身近な芸能を調査して、まとめてみる。	
授業内容	準備学習等の内容																																																															
1. ガイダンス:講義の進め方を説明する。受講生の人数と専門性を確認し、それによって、受講生の専門と関わりの深い書籍、論文の講読に変更することもあり得る。あるいは、春学期は講義形式にし、秋学期を講読にすることもあり得る。	自らの研究と民俗学の関わりがどのあたりにあるかを考えてくる。																																																															
2. マクロな視点から見た日本の地域:バリエーション豊富な自然と様々な言語・文化などから、日本の南北、日本の東西、農村と山村(水田耕作と焼き畑)、中央と地方(都市と農村)などの区分について概観する。	網野善彦『東と西の語る日本の歴史』など東西を論じる書籍に目を通してみる。																																																															
3. 日本の地域(その1):雪国の暮らし	市川健夫『雪国の自然と暮らし』などに目を通してみる。																																																															
4. 日本の地域(その2):南島の暮らし	伊波普猷『をなり神の島 1』などに目を通してみる。																																																															
5. 日本の地域(その3):山村の暮らし	湯川洋司『変容する山村ー民俗再考』などに目を通してみる。																																																															
6. 日本の地域(その4):漁村の暮らし	山口徹『海の生活誌 一半島と島の暮らし』などに目を通してみる。																																																															
7. 日本の地域(その5):湖岸の暮らし	橋本鉄男『琵琶湖の民俗誌』、長谷川嘉和『近江の民具ー滋賀県立琵琶湖博物館の収蔵品から』などに目を通してみる。																																																															
8. 日本の地域(その6):焼き畑をする暮らし	佐々木高明『日本の焼き畑』などに目を通してみる。																																																															
9. 日本の地域(その7):畑作民の暮らし	白石昭臣『畑作の民俗』などに目を通してみる。																																																															
10. 日本の地域(その8):狩猟民の暮らし	山村民俗の会『狩猟 一狩りの民俗と山の動物誌』などに目を通してみる。																																																															
11. 日本の地域(その9):水田耕作民の暮らし	坪井洋文『稲を選んだ日本人』などに目を通してみる。																																																															
12. 生業サイクルと四季の祭:冬から春の祭、夏の祭、秋の祭、それぞれが持つ意味を考える。	本田安次『日本の祭と芸能』などに目を通してみる。																																																															
13. 冬から春の祭(予祝行事):愛知県花祭り、静岡県西浦田楽などの事例から	早川孝太郎『花祭り』などに目を通してみる。																																																															
14. 夏の祭(厄払い行事 その1):京都祇園会の事例から	脇田晴子『中世京都と祇園祭ー疫神と都市の生活』などに目を通してみる。																																																															
15. 夏の祭(厄払い行事 その2)と盆:京都やすらい花、夏越の祓、そして馬音内盆踊りなどから	山路興造『京の歳時記 今むかし』などに目を通してみる。																																																															
16. 秋の祭(収穫感謝祭):熊本県球磨地方などの事例から	三隅治雄『踊りの宇宙ー日本の民族芸能』などに目を通してみる。																																																															
17. 都市の祭(その1):滋賀県長浜市曳山祭、福井県小浜祭などの事例から	植木行宣、福原敏男『山・鉾・屋台行事ー祭りを飾る民俗造形』などに目を通してみる。																																																															
18. 都市の祭(その2):大阪市天神祭、長崎くんちなどの事例から	米山俊直『天神祭ー大阪の祭礼』などに目を通してみる。																																																															
19. 修験系行事:岩手県早池峰神楽、黒森神楽などの事例から	宮古市教育委員会『黒森神楽(資料篇)ー無形民俗文化財』などに目を通してみる。																																																															
20. 神楽:京都市太田神社巫女舞、石清水八幡宮の御神楽などの事例から	本田安次『日本の民俗芸能(第1)神楽(1966年)』などに目を通してみる。																																																															
21. 言祝ぐ行事:三河万歳、秋田万歳、佐渡の春駒などから漫才へ	小沢昭一『芸人の肖像』などに目を通してみる。																																																															
22. 仏教行事(その1):当麻寺練供養、四天王寺の聖霊会などから	中村元『仏教行事散策』などに目を通してみる。																																																															
23. 仏教行事(その2 念仏・説経):京都市六歳念仏や空也堂踊躍念仏、節談説経などから	五来重『仏教と民俗 仏教民俗入門』などに目を通してみる。																																																															
24. 芸能の展開の道筋:これまで見てきた芸能の流れを整理する。	民俗学的視点で自らの研究を分析してみる。																																																															
25. 仏教行事(その3 教化の芝居):千葉県鬼来迎、京都市壬生狂言などから芝居へ	梅原猛、西川 照子『壬生狂言の魅力ー梅原猛の京都遍歴』などに目を通してみる。																																																															
26. 唱える芸能:念仏、声明から歌へ	五来重『踊り念仏』などに目を通してみる。																																																															
27. 語る芸能:青森のイタコ、そして説経節、義太夫、そして浪曲、落語	岩崎武夫『さんせう太夫考ー中世の説経語り』などに目を通してみる。																																																															
28. 歌う芸能:様々な民謡と歌	町田嘉章、浅野建二『日本民謡集』などに目を通してみる。																																																															
29. 見せる芸能:江戸期に展開した芝居文化	服部幸雄『大いなる小屋 江戸歌舞伎の祝祭空間』などに目を通してみる。																																																															
30. 総括:人の暮らしと芸能の関係を整理し、確認する。	身近な芸能を調査して、まとめてみる。																																																															
受講者へのメッセージやアドバイス:	このラインナップはあくまで目安であり、それぞれの専門性に関わる分野を拡大したり、あるいは専門性に合わせた著作、論文を読む形で講義を進めることも可能である。民俗学に興味のある学生から相談を受けた場合は臨機応変に対応したい。																																																															

準備学習等の内容

自らの研究と民俗学の関わりがどのあたりにあるかを考えてくる。

網野善彦『東と西の語る日本の歴史』など東西を論じる書籍に目を通してみる。

市川健夫『雪国の自然と暮らし』などに目を通してみる。
伊波普猷『をなり神の島 1』などに目を通してみる。
湯川洋司『変容する山村ー民俗再考』などに目を通してみる。
山口徹『海的生活誌 ー半島と島の暮らし』などに目を通してみる。
橋本鉄男『琵琶湖の民俗誌』、長谷川嘉和『近江の民具ー滋賀県立琵琶湖博物館の収蔵品から』などに目を通してみる。
佐々木高明『日本の焼き畑』などに目を通してみる。
白石昭臣『畑作の民俗』などに目を通してみる。
山村民俗の会『狩猟 ー狩りの民俗と山の動物誌』などに目を通してみる。
坪井洋文『稲を選んだ日本人』などに目を通してみる。
本田安次『日本の祭と芸能』などに目を通してみる。

早川孝太郎『花祭り』などに目を通してみる。

脇田晴子『中世京都と祇園祭ー疫神と都市の生活』などに目を通してみる。
山路興造『京の歳時記 今むかし』などに目を通してみる。

三隅治雄『踊りの宇宙ー日本の民族芸能』などに目を通してみる。
植木行宣、福原敏男『山・鉾・屋台行事ー祭りを飾る民俗造形』などに目を通してみる。
米山俊直『天神祭ー大阪の祭礼』などに目を通してみる。

宮古市教育委員会『黒森神楽<資料篇>ー無形民俗文化財』などに目を通してみる。
本田安次『日本の民俗芸能<第1>神楽(1966年)』などに目を通してみる。
小沢昭一『芸人の肖像』などに目を通してみる。

中村元『仏教行事散策』などに目を通してみる。

五来重『仏教と民俗 仏教民俗入門』などに目を通してみる。
民俗学的視点で自らの研究を分析してみる。

梅原猛、西川 照子『壬生狂言の魅力ー梅原猛の京都遍歴』などに目を通してみる。
五来重『踊り念仏』などに目を通してみる。
岩崎武夫『さんせう太夫考ー中世の説経語り』などに目を通してみる。
町田嘉章、浅野建二『日本民謡集』などに目を通してみる。
服部幸雄『大いなる小屋 江戸歌舞伎の祝祭空間』などに目を通してみる。
身近な芸能を調査して、まとめてみる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

このラインナップはあくまで目安であり、それぞれの専門性に関わる分野を拡大したり、あるいは専門性に合わせた著作、論文を読む形で講義を進めることも可能である。民俗学に興味のある学生から相談を受けた場合は臨機応変に対応したい。

フィードバックの方法:

少人数であることが予想されるため、質問等には直接対応できると思われる。また、最終的なレポートは、返却の予定はないが、希望者にはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小論文	60	それぞれの専門性に関わらせて、民俗学を理解し、応用できているかどうかを、レポート内容によって評価する。
	発言	40	講義時にどれだけ積極的に考え、発言したかを評価する。

教科書:

参考書:

準備学習等の内容に取り上げた書籍をはじめ、適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、

教員との連絡方法:

講義時に対応する。Eメールも可能。講義時にアドレスを伝える。

授業テーマ：	天皇陵の考古学	
授業の概要：	かつて考古学は「狭義の歴史学(文献史学)の補助学」であるとか、「文献が残っていない時代だけを扱う学問」であるとか思われてきたけれども、近年の考古学の進展はそのようなとらえ方がすでに過去のものになったことを如実に語ってくれている。今や、考古学の成果を抜きにしては歴史を語ることはできないのである。この講義では、考古学とはどういう学問であり、また考古学が解き明かす歴史とはどのようなものであるかを、具体例に即して理解していただく。	
到達目標：	考古学の研究の方法論を、具体的な遺跡・遺物によって学ぶやりかたを理解する。また、文献史学と考古学の相互関係を、これも具体的事例をもとに理解することができるようにする。	
授業方法：	デジタルカメラやビデオによる映像を使用しながら授業を進める。今出川キャンパス周辺の博物館や史跡の見学をとりいれる。なお、自主的に各地の遺跡や遺跡博物館の実地見学をするなど、積極的に学ぶ意欲のある学生の参加を希望する。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容	準備学習等の内容
	1. 天皇陵問題とは何か	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
	2. 天皇陵の概念	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
	3. 天皇陵の沿革と制度	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
	4. 天皇陵研究の歴史1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
	5. 天皇陵研究の歴史2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
	6. 天皇陵研究の歴史3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
	7. 天皇陵研究の歴史4	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
	8. 古墳時代前期の大王墓1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	9. 古墳時代前期の大王墓2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	10. 古墳時代前期の大王墓3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	11. 古墳時代前期の大王墓4	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	12. 古墳時代中期の大王墓1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	13. 古墳時代中期の大王墓2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	14. 古墳時代中期の大王墓3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	15. 古墳時代中期の大王墓4	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	16. 古墳時代後期の大王墓1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	17. 古墳時代後期の大王墓2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	18. 古墳時代後期の大王墓3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	19. 飛鳥時代の天皇陵1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	20. 飛鳥時代の天皇陵2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	21. 飛鳥時代の天皇陵3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	22. 奈良時代の天皇陵1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	23. 奈良時代の天皇陵2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	24. 奈良時代の天皇陵3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	25. 奈良時代の天皇陵4	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。

- | | | |
|-----|-----------|--|
| 26. | 平安時代の天皇陵1 | 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。 |
| 27. | 平安時代の天皇陵2 | 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。 |
| 28. | 平安時代の天皇陵3 | 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。 |
| 29. | 平安時代の天皇陵4 | 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。 |
| 30. | まとめ | 授業での内容をまとめなおしておくこと。 |

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
大レポート	50	到達目標を理解した上で、自分がどの立場を取るのかを明確にし、その理由を説得力をもって説明できるかを基準とする。そして、考古学の研究の方法論を、具体的な遺跡・遺物によって学ぶやりかたを理解するとともに、文献史学と考古学の相互関係を、これも具体的事例をもとに理解することができたかどうか。
平常点	30	積極的に授業に参加したかどうか。受講を通じて、考古学の研究の方法論を、具体的な遺跡・遺物によって学ぶやりかたを理解するとともに、文献史学と考古学の相互関係を、これも具体的事例をもとに理解することができたかどうか。
ミニ・レポート	20	到達目標を理解した上で、自分がどの立場を取るのかを明確にし、その理由を説得力をもって説明できるかを基準とする

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡
方法:

FZK06736@nifty.ne.jp

授業テーマ:

日本語教育とプロフィシエンシー

授業の概要:

プロフィシエンシーという概念を理解し、それに基づいた教材の作成を考える。具体的には「生」ではなく「生きた」教材とは何か。その点を理解し、各技能における実際の教材作りも試みる。

到達目標:

プロフィシエンシーの概念を理解し、自己にとって何が「生きた」教育であり、また、それを実現するための教育方法を知ること

授業方法:

教科書を批判的に読み、積極的議論を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. OPIとプロフィシエンシー(1)	
	2. OPIとプロフィシエンシー(2)	
	3. OPIとプロフィシエンシー(3)	
	4. OPIとプロフィシエンシー(4)	
	5. OPIとプロフィシエンシー(5)	
	6. OPIとプロフィシエンシー(6)	
	7. OPIとプロフィシエンシー(7)	
	8. OPIとプロフィシエンシー(8)	
	9. 接触場面とプロフィシエンシー(1)	
	10. 接触場面とプロフィシエンシー(2)	
	11. 接触場面とプロフィシエンシー(3)	
	12. 接触場面とプロフィシエンシー(4)	
	13. 接触場面とプロフィシエンシー(5)	
	14. 接触場面とプロフィシエンシー(6)	
	15. 接触場面とプロフィシエンシー(7)	
	16. 接触場面とプロフィシエンシー(8)	
	17. 教育現場とプロフィシエンシー(1)	
	18. 教育現場とプロフィシエンシー(2)	
	19. 教育現場とプロフィシエンシー(3)	
	20. 教育現場とプロフィシエンシー(4)	
	21. 教育現場とプロフィシエンシー(5)	
	22. 教材作成とプロフィシエンシー(1)	
	23. 教材作成とプロフィシエンシー(2)	
	24. 教材作成とプロフィシエンシー(3)	
	25. 教材作成とプロフィシエンシー(4)	
	26. 教材作成とプロフィシエンシー(5)	
	27. 談話とプロフィシエンシー(1)	
	28. 談話とプロフィシエンシー(2)	
	29. 談話とプロフィシエンシー(3)	
	30. 談話とプロフィシエンシー(4)	

受講者へのメッセージやアドバイス:

言葉の習得の原点は何かをしっかりと考えて欲しい。それを無視して、言語教育を語るのは邪道でしょう。

フィードバックの方法:

リアクションペーパーを定期的に課し、それに対するフィードバックを送ります。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	積極的議論の展開	25	A 90 -100% B 80 - 90% C 70 - 80%
	リアクションペーパー	25	A 90 -100% B 80 - 90% C 70 - 80%
	レポート	50	A 90 -100% B 80 - 90% C 70 - 80%

教科書:

鎌田修他編著(2008)『プロフィシエンシーを育てる』凡人社
鎌田修他編著(2012)『対話とプロフィシエンシー』凡人社
鎌田修他編著(2015)『談話とプロフィシエンシー』凡人社

参考書:

鎌田修他(2012)『生きた素材で学ぶ「新・中級から上級への日本語」』ジャパンタイムズ
鎌田修監修(2015)『生きた会話を学ぶ「中級から上級への日本語なりきりリスニング」』ジャパンタイムズ

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:

kamadaosamu@gmail.com

授業テーマ：取り巻く環境に合わせた日本語教育を考える

授業の概要：日本語教育の基礎から各自の専門まで

到達目標：各自のオリジナリティーを発見する

授業方法：講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	興味ある論文を読みながら自分の専門分野を発見する	論文をよんでくる 或いは、必要なことを調べてくる
2.		同上
	同上	
3.	同上	
		同上
4.	同上	同上
5.	同上	同上
6.	中間発表会	
7.	関連する論文を読みながら自分の専門分野を追究する	論文をよんでくる 或いは、必要なことを調べてくる
8.	同上	同上
9.	同上	同上
10.		同上
	同上	
11.	同上	同上
12.	同上	同上
13.	同上	同上
14.	同上	同上
15.	中間発表会2	
16.	自分のテーマを追及する	資料を調べてくる
17.	A4・1枚のレジメを作成し発表する	レジメの準備
18.	同上	同上
19.	同上	同上
20.	同上	同上
21.	同上	同上
22.	同上	同上
23.	同上	同上
24.	同上	同上
25.	中間発表会3	
26.	A4・1枚のレジメ作成による発表	15分から20分の発表準備
27.	同上	
		同上
28.	同上	同上
29.	同上	同上
30.	発表とまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス：将来日本語教育に従事しようとする人、或いは日本語教育に興味と関心のある人

フィードバックの方法：毎回のコメント及び次回への指示

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究態度	50	
	準備度	30	
	その他	20	以上の総合判断で行う

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力，創造力，プレゼンテーション力，コミュニケーション力，変化対応力，自己管理力，自己実現力

教員との連絡方法：最初の授業時に説明します。

授業テーマ:

平安朝文学を読む

授業の概要:

平安朝文学、主に源氏物語を対象としてその作品分析を行う。本文をどのように読み、そこからどのように研究へ発展させるかということに関して、引用や特殊表現に注目し、また文学史的な展望の中で問題を掘り下げていく。

到達目標:

自立して研究ができるようになることをめざす。そのために研究法の確立、問題点を発見する力、論理の展開、結論への導き方などを体得することをめざす。あわせて学位論文の執筆。

授業方法:	演習、討議方式	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	発表の準備
	2. 演習及び討議	発表の準備
	3. 演習及び討議	発表の準備
	4. 演習及び討議	発表の準備
	5. 演習及び討議	発表の準備
	6. 演習及び討議	発表の準備
	7. 演習及び討議	発表の準備
	8. 演習及び討議	発表の準備
	9. 演習及び討議	発表の準備
	10. 演習及び討議	発表の準備
	11. 演習及び討議	発表の準備
	12. 演習及び討議	発表の準備
	13. 演習及び討議	発表の準備
	14. 演習及び討議	発表の準備
	15. 演習及び討議	発表の準備
	16. 演習及び討議	発表の準備
	17. 演習及び討議	発表の準備
	18. 演習及び討議	発表の準備
	19. 演習及び討議	発表の準備
	20. 演習及び討議	発表の準備
	21. 演習及び討議	発表の準備
	22. 演習及び討議	発表の準備
	23. 演習及び討議	発表の準備
	24. 演習及び討議	発表の準備
	25. 演習及び討議	発表の準備
	26. 演習及び討議	発表の準備
	27. 演習及び討議	発表の準備
	28. 演習及び討議	発表の準備
	29. 演習及び討議	発表の準備
	30. 総括	論文執筆の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

学位取得をめざして頑張ってほしい

フィードバックの方法:

口頭発表についてはそのつど意見・批判を行う。論文については質問・相談に応じ、草稿に朱をいれて完成にむけて修正を行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート(論文)	100	論文の内容によって評価する

教科書:

特になし

参考書:

特になし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業時及び研究室にて対応。メールでも対応する。

授業テーマ:

明治期の和訳聖書の成立

授業の概要:

ヘボン訳マタイ伝の訳文をギリシャ語原文と英訳及び漢訳との関係を確認していく作業を行なう。

到達目標:

日本初の和訳聖書がどのように成立していったかを明らかにする。

授業方法:

演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	聖書和訳の歴史についての概説	聖書和訳史の研究書にどのようなものがあるかを調べておくこと。
2.	調査文献についての説明	
3.	調査方法の説明	
	ヘボンについて	ヘボンについて調べておくこと。
	第1章の検討	授業で検討する部分についての原文と英訳漢訳および「明治元訳」との本文対照表を作成しておくこと。
4.	第2章の検討	同上
5.	第3章の検討	同上
6.	第4章の検討	同上
7.	第一章の検討	同上
8.	第5章の検討	同上
9.	第6章の検討	同上
10.	第7章の検討	同上
11.	第8章の検討	同上
12.	第9章の検討	同上
13.	第10章の検討	同上
14.	第11章の検討	同上
15.	第12章の検討	同上
16.	第13章の検討	同上
17.	第14章の検討	同上
18.	第15章の検討	同上
19.	第16章の検討	同上
20.	第17章の検討	同上
21.	第18章の検討	同上
22.	第19章の検討	同上
23.	第20章の検討	同上
24.	第21章の検討	同上
25.	第22章の検討	同上
26.	第23章の検討	同上
27.	第24章の検討	同上
28.	第25章の検討	同上
29.	第26章の検討	同上
30.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

事前に現代訳マタイ伝を読んで内容について把握しておくこと。

フィードバックの方法:

授業時に口頭で行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加	50	正確な事前調査が行われているかを重視する
	レポート	50	新しい発見が行われているかを重視する

教科書:

市販なし。こちらで写真プリントを用意する。

参考書:

随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

OA, Eメール

授業テーマ:	20世紀前半の東アジアの「外地」の娯楽空間をめぐる旅																																																														
授業の概要:	日本には多種多様な音楽・芸能が存在し、それらを創出し奏でるパフォーマー、視聴するオーディエンスにより育まれてきた。またその中にはプロフェッショナルな立場とアマチュアの立場を往来しながら音楽文化活動を行っているものもいる。そして娯楽・教養を提供する劇場や映画館や学校などのハード面の創設とその場で展開されるパフォーマンスが、オーディエンスに感動をもたらすのである。本演習では、20世紀前半の遼東半島の大連(含朝鮮半島の京城(ソウル))における、多様な娯楽空間の成立とその展開を概観し、そのパフォーマンス(日本人と欧米人)の多様なプログラムについて、内地における公演と比較しながら考察を行う。																																																														
到達目標:	本演習では、1)大連・京城の都市空間における娯楽を提供する「場」がどのように立ち現れ、その背後にある経済界のサポートの仕掛け、内地の事例との関係性について、2)内地から両半島へのツアーがどのように実施されていたか、3)そのパフォーマンスの内容の意義、4)オーディエンスの反応を、現地で発行された邦字新聞を基に理解を深め、現代のパフォーマンスやパフォーマーに対する評価との共通点と相違点について理解を深める。																																																														
授業方法:	講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。																																																														
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 20世紀前半の東アジアにおける「外地」とは</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>2. 朝鮮半島・遼東半島への航路</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>3. 朝鮮半島内／から遼東半島・欧州への鉄道網</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>4. 京城(ソウル)の劇場・映画館・公会堂</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>5. 奉天(瀋陽)・新京(長春)・哈爾濱の劇場・映画館・公会堂</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>6. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(1)「大連歌舞伎座」</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>7. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(2)大連「電気遊園」の音楽堂・演芸館</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>8. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(3)大連基督教青年会館／大連ヤマトホテル</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>9. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(4)大連西公園の「大連能楽堂」</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>10. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(5)「大連劇場」</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>11. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(6)南満州鉄道「社員倶楽部」と「協和会館」</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>12. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(8)大連連鎖街の演芸館</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>13. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(7)「大連能楽殿」</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>14. 遼東半島・朝鮮半島における各種公演が行われた諸学校の講堂</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>15. 大連の娯楽空間:映画館</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>16. <和物>ライブ公演:歌舞伎(含新派劇)</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>17. <和物>ライブ公演:能楽</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>18. <和物>ライブ公演:浄瑠璃</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>19. <和物>ライブ公演:近世邦楽と日本舞踊</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>20. <和物>ライブ公演:浪曲・落語など</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>21. <和物・洋物>混合プログラム:演芸大会</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>22. <和物・洋物>混合プログラム:女性奇術師の公演</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>23. <洋物>ライブ公演:外地／内地の少女歌劇</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>24. <洋物>ライブ公演:世界的に活躍する男性クラシック音楽家</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>25. <洋物>ライブ公演:世界的に活躍する女性クラシック音楽家</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>26. <洋物>ライブ公演:世界的に活躍する欧米のバイオリニスト</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>27. <洋物>ライブ公演:世界的に活躍する欧米のピアノニスト</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>28. <和物>映画の上映:無声映画・トーキー</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>29. <洋物>映画の上映:無声映画・トーキー</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)</td></tr> <tr> <td>30. <草創期のラジオ放送>JQAK(大連放送局)／JOAK・JOBKからの中継</td><td>前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるもの)</td></tr> </tbody> </table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 20世紀前半の東アジアにおける「外地」とは	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	2. 朝鮮半島・遼東半島への航路	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	3. 朝鮮半島内／から遼東半島・欧州への鉄道網	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	4. 京城(ソウル)の劇場・映画館・公会堂	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	5. 奉天(瀋陽)・新京(長春)・哈爾濱の劇場・映画館・公会堂	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	6. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(1)「大連歌舞伎座」	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	7. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(2)大連「電気遊園」の音楽堂・演芸館	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	8. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(3)大連基督教青年会館／大連ヤマトホテル	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	9. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(4)大連西公園の「大連能楽堂」	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	10. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(5)「大連劇場」	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	11. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(6)南満州鉄道「社員倶楽部」と「協和会館」	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	12. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(8)大連連鎖街の演芸館	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	13. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(7)「大連能楽殿」	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	14. 遼東半島・朝鮮半島における各種公演が行われた諸学校の講堂	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	15. 大連の娯楽空間:映画館	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	16. <和物>ライブ公演:歌舞伎(含新派劇)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	17. <和物>ライブ公演:能楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	18. <和物>ライブ公演:浄瑠璃	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	19. <和物>ライブ公演:近世邦楽と日本舞踊	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	20. <和物>ライブ公演:浪曲・落語など	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	21. <和物・洋物>混合プログラム:演芸大会	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	22. <和物・洋物>混合プログラム:女性奇術師の公演	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	23. <洋物>ライブ公演:外地／内地の少女歌劇	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	24. <洋物>ライブ公演:世界的に活躍する男性クラシック音楽家	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	25. <洋物>ライブ公演:世界的に活躍する女性クラシック音楽家	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	26. <洋物>ライブ公演:世界的に活躍する欧米のバイオリニスト	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	27. <洋物>ライブ公演:世界的に活躍する欧米のピアノニスト	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	28. <和物>映画の上映:無声映画・トーキー	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	29. <洋物>映画の上映:無声映画・トーキー	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	30. <草創期のラジオ放送>JQAK(大連放送局)／JOAK・JOBKからの中継	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるもの)
授業内容	準備学習等の内容																																																														
1. 20世紀前半の東アジアにおける「外地」とは	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
2. 朝鮮半島・遼東半島への航路	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
3. 朝鮮半島内／から遼東半島・欧州への鉄道網	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
4. 京城(ソウル)の劇場・映画館・公会堂	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
5. 奉天(瀋陽)・新京(長春)・哈爾濱の劇場・映画館・公会堂	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
6. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(1)「大連歌舞伎座」	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
7. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(2)大連「電気遊園」の音楽堂・演芸館	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
8. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(3)大連基督教青年会館／大連ヤマトホテル	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
9. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(4)大連西公園の「大連能楽堂」	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
10. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(5)「大連劇場」	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
11. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(6)南満州鉄道「社員倶楽部」と「協和会館」	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
12. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(8)大連連鎖街の演芸館	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
13. 大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(7)「大連能楽殿」	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
14. 遼東半島・朝鮮半島における各種公演が行われた諸学校の講堂	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
15. 大連の娯楽空間:映画館	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
16. <和物>ライブ公演:歌舞伎(含新派劇)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
17. <和物>ライブ公演:能楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
18. <和物>ライブ公演:浄瑠璃	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
19. <和物>ライブ公演:近世邦楽と日本舞踊	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
20. <和物>ライブ公演:浪曲・落語など	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
21. <和物・洋物>混合プログラム:演芸大会	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
22. <和物・洋物>混合プログラム:女性奇術師の公演	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
23. <洋物>ライブ公演:外地／内地の少女歌劇	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
24. <洋物>ライブ公演:世界的に活躍する男性クラシック音楽家	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
25. <洋物>ライブ公演:世界的に活躍する女性クラシック音楽家	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
26. <洋物>ライブ公演:世界的に活躍する欧米のバイオリニスト	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
27. <洋物>ライブ公演:世界的に活躍する欧米のピアノニスト	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
28. <和物>映画の上映:無声映画・トーキー	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
29. <洋物>映画の上映:無声映画・トーキー	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)																																																														
30. <草創期のラジオ放送>JQAK(大連放送局)／JOAK・JOBKからの中継	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるもの)																																																														
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。																																																														

フィードバックの方法:	提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学期末のレポート	55%	課題各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
	授業への参加度	25%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。
	発表、ディスカッション	20%	準備学習（予習、復習）、受講者のコメントの読み取りから、総合的に授業目標の達成の有無を判断する。
教科書:	特に指定しない。		
参考書:	講義時に適宜、提示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:	日本語の辞書類に関する諸問題																																																																
授業の概要:	日本語の辞書類(辞典・字典・字典など)を対象に、種々の研究成果を参照しつつ、その理想と現実をめぐって考究する。																																																																
到達目標:	辞書類を的確に批評する力をやしなうことを主たる目標とする。																																																																
授業方法:	参加者による報告・質疑を中心とする。																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>指示された課題にとりくむ。</td></tr><tr><td>2. 辞書とは何か(1)</td><td>指示された課題にとりくむ。</td></tr><tr><td>3. 辞書とは何か(2)</td><td>指示された課題にとりくむ。</td></tr><tr><td>4. 辞書とは何か(3)</td><td>指示された課題にとりくむ。</td></tr><tr><td>5. 辞書の分類(1)</td><td>指示された課題にとりくむ。</td></tr><tr><td>6. 辞書の分類(2)</td><td>指示された課題にとりくむ。</td></tr><tr><td>7. 辞書の分類(3)</td><td>指示された課題にとりくむ。</td></tr><tr><td>8. 辞書の構成(1)</td><td>指示された課題にとりくむ。</td></tr><tr><td>9. 辞書の構成(2)</td><td>指示された課題にとりくむ。</td></tr><tr><td>10. 辞書の構成(3)</td><td>指示された課題にとりくむ。</td></tr><tr><td>11. 辞書の構成(4)</td><td>指示された課題にとりくむ。</td></tr><tr><td>12. 辞書の構成(5)</td><td>指示された課題にとりくむ。</td></tr><tr><td>13. 辞書の構成(6)</td><td>指示された課題にとりくむ。</td></tr><tr><td>14. 辞書の構成(7)</td><td>指示された課題にとりくむ。</td></tr><tr><td>15. 春学期の総括</td><td>指示された課題にとりくむ。</td></tr><tr><td>16. 辞書に関する研究の報告(1)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>17. 辞書に関する研究の報告(2)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>18. 辞書に関する研究の報告(3)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>19. 辞書に関する研究の報告(4)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>20. 辞書に関する研究の報告(5)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>21. 辞書に関する研究の報告(6)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>22. 辞書に関する研究の報告(7)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>23. 辞書に関する研究の報告(8)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>24. 辞書に関する研究の報告(9)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>25. 辞書に関する研究の報告(10)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>26. 辞書に関する研究の報告(11)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>27. 辞書に関する研究の報告(12)</td><td>報告または質疑の準備をする。</td></tr><tr><td>28. 学期末レポートを作成する(1)</td><td>学期末レポートの草稿を作成する。</td></tr><tr><td>29. 学期末レポートを作成する(2)</td><td>学期末レポートの草稿を作成する。</td></tr><tr><td>30. 学期末レポートを作成する(3)</td><td>学期末レポートの草稿を作成する。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション	指示された課題にとりくむ。	2. 辞書とは何か(1)	指示された課題にとりくむ。	3. 辞書とは何か(2)	指示された課題にとりくむ。	4. 辞書とは何か(3)	指示された課題にとりくむ。	5. 辞書の分類(1)	指示された課題にとりくむ。	6. 辞書の分類(2)	指示された課題にとりくむ。	7. 辞書の分類(3)	指示された課題にとりくむ。	8. 辞書の構成(1)	指示された課題にとりくむ。	9. 辞書の構成(2)	指示された課題にとりくむ。	10. 辞書の構成(3)	指示された課題にとりくむ。	11. 辞書の構成(4)	指示された課題にとりくむ。	12. 辞書の構成(5)	指示された課題にとりくむ。	13. 辞書の構成(6)	指示された課題にとりくむ。	14. 辞書の構成(7)	指示された課題にとりくむ。	15. 春学期の総括	指示された課題にとりくむ。	16. 辞書に関する研究の報告(1)	報告または質疑の準備をする。	17. 辞書に関する研究の報告(2)	報告または質疑の準備をする。	18. 辞書に関する研究の報告(3)	報告または質疑の準備をする。	19. 辞書に関する研究の報告(4)	報告または質疑の準備をする。	20. 辞書に関する研究の報告(5)	報告または質疑の準備をする。	21. 辞書に関する研究の報告(6)	報告または質疑の準備をする。	22. 辞書に関する研究の報告(7)	報告または質疑の準備をする。	23. 辞書に関する研究の報告(8)	報告または質疑の準備をする。	24. 辞書に関する研究の報告(9)	報告または質疑の準備をする。	25. 辞書に関する研究の報告(10)	報告または質疑の準備をする。	26. 辞書に関する研究の報告(11)	報告または質疑の準備をする。	27. 辞書に関する研究の報告(12)	報告または質疑の準備をする。	28. 学期末レポートを作成する(1)	学期末レポートの草稿を作成する。	29. 学期末レポートを作成する(2)	学期末レポートの草稿を作成する。	30. 学期末レポートを作成する(3)	学期末レポートの草稿を作成する。		
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. オリエンテーション	指示された課題にとりくむ。																																																																
2. 辞書とは何か(1)	指示された課題にとりくむ。																																																																
3. 辞書とは何か(2)	指示された課題にとりくむ。																																																																
4. 辞書とは何か(3)	指示された課題にとりくむ。																																																																
5. 辞書の分類(1)	指示された課題にとりくむ。																																																																
6. 辞書の分類(2)	指示された課題にとりくむ。																																																																
7. 辞書の分類(3)	指示された課題にとりくむ。																																																																
8. 辞書の構成(1)	指示された課題にとりくむ。																																																																
9. 辞書の構成(2)	指示された課題にとりくむ。																																																																
10. 辞書の構成(3)	指示された課題にとりくむ。																																																																
11. 辞書の構成(4)	指示された課題にとりくむ。																																																																
12. 辞書の構成(5)	指示された課題にとりくむ。																																																																
13. 辞書の構成(6)	指示された課題にとりくむ。																																																																
14. 辞書の構成(7)	指示された課題にとりくむ。																																																																
15. 春学期の総括	指示された課題にとりくむ。																																																																
16. 辞書に関する研究の報告(1)	報告または質疑の準備をする。																																																																
17. 辞書に関する研究の報告(2)	報告または質疑の準備をする。																																																																
18. 辞書に関する研究の報告(3)	報告または質疑の準備をする。																																																																
19. 辞書に関する研究の報告(4)	報告または質疑の準備をする。																																																																
20. 辞書に関する研究の報告(5)	報告または質疑の準備をする。																																																																
21. 辞書に関する研究の報告(6)	報告または質疑の準備をする。																																																																
22. 辞書に関する研究の報告(7)	報告または質疑の準備をする。																																																																
23. 辞書に関する研究の報告(8)	報告または質疑の準備をする。																																																																
24. 辞書に関する研究の報告(9)	報告または質疑の準備をする。																																																																
25. 辞書に関する研究の報告(10)	報告または質疑の準備をする。																																																																
26. 辞書に関する研究の報告(11)	報告または質疑の準備をする。																																																																
27. 辞書に関する研究の報告(12)	報告または質疑の準備をする。																																																																
28. 学期末レポートを作成する(1)	学期末レポートの草稿を作成する。																																																																
29. 学期末レポートを作成する(2)	学期末レポートの草稿を作成する。																																																																
30. 学期末レポートを作成する(3)	学期末レポートの草稿を作成する。																																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	参加者の興味・関心や報告等の進捗状況によって、授業内容の構成等が変更されることがあります。																																																																
フィードバックの方法:	基本的には授業時に対応します。																																																																
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>50</td><td>到達目標により評価する。</td></tr><tr><td>学期末レポート</td><td>50</td><td>学期末レポートとしての完成度により評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業への参加度	50	到達目標により評価する。	学期末レポート	50	学期末レポートとしての完成度により評価する。																																																							
評価方法	割合	評価基準																																																															
授業への参加度	50	到達目標により評価する。																																																															
学期末レポート	50	学期末レポートとしての完成度により評価する。																																																															
教科書:																																																																	
参考書:	適宜、紹介する。																																																																
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, 思いやる力。																																																																
教員との連絡方法:	参加者と相談のうえ決定する。																																																																

授業テーマ:

日本近現代文学研究の方法と読解

授業の概要:

19世紀半ばから現在に及ぶ長い期間に生成した日本近代文学の諸作品を読みながら、その研究と方法について考えます。明治初期に発生した日本近代文学と呼ばれる範疇は、もはや150年ちかくの歴史を持つこととなった。本授業では、その歴史をたどりながら、作品がもつ文学的喚起力を手掛かりに、文学研究の方法を学びます。
具体的には受講生が任意に作品を選択して、それを基盤に文学分析の様々な方法にアプローチします。特に文学理論の応用をどのように考えていけばいいかについてじっくりと考えていきたいと思います。
受講生は本授業の履修を通じて、文学研究とは何か、という根源的な問題について考えていってもらいたいと望んでいます。

到達目標:

受講生各自が文学研究の目的と、その実践について深い認識を得ること。
文学理論の受容を通じて文学研究の目的を考えること

授業方法:

講義と発表、ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 日本近現代文学の流れ1 明治期文学と近代化への目覚め	日本近代文学史の概略を学習する
	2. 日本近現代文学の流れ2 大正期から昭和期の文学勃興期	日本近代文学史の概略を学習する
	3. 日本近現代文学の流れ3 昭和文学と戦争	日本近代文学史の概略を学習する
	4. 日本近現代文学の流れ4 戦後文学から高度経済成長へ	日本近代文学史の概略を学習する
	5. 日本近現代文学の流れ5 同時代文学とジェンダー	日本近代文学史の概略を学習する
	6. プレゼンテーション1 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	7. プレゼンテーション2 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	8. プレゼンテーション3 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	9. プレゼンテーション4 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	10. プレゼンテーション5 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	11. プレゼンテーション6 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	12. プレゼンテーション7 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	13. プレゼンテーション8 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	14. プレゼンテーション9 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	15. 総合討議	前期末レポート作成の準備
	16. 日本文学研究と文学理論1 ナラトロジー	文学理論の読解と質問
	17. 日本文学研究と文学理論2 文体論	文学理論の読解と質問
	18. 日本文学研究と文学理論3 構造主義からポスト構造主義へ	文学理論の読解と質問
	19. 日本文学研究と文学理論4 ジェンダー理論	文学理論の読解と質問
	20. 日本文学研究と文学理論5 ポストコロニアル理論	文学理論の読解と質問
	21. プレゼンテーション1 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	22. プレゼンテーション2 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	23. プレゼンテーション3 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	24. プレゼンテーション4 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	25. プレゼンテーション5 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	26. プレゼンテーション6 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	27. プレゼンテーション7 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	28. プレゼンテーション8 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	29. プレゼンテーション9 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
	30. 総合討議	後期レポート作成と準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業では日本文学を研究するということがどのような意味を持ち、またその実践に向けてどのような基礎知識を学習しなければならないかについて勉強します。自分の主たる研究テーマに沿って、受講生は自由にそのテーマを考えてゆくとともに、具体的な作品分析の方法についても学びます。毎授業時に出たトピックについて、毎回それを身に付けていくスキルを獲得してください。

フィードバックの方法:	学生自身の専攻分野を問わず、各自の修士論文に資するように、研究技能の習得を目指します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業の参加度	50	授業の出席、課題の進捗状況などを加味して総合的に判断する
	各期末レポート	30	
	発表	20	
教科書:	中川成美『戦争をよむー70冊の小説案内』(岩波新書、2017)		
参考書:	受講時に各自に指示します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、文学理論の読解力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	授業時に指示します		

授業テーマ:	平安朝和歌表現から研究する		
授業の概要:	百人一首をテキストにして、和歌の表現の扱い方について論じる。		
到達目標:	各自問題点を提起し、国歌大観などの検索を通して論文として書けるようになる。		
授業方法:	講義中心だが、検索作業や発表も含む。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 概論。一年間の予定などを確認する。いろいろな参考資料が使えるようにする。	担当したい和歌を考えてくる。	
	2. 和歌の技法を考える(1)掛詞	複数の辞書を調べてみる。	
	3. 和歌の技法を考える(2)縁語	国歌大観で検索してみる。	
	4. 和歌の技法を考える(3)枕詞	サイニーで検索してみる。	
	5. 和歌の技法を考える(4)序詞	ジャパナレッジで検索してみる。	
	6. 和歌の技法を考える(5)歌枕	国文学研究資料館の論文目録で検索してみる。	
	7. 和歌の表現を考える(1)歌語・非歌語	注釈書で検索してみる。	
	8. 和歌の表現を考える(2)春夏秋冬	歌語辞典などを調べてみる。	
	9. 和歌の表現を考える(3)時間表現	先行文献を批判的に読む	
	10. 和歌の表現を考える(4)後朝	問題点のセールスポイントを明確にしてみる。	
	11. 和歌の物語性を考える(1)伊勢物語	用例の分類を通して方向性を定められるようにする。	
	12. 和歌の物語性を考える(2)蜻蛉日記	レポート執筆に際しての論の展開を考える。	
	13. 和歌の物語性を考える(3)枕草子	自身の解釈や発見と先行文献との違いを明確にする。	
	14. 和歌の物語性を考える(4)十訓抄	論をさらに深めるような工夫を考える。	
	15. 前半の総括	見直しをして誤字などを修正する。	
	16. 初出表現や用例の少ない表現をみつけていく。	国歌大観を活用する	
	17. 特定の表現の歴史的変遷をたどる。	国歌大観を活用する	
	18. 特定の表現の傾向を把握する。	国歌大観を活用する。	
	19. 『万葉集』などとの訓読の違いを理解する。		
	20. 勅撰集や私家集との設定状況の違いを理解する。		
	21. 和歌と散文での状況の違いを理解する。		
	22. 藤原定家の引歌を考える。		
	23. 藤原定家以外の引歌を考える。		
	24. 百人一首の古注と新注の違いを考える。		
	25. 百人一首歌の解釈の分かれについて考えてみる。		
	26. 各自のテーマに基づいて研究発表を行なう。		
	27. 各自のテーマに基づいて研究発表を行なう。		
	28. レポート作成を目指して議論を深める。		
	29. レポート作成をめざして議論を深める。		
	30. 総括を行なう。		
受講者へのメッセージやアドバイス:	日本の古典文学における和歌の特殊性を、自らの作業を通して認識してもらいたい。		
フィードバックの方法:	授業時常に質問の時間を設ける。また発表などを行なった場合は必ずそれについての意見交換を行なう。レポートの添削も行なっていく。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	8割	年度末提出のレポートによって評価する。
	出席	2割	普段の授業への出席・参加度を評価する。
教科書:	吉海直人『読んで楽しむ百人一首』(角川書店)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, 変化対応力, 自己管理能力, 自己実現力		
教員との連絡方法:	原則は研究室で対応する。その他メールなどによる連絡も可能。		

授業テーマ：	オペラ作品の歌唱とその表現		
授業の概要：	オペラ作品のアリア、重唱の歌唱、演技を通じて音楽作品再現時に、自分自身の個性と音楽スタイルの調和をどう図るか演習・演唱を通じて考察する。		
到達目標：	作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、歌詞に対する語感を養い表現技術を高める。		
授業方法：	演習・演唱・ディスカッション		
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション、及び声質に合う曲目の選択。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	2. モーツァルト作品①		
	3. モーツァルト作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	4. モーツァルト作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	5. モーツァルト作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	6. モーツァルト作品⑤	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	7. ロッシーニ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	8. ロッシーニ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	9. ロッシーニ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	10. ロッシーニ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	11. ドニゼッティ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	12. ドニゼッティ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	13. ドニゼッティ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	14. ドニゼッティ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の研究発表までに修正しておくこと。	
	15. 研究発表		
	16. ヴェルディ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	17. ヴェルディ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	18. ヴェルディ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	19. ヴェルディ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	20. プッチーニ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	21. プッチーニ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	22. プッチーニ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	23. プッチーニ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	24. プッチーニ作品⑤	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	25. 各自の個性に合った作品研究①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	

26. 各自の個性に合った作品研究②
与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
27. 各自の個性に合った作品研究③
与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
28. 各自の個性に合った作品研究④
与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
29. 各自の個性に合った作品研究⑤
与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の研究発表までに修正しておくこと。
30. 研究発表

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	60%	積極的に授業に参加し、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。
研究発表	40%	研究発表により、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。

教科書: その都度指定する。

参考書: 授業内で紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Eメール

授業テーマ：非和声音を含む四声体和声

授業の概要：非和声音を用いたバス課題とソプラノ課題の実習

到達目標：正確かつ美しい四声体和声を書くスキルを習得

授業方法：課題実習、個別指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の概要の説明と準備	教科書を整える
2.	個別指導1	課題実習
3.	個別指導2	課題実習
4.	個別指導3	課題実習
5.	個別指導4	課題実習
6.	個別指導5	課題実習
7.	個別指導6	課題実習
8.	個別指導7	課題実習
9.	個別指導8	課題実習
10.	個別指導9	課題実習
11.	個別指導10	課題実習
12.	個別指導11	課題実習
13.	個別指導12	課題実習
14.	個別指導13	課題実習
15.	個別指導14	課題実習
16.	個別指導15	課題実習
17.	個別指導16	課題実習
18.	個別指導17	課題実習
19.	個別指導18	課題実習
20.	個別指導19	課題実習
21.	個別指導20	課題実習
22.	個別指導21	課題実習
23.	個別指導22	課題実習
24.	個別指導23	課題実習
25.	個別指導24	課題実習
26.	個別指導25	課題実習
27.	個別指導26	課題実習
28.	個別指導27	課題実習
29.	個別指導28	課題実習
30.	総合	課題実習

受講者へのメッセージやアドバイス：和声法I、和声法II、和声法II、和声法IV、和声法V、和声法VI、和声法VII、和声法VIIIの内容を理解していることが望ましい。

フィードバックの方法：毎回の授業でフィードバック

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題実習	80	
	平常点	20	学習態度による平常点

教科書：和声―理論と実習 III（音楽之友社）
Henri Challan著 380 Basses et chants donnés / 第9巻 9a Textes (Leduc)
Henri Challan著 380 Basses et chants donnés / 第10巻 10a Textes第10巻 (Leduc)

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、創造力、構成力

教員との連絡方法：研究室で対応

授業テーマ:

スペイン音楽研究

授業の概要:

スペイン音楽の歴史は、ローマ帝国の植民地だった古代から始まり、イスラム教徒たちによる占領時代のアラビア音楽の影響、多くのロマの人々の存在によるジプシー音楽の影響、そして地域ごとに非常に特色のある民俗音楽の展開、そして近現代におけるヨーロッパ近隣諸国からの影響などで、非常に複雑なものとなっている。そのような複雑な音楽史を通史的考察により把握しようと試みる。

到達目標:

知識・理解: 英語による読解によってスペイン音楽史を理解する。
関心・意欲・態度: 毎回の予習復習によって授業内容を深める。
表現・技能・能力: 最終レポートによって自らの知識をまとめる。

授業方法:

Gilbert Chase, The Music of Spain (Dover, 1960)を読み進めて行く。必要に応じて参考資料などを配布し、視聴覚資料についても当該機器を活用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入:スペイン音楽	スペイン音楽についての興味を探る。
2.	テキスト講読。「ルネサンス時代の世俗音楽」1	「ルネサンス時代の世俗音楽」1の部分を読んでおく。
3.	テキスト講読。「ルネサンス時代の世俗音楽」2	「ルネサンス時代の世俗音楽」2の部分を読んでおく。
4.	テキスト講読。「ルネサンス時代の世俗音楽」3	「ルネサンス時代の世俗音楽」3の部分を読んでおく。
5.	テキスト講読。「初期ギターの巨匠たち」1	「初期ギターの巨匠たち」1の部分を読んでおく。
6.	テキスト講読。「初期ギターの巨匠たち」2	「初期ギターの巨匠たち」2の部分を読んでおく。
7.	テキスト講読。「初期ギターの巨匠たち」3	「初期ギターの巨匠たち」3の部分を読んでおく。
8.	テキスト講読。「オルガン奏者と音楽理論家」1	「オルガン奏者と音楽理論家」1を読んでおく。
9.	テキスト講読。「オルガン奏者と音楽理論家」2	「オルガン奏者と音楽理論家」2を読んでおく。
10.	テキスト講読。「オルガン奏者と音楽理論家」3	「オルガン奏者と音楽理論家」3を読んでおく。
11.	テキスト講読。「スカルラッティを中心として」1	「スカルラッティを中心として」1を読んでおく。
12.	テキスト講読。「スカルラッティを中心として」2	「スカルラッティを中心として」2を読んでおく。
13.	テキスト講読。「スカルラッティを中心として」3	「スカルラッティを中心として」3を読んでおく。
14.	テキスト講読。「アルベニスとグラナドス」1	「アルベニスとグラナドス」1を読んでおく。
15.	テキスト講読。「アルベニスとグラナドス」2	「アルベニスとグラナドス」2を読んでおく。
16.	テキスト講読。「アルベニスとグラナドス」3	「アルベニスとグラナドス」3を読んでおく。
17.	テキスト講読。「マヌエル・デ・ファリャ」1	「マヌエル・デ・ファリャ」1を読んでおく。
18.	テキスト講読。「マヌエル・デ・ファリャ」2	「マヌエル・デ・ファリャ」2を読んでおく。
19.	テキスト講読。「マヌエル・デ・ファリャ」3	「マヌエル・デ・ファリャ」3を読んでおく。
20.	テキスト講読。「若い世代」1	「若い世代」1を読んでおく。
21.	テキスト講読。「若い世代」2	「若い世代」2を読んでおく。
22.	テキスト講読。「若い世代」3	「若い世代」3を読んでおく。
23.	テキスト講読。「名演奏家たち」1	「名演奏家たち」1を読んでおく。
24.	テキスト講読。「名演奏家たち」2	「名演奏家たち」2を読んでおく。
25.	テキスト講読。「名演奏家たち」3	「名演奏家たち」3を読んでおく。
26.	テキスト講読。「イベリアの民族音楽」1	「イベリアの民族音楽」1を読んでおく。
27.	テキスト講読。「イベリアの民族音楽」2	「イベリアの民族音楽」2を読んでおく。
28.	テキスト講読。「イベリアの民族音楽」3	「イベリアの民族音楽」3を読んでおく。
29.	テキスト講読。「1941年以後のスペイン音楽」1	「1941年以後のスペイン音楽」1を読んでおく。
30.	テキスト講読。「1941年以後のスペイン音楽」2	「1941年以後のスペイン音楽」2を読んでおく。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: レポートについては、可能な範囲で、コメントおよび解説をする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50	到達目標に達しているかどうかで評価する
	授業への積極的参加	50	授業へ積極的に参加しているかどうかで評価する

教科書: プリント

参考書: 講義時に適宜必要に応じ指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール: rshiina@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

音楽美学研究

授業の概要:

哲学的観点から音楽美学を捉え直す方法を探る。そのために、哲学と芸術、哲学と音楽(美学)の接点において重要な役割を果たした著作を、なるべく原文(最低限、英文)によって読み解いてゆく。具体的には、ショーペンハウアー、ニーチェ、ベルグソン、フッサール、ハイデッガー、ズッカーカンドル、ダールハウス、ダニエル・シャルルなどの著作から適宜選択する。

到達目標:

知識・理解:テキストの講読によって哲学的観点による音楽美学を理解する。
関心・意欲・態度:毎回の予習復習によって関心をもって学習する。
表現・技能・能力:学習によって得られた知識にもとづき自らの思考を構築する。

授業方法:

テキスト(主に英文)の講読と討論。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 導入とテキスト選定。	自らの音楽美学的興味について考えておく。
	2. 講読(テキスト1〜3頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト1〜3頁部分を読んでおく。
	3. 講読(テキスト4〜6頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト4〜6頁部分を読んでおく。
	4. 講読(テキスト7〜9頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト7〜9頁部分を読んでおく。
	5. 講読(テキスト10〜12頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト10〜12頁部分を読んでおく。
	6. 講読(テキスト13〜15頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト13〜15頁部分を読んでおく。
	7. 講読(テキスト16〜18頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト16〜18頁部分を読んでおく。
	8. 講読(テキスト19〜21頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト19〜21頁部分を読んでおく。
	9. 講読(テキスト22〜24頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト22〜24頁部分を読んでおく。
	10. 講読(テキスト25〜27頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト25〜27頁部分を読んでおく。
	11. 講読(テキスト28〜30頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト28〜30頁部分を読んでおく。
	12. 講読(テキスト31〜33頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト31〜33頁部分を読んでおく。
	13. 講読(テキスト34〜36頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト34〜36頁部分を読んでおく。
	14. 講読(テキスト37〜39頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト37〜39頁部分を読んでおく。
	15. 講読(テキスト40〜42頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト40〜42頁部分を読んでおく。
	16. 講読(テキスト43〜45頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト43〜45頁部分を読んでおく。
	17. 講読(テキスト46〜48頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト46〜48頁部分を読んでおく。
	18. 講読(テキスト49〜51頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト49〜51頁部分を読んでおく。
	19. 講読(テキスト52〜54頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト52〜54頁部分を読んでおく。
	20. 講読(テキスト55〜57頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト55〜57頁部分を読んでおく。
	21. 講読(テキスト58〜60頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト58〜60頁部分を読んでおく。
	22. 講読(テキスト61〜63頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト61〜63頁部分を読んでおく。
	23. 講読(テキスト64〜66頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト64〜66頁部分を読んでおく。
	24. 講読(テキスト67〜69頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト67〜69頁部分を読んでおく。
	25. 講読(テキスト70〜72頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト70〜72頁部分を読んでおく。
	26. 講読(テキスト73〜75頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト73〜75頁部分を読んでおく。
	27. 講読(テキスト76〜78頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト76〜78頁部分を読んでおく。
	28. 講読(テキスト79〜81頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト79〜81頁部分を読んでおく。
	29. 講読(テキスト82〜84頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト82〜84頁部分を読んでおく。
	30. 講読(テキスト85〜87頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト85〜87頁部分を読んでおく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポートについては、可能な範囲で、コメント・解説をする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50	到達目標に達しているかどうかで評価する。
	授業への積極的参加	50	授業へ積極的に参加しているかどうかで評価する。

教科書:

プリント

参考書:

適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール: rshiina@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

レトリック論と文学

授業の概要:

レトリック(修辞)という言葉現象の解明に向けて、1970年代以降、さまざまな研究領域からアプローチがなされている。この授業では近年のレトリック論を概観し、受講生の関心にしたがって、そのなかから特定のテーマに関する研究についてより深く学ぶ。そこで得た知見をもとに特定の文学作品におけるレトリックの分析を試みる。

到達目標:

1.伝統的なレトリック観について説明できる
2.認知科学やコミュニケーション論とレトリックとの関係を説明できる
3.上記の知見をもとに近現代文学のレトリックについて分析できる

授業方法:

毎週、受講生が教科書の各章をレジュメにまとめて発表し、その内容について議論しながら理解を深める。特定テーマ研究では、受講生が関心を持ったテーマについて、より踏み込んだ論考を対象にする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス(授業の進め方、発表スケジュール)	
	2. 伝統的なレトリック観1	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	3. 伝統的なレトリック観2	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	4. 伝統的なレトリック観3	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	5. 認知革命とレトリック1	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	6. 認知革命とレトリック2	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	7. 認知革命とレトリック3	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	8. コミュニケーションとレトリック1	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	9. コミュニケーションとレトリック2	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	10. コミュニケーションとレトリック3	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	11. コミュニケーションとレトリック4	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	12. 哲学思想とレトリック1	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	13. 哲学思想とレトリック2	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	14. 哲学思想とレトリック3	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	15. 前期のまとめ	
	16. 前期の復習	
	17. レトリック論の総括と展望1	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	18. レトリック論の総括と展望2	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	19. 問題点の再確認とより深く探求するテーマの決定	
	20. 特定テーマ研究1	発表準備
	21. 特定テーマ研究2	発表準備
	22. 特定テーマ研究3	発表準備
	23. 特定テーマ研究4	発表準備
	24. 特定テーマ研究5	発表準備
	25. 文学テキストのレトリック分析1	発表準備
	26. 文学テキストのレトリック分析2	発表準備
	27. 文学テキストのレトリック分析3	発表準備
	28. 文学テキストのレトリック分析4	発表準備
	29. 文学テキストのレトリック分析5	発表準備
	30. 後期のまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！

受講人数にもよるが、教科書やより専門的な文献の内容を毎週(or隔週)レジュメにまとめる作業が課される。

フィードバックの方法:

授業中に発表に対してコメントする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	報告・議論の内容	60	※欠席:1回…ー5点、2回…ー15点、3回…ー30点、4回…ー50点
	期末レポート	40	

教科書:

菅野盾樹編『レトリック論を学ぶ人のために』(世界思想社、2007)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

学内メール:kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ：日本語史に関する研究

授業の概要：日本語史に関わる最新の論文を読み、日本語史研究の動向を知ると同時に、論文の読み方を学び、仮に設定したテーマに関わるレビューを作成する

到達目標：①日本語史についての知識を得る。(知識・理解)
②身近な日本語の歴史的变化について関心をもち、説明できるようにする(関心・意欲・態度)
③日本語の歴史に関する論文のサマリーを簡潔にまとめることができる。(表現・技能)

授業方法：講義とディスカッションを中心に進める。説明を聞いた上で、各自が担当する論文を精読してきた上で要約して説明し、その内容についてディスカッションを行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス・担当決め	特になし
2.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
3.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
4.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
5.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
6.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
7.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
8.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
9.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
10.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
11.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
12.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
13.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
14.	春学期講読分のまとめ1	特になし
15.	春学期講読分のまとめ2	特になし
16.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
17.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
18.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
19.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
20.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
21.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
22.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
23.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
24.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
25.	秋学期講読分のまとめ	特になし
26.	年間講読分のまとめ	特になし
27.	仮想の課題についての「レビュー」を各	レビュー原案の作成
28.	レビュー(レポート)作成指導	レビュー原案の作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法：授業中に解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加と貢献度	50%	各授業の発表や質疑応答により、到達目標①②の達成度を評価する。
レポート	50%	レポートにより、到達目標③の達成度を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡
方法:

Eメールによる(アドレスは授業時に開示する)

3M0102

専門実技(声楽)

永松 圭子

授業テーマ:	専門実技																																		
授業の概要:	声楽コースの全学生が4年間必修とする専門実技。																																		
到達目標:	各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。																																		
授業方法:	個人指導																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 個人指導①</td><td>授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験・コンサートシリーズ(4年次生)で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通じて近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。</td></tr><tr><td>2. 個人指導②</td><td>前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。</td></tr><tr><td>3. 個人指導③</td><td>前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。</td></tr><tr><td>4. 個人指導④</td><td>前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。</td></tr><tr><td>5. 個人指導⑤</td><td>前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。</td></tr><tr><td>6. 個人指導⑥</td><td>前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。</td></tr><tr><td>7. 個人指導⑦</td><td>前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。</td></tr><tr><td>8. 個人指導⑧</td><td>前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。</td></tr><tr><td>9. 個人指導⑨</td><td>前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。</td></tr><tr><td>10. 個人指導⑩</td><td>前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。</td></tr><tr><td>11. 個人指導⑪</td><td>前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。</td></tr><tr><td>12. 個人指導⑫</td><td>前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。</td></tr><tr><td>13. 個人指導⑬</td><td>前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。</td></tr><tr><td>14. 個人指導⑭</td><td>前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。</td></tr><tr><td>15. 個人指導⑮</td><td>前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験・コンサートシリーズ(4年次生)で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通じて近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。	2. 個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	3. 個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	4. 個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	5. 個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	6. 個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	7. 個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	8. 個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	9. 個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	10. 個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	11. 個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	12. 個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	13. 個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	14. 個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	15. 個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験・コンサートシリーズ(4年次生)で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通じて近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。																																		
2. 個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。																																		
3. 個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。																																		
4. 個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。																																		
5. 個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。																																		
6. 個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。																																		
7. 個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。																																		
8. 個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。																																		
9. 個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。																																		
10. 個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。																																		
11. 個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。																																		
12. 個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。																																		
13. 個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。																																		
14. 個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。																																		
15. 個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>実技試験</td><td>100%</td><td>到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。ただし、4年次生については「コンサートシリーズ」への出演を前提とする。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。ただし、4年次生については「コンサートシリーズ」への出演を前提とする。																												
評価方法	割合	評価基準																																	
実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。ただし、4年次生については「コンサートシリーズ」への出演を前提とする。																																	
教科書:	学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。																																		
参考書:	学生各々に対応した資料を適宜指定する。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	Eメール																																		

授業テーマ:	世界遺産富士山の保護と活用	
授業の概要:	本演習では、静岡県世界遺産センター整備課の御指導の下、UNESCO世界文化遺産に登録されている富士山を対象としたプロジェクトに従事します。 このような計画の下、当該機関の要請を踏まえた上で、受講生自らが主体的に目的やテーマを設定し、実地調査を企画・実施します。具体的には、富士山観光の拠点である富士宮市におけるインバウンド対応を対象として、現地での幅広い取り組みを学ぶとともに御指導を受けながら、その実現に貢献しうるデータ収集のための観察や聞き取りなどの現地調査を行う予定です。	
到達目標:	・実社会が求める課題を理解し対応するための幅広い視野や能力を身に付ける。 ・現実課題の解決を前提とした社会調査の方法とスキルを習得する。 ・実体験を通して自らのキャリア形成やライフプランニングを再考する。 ・自らの調査内容を第三者に説得的に説明できる表現力とプレゼンテーション力を身に付ける。	
授業方法:	演習形式＆実習形式 ・事前学習(1～4回)・事後学習(12～15回)は演習形式で行い、プロジェクトの準備やまとめに関連する発表と討論を実施します。 ・事前・事後授業は受講生と日程調整の上、水曜日の4限目以降に行う予定です。 ・プロジェクト実習(5～11回)は実習形式で行い、8月上旬に現地調査や協力機関とのワークショップなどを実施する予定です。 ・受講生の数によりますが、事前と事後に最低2回は報告・発表を担当していただく予定です。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 事前学習Ⅰ:プロジェクト概要説明	事前にシラバスをよく読んでプロジェクトの目的や計画、到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
	2. 事前学習Ⅱ:プロジェクト計画立案	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。
	3. 事前学習Ⅲ:プロジェクト計画決定	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。
	4. 事前学習Ⅳ:プロジェクト実施準備	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。
	5. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	6. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	7. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	8. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	9. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	10. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	11. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	12. 事後学習Ⅰ:活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。
	13. 事後学習Ⅱ:活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。
	14. 事後学習Ⅲ:報告書作成計画	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。
	15. 事後学習Ⅳ:総括と評価	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。 プロジェクト実習や事前・事後学習の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者への メッセージや アドバイス:	本演習の受講生には、自らのキャリア形成やライフプラン構築のための有意義な経験とされるとともに、国際的な文化財行政の役割や価値について理解を深められることを期待しています。 昨年度は、富士宮市において現地でご協力いただいた方々を対象とした調査報告会を実施しました。この報告会は、本年度も開催する予定です。		
フィードバックの 方法:	・最終回に、各受講生に対して総評と評価を行います。各回の個別の諸活動後にアドバイスや評価を行います。 ・またレポート(報告書)も、最終回に返却するとともに評価を直接お伝えいたします。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表	20%	発表は、到達目標である「実社会が求める課題を理解し対応するための視点・能力」に基づいているか評価します。
	レポート	20%	レポート(報告書)は、到達目標である「自らの調査内容を第三者に説得的に説明できる表現力とプレゼンテーション力」に基づいて制作できているか評価します。
	授業への参加度	60%	到達目標である「社会調査のため方法とスキル」を習得しようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と積極的な発言を求めます。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	オフィスパワーを含めご質問などには随時対応いたします。 また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。		

授業テーマ:	北海道富良野地域を対象とした地域のありかたとまちづくりの実態調査		
授業の概要:	北海道富良野地域を対象とし、そこで展開される地域観光や政策、地域住民の視点などを、観光学的・地理学的・社会学など幅広い観点から実体験し、学習することを通して、農村地域の展開の可能性について総合的に考える。		
到達目標:	1:地域調査の実態を現地において実地に学ぶ。 2:観光や地域文化のみならず、社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるか、実践的に関心をもつ。 さらに幅広い社会調査を通して現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養う。		
授業方法:	事前学習とともに、実際に北海道富良野に8日間滞在し、現地調査と発信を中心に行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1.	ガイダンス 北海道富良野地域のありかた(事前学習)	配布資料の確認
	2.	富良野の観光と歴史的背景(事前学習)	配布資料の確認
	3.	地域学習におけるグループ分けと課題の考察(事前学習)	配布資料の確認
	4.	北海道富良野における現地学習調査 富良野地域の概要	配布資料の確認
	5.	北海道富良野における現地学習調査 ラベンダー観光の現状と課題	配布資料の確認
	6.	北海道富良野における現地学習調査3 地域の食を通じた地域振興	現地の状況に関する予備学習
	7.	北海道富良野における現地学習調査3 スイーツを通じた地域振興	現地の状況に関する予備学習
	8.	北海道富良野における現地学習調査1 東京大学演習林での自然学習1	現地の状況に関する予備学習
	9.	北海道富良野における現地学習調査1 東京大学演習林での自然学習2	現地の状況に関する予備学習
	10.	北海道富良野における現地学習調査1 東京大学演習林での自然学習3	現地の状況に関する予備学習
	11.	北海道富良野における現地学習調査 コンテンツツーリズムの展開 研究動向の把握	現地の状況に関する予備学習
	12.	北海道富良野における現地学習調査 ドラマを通じたコンテンツツーリズムの展開	現地の状況に関する予備学習
	13.	北海道富良野における現地学習調査 インスタグラム・SNSを通じたコンテンツツーリズムの展開2	現地の状況に関する予備学習
	14.	北海道富良野における現地学習調査 環境と観光1 観光客数の動態と動向	現地の状況に関する予備学習
	15.	北海道富良野における現地学習調査 環境と観光 観光客に対する実態調査	アンケート調査に関する予備学習
	16.	北海道富良野における現地学習調査 ウォーキングを通じた観光とまちづくり フットパスの概要	現地の状況に関する予備学習
	17.	北海道富良野における現地学習調査 ウォーキングを通じた観光とまちづくり フットパスの実例	写真・ビデオ機材の準備とルート地図の整理
	18.	北海道富良野における現地学習調査 農業を通じた観光とまちづくり1	現地の状況に関する予備学習
	19.	北海道富良野における現地学習調査 農業を通じた観光とまちづくり2	現地の状況に関する予備学習
	20.	北海道富良野における現地学習調査 防災とまちづくり1	地域資料の収集と分析
	21.	北海道富良野における現地学習調査 防災とまちづくり2	地域資料の収集と分析
	22.	北海道富良野における現地学習調査 地元の高校生と協働した食の提供	地域食材・流通に関する調査
	23.	北海道富良野における現地学習調査 地元の高校生と協働した食を通じた地域文化の理解	現地の状況に関する予備学習
	24.	北海道富良野における現地学習調査 多世代・多地域交流の実態2	現地の状況に関する予備学習
	25.	北海道富良野における現地学習調査 調査結果の発信 ラジオ放送・現地発表会を通じた発信力の養成1	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備
	26.	北海道富良野における現地学習調査 調査結果の発信 ラジオ放送・現地発表会を通じた発信力の養成2	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備
	27.	現地調査報告会	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備
	28.	現地調査報告と討論会・フィードバック	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備
	29.	全体の総括 (事後学習)	現地学習全体の資料とふりかえり
	30.	総括 学習内容のプレゼンテーション	現地学習全体の資料とふりかえり
受講者へのメッセージやアドバイス:	夏季の北海道に現地滞在し、現地を学びます。地域を楽しみつつ学習し、主体的に発信(ラジオや各種報告会)していくプロセスを学んでいただきます。		
フィードバックの方法:	授業内での個別・全体へのフィードバックを随時おこなう		

教科書: 特になし。現地で必要な資料を適宜消化するとともに、映像資料の事前視聴をおこなう

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 事前学習ならびに現地調査前には、研究室訪問(知徳館C354)なども通じた連絡を中心とし、授業中(現地学習中)には、随時、適宜対面で相互に相談をおこなう。メール類も随時活用する。

授業テーマ:	希望の多世代共創:多世代協同のアプリ開発で、高齢社会の未来に希望を共創する		
授業の概要:	ロボット開発に携わる企業の協力を得て、「人と人」との円滑なコミュニケーションを促すロボットアプリを開発します。プロジェクトは社会課題をテーマに取り上げ、ヒト型コミュニケーション・ロボット(Pepper, ロボホン)のアプリ開発で解決に取り組めます。授業では、アプリ開発のためにAIやプログラミング等に関する基礎知識を学びます。開発のプロセスは、地域の課題設定・企画・立案・開発・実証実験・発表を通して行います。開発したアプリは、学外でのワークショップやWebsiteでの発信等で、広く社会に成果を公表することをめざします。 履修を通じて受講生には、長寿社会の人と人とがつながる仕組みの理解、独創的な解決のあり方を主体的に探りだせることを期待しています。取り組みの過程と成果を受講生自身の成長につなげるだけでなく、実際に社会に還元することにも視野を広げてほしいと思います。		
到達目標:	(1)世代や立場の異なる人々との協同を通じて、人生の幸福実現に向かうライフキャリア能力を高める。 (2)長寿社会の人と人とがつながる仕組みを理解し、独創的な解決のあり方を主体的に探求することができる。 (3)成果を社会に還元する視点を持って、課題解決に取り組むことができる。		
授業方法:	事前学習では、演習形式でアプリ開発に関する基礎知識と技術を身につけます。現地学習調査は大学を拠点に、ヒト型ロボットを用いてチーム別に実際にアプリの技術開発に携わり、社会への公表をめざします。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 事前学習:グッド・コミュニケーションVSバッド・コミュニケーション	2. 事前学習:こんなアプリがあったら！	資料講読・観察
	3. 事前学習:AIって何？	4. 事前学習:コミュニケーション・ロボットの活躍	資料講読・インタビュー
	5. 現地学習調査1:対象者のニーズを知ろう！	6. 現地学習調査2:アプリ開発の現場を知ろう！	資料収集
	7. 現地学習調査3:チーム別課題設定・調査	8. 現地学習調査4:ロボット・プログラミングをやってみよう！	文献・資料講読
	9. 現地学習調査5:チーム別企画	10. 現地学習調査6:チーム別立案・発表	インタビュー
	11. 現地学習調査7:チーム別再立案・発表	12. 現地学習調査8:チーム別開発	関連企業・団体ヒアリング
	13. 現地学習調査9:チーム別実証・分析	14. 事後学習:チーム別プレゼン	チーム別調査
	15. 事後学習:全体報告と総評		プログラミング
受講者へのメッセージやアドバイス:	受講者は、パソコンソフトpower pointの基本操作ができるように練習しておくことが望ましい。		
フィードバックの方法:	授業時間内の報告・発表・実施の際に、その都度担当者より評価をコメントとしてフィードバックします。担当者と受講生で、アプリの水準と開発過程におけるコミュニケーションの発展を評価し、優秀なチームを選考のうえ、アプリコンテストに応募し社会的な評価を確認します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	30	世代や立場の異なる人々との協同を通じた、人生の幸福実現に向かうライフキャリア能力を評価します。
	授業への参加度	30	長寿社会の人と人とがつながる仕組みを理解し、独創的な解決のあり方を主体的に探求することができるかを評価します。
	開発の成果	40	開発した成果が、社会の還元を意識されたものであるか、またその実装の可能性を評価します。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、初回の授業時間に担当教員から適宜指示します。		

授業テーマ:

Diversity Project

授業の概要:

After graduating, many students will find themselves working with people from other countries in companies. Even if they do not leave Japan, they may have to communicate with people working in other countries using English. This course requires actively using English to complete a task with team members.
The aims are for students to use English and teamwork skills to do the following:
1) Actively do research by communicating with people in Japan and other countries and to produce something useful to either the university or society.
2) Organize and manage group work to successfully complete a project similar to real world workplaces
3) Present research project findings in English

到達目標:

Upon completion of this course, students will understand and be able to use English to do a research project and present a final project report. They will also learn and practice to improve their communication and leadership skills as they gain self-confidence.

授業方法:

Students will participate in group discussions and give research project updates, while doing outside research. This course will meet 15 times during the year. Even though the course is scheduled for Wednesdays, meetings at other times, including weekends, may be necessary to communicate with groups and individuals in other countries. Announcements will be made at least 1-2 weeks in advance. There will also be some class excursions and group travel required. Students will be responsible for any costs. However, discussions and decisions about excursions will be made together, and students can choose not to participate without penalty.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Discuss course and research project guidelines	Reading and note-taking and preparation for research project
2.	Discuss research skills and how to present research results	Reading and note-taking and preparation for research project
3.	Communication and team building skills 1	Reading and note-taking and preparation for research project
4.	Communication and team building skills 2 and choose research projects	Reading and note-taking and preparation for research project
5.	Discuss research projects	Reading and note-taking to prepare to begin a research project
6.	Organizational skills & continue research project	Reading and note-taking and working on research project
7.	Discuss research project details with individuals or group in another country	Reading and researching about another country and review important English vocabulary and phrases
8.	Visit and discuss research project details with individuals or group outside DWC	Reading and researching about another organization in Japan and practice important English vocabulary and phrases
9.	Continue research project	Researching and working to complete project
10.	Research project and activity planning updates	Reading and note-taking and working on graduation research project
11.	Continue research project	Researching and working to complete project
12.	Complete Project	Researching and working to complete project
13.	Complete Project and prepare research report	Work to complete the project and organize report summary
14.	Present research report	Prepare a formal presentation using PowerPoint
15.	Discuss and reflect on project, team work, and evaluation of student performance	Self-reflection

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students will work in groups to choose a project, conduct research, and give periodic updates and feedback to other groups. They will do this through class discussions on campus, online discussions and through presentations. Students will do outside research, including talking with people in other countries and in Japan, to complete a project.

This course will meet 15 times during the year. Even though the course is scheduled for Wednesdays, meetings at other times, including weekends, may be necessary to communicate with people in other countries. Announcements will be made at least 1-2 weeks in advance. There will also be some class excursions and group travel required depending on the total number of students enrolled. When going off campus, students will be responsible for any costs. However, discussions and decisions about excursions will be made together, and students can choose not to participate without penalty.

Students should have either 1) at least a GPA of 3.0 in the CASE Program OR 2) be able to give their opinions and discuss various social issues in English (CASE Program students and regular Gensha students). This is because English will be used with non-Japanese people outside a classroom setting.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Research Project updates and final presentation	50%	Presentation contents and preparation
	Research activities organization	40%	Research activities such as gathering background information, planning, and carrying out necessary surveys, and so on
	Group work	10%	Ability and efforts to work as a team

教科書:

No Textbook

参考書:

Will be announced in class

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、分析力、リーダーシップ、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

lrogers@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	いのちと倫理～思想研究を通し～		
授業の概要:	同志社女子大学(人間生活学科)での4年間の様々な学びの集大成として、各人の設定した研究テーマを探究します。ゼミ内での討論等を通し、互いに切磋琢磨し、研究の方法、まとめ方、発表の仕方等を習得します。		
到達目標:	1. 各人のテーマに即し、先行研究に基づき、論理的に考察した卒業論文を完成し、所定の期日までに指導教員に提出します。 2. 12月初旬には卒業論文のテーマを提出し、12月下旬には卒業論文発表会の要旨を提出します。 3. プレゼンテーションの技術を習得し、卒論委員会が運営する卒論発表会において、ゼミ生全員が卒業論文の要旨を口頭発表します。		
授業方法:	演習形式を基本とします。個人発表、グループ討議、グループ批評等を通し、学習者相互の思考を深めます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション 演習での学びの振り返り。	シラバスにより当該科目の内容、到達目標、評価基準を整理する。	
	2. 基礎学習とテーマ探し1 問題意識の探求と他者評価による検証	個人発表にむけた、資料作成(資料紹介、方法論確認)と発表ポイントの整理。	
	3. 基礎学習とテーマ探し2 問題意識の探求と他者評価による検証	個人発表にむけた、資料作成(資料紹介、方法論確認)と発表ポイントの整理。	
	4. 基礎学習とテーマ探し3 問題意識の探求と他者評価による検証	個人発表にむけた、資料作成(資料紹介と方法論確認)と発表ポイントの整理。	
	5. 卒論デザイン作成、及び、先行研究検索、基本文献検索、批評に向けた確認	卒論デザイン作成に向けて、自身の卒論の焦点を絞る。仮説と論証方法を模索し、整理する。	
	6. 先行研究と資料収集1	個人発表にむけた、資料作成(課題論文批評と資料紹介)と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示。	
	7. 先行研究と資料収集2	個人発表にむけた、資料作成(課題論文批評と資料紹介)と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示。	
	8. 先行研究と資料収集3	個人発表にむけた、資料作成(課題論文批評と資料紹介)と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示。	
	9. 先行研究と資料収集4	個人発表にむけた、資料作成(課題論文批評と資料紹介)と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示。	
	10. 卒論デザイン作成説明	配布資料や参考文献を用いて、卒業論文を執筆の方法論などを再考しつつ、深め、整理する。	
	11. 卒論デザイン発表1	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料を作成。	
	12. 卒論デザイン発表2	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理。	
	13. 卒論デザイン発表3	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料を作成。	
	14. 卒論デザイン発表4	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料を作成。	
	15. 中間原稿提出に向けて	夏季休暇後の中間原稿提出に向けて思索の深化と下書き作成準備。	
	16. 中間原稿提出。	夏季休暇を用いて、中間原稿執筆。自己の関心事を文章化し、論点を明示する。	
	17. 中間原稿相互批判	事前に預かった受講生の中間原稿への批評コメント作成。他者からのコメントに対応できるよう、自身の卒論を再検討する。	
	18. 中間原稿の深化と発展1	新たな資料紹介、先行研究批判など。配布資料の作成。	
	19. 中間原稿の深化と発展2	新たな資料紹介、先行研究批判など。配布資料の作成。	
	20. 中間原稿の深化と発展3	新たな資料紹介、先行研究批判など。配布資料の作成。	
	21. ポスター発表(ゼミ内)	ポスター発表資料準備。後輩にむけ、卒論の論理構成を提示。自己の卒論の論理構成を確認。	
	22. ポスター発表後の再検討課題発表1	ポスター発表でのコメントなどを参考に改善点を整理する。	
	23. ポスター発表後の再検討課題発表2	ポスター発表でのコメントなどを参考に改善点を整理する。	
	24. ポスター発表後の再検討課題発表3	ポスター発表でのコメントなどを参考に改善点を整理する。	
	25. 卒業論文第一次提出。ゼミ内査読者選定。	卒業論文第一次原稿を執筆。提出用と査読用の2部準備。	
	26. 卒論タイトル・要旨の最終確認。	相互議論、相互批評による、タイトルの明確化、要旨の的確化に努める。配布資料の作成。	
	27. 卒論査読者よりコメント。	冬季休暇を用いて、他の受講者の卒論批評。自分自身の卒論ポイントの整理と深化。配布資料の作成。	
	28. 各卒論への批評大会。	他者からの批評に耐えうるよう、自身の卒論の再検証。及び、最終提出に向けた整理。	
	29. 発表資料作成による卒論の深化	卒論の中心テーマ、結論への吟味。再度、構成の確認など。発表用資料の作成。	
	30. 卒業論文の提出。卒論発表会に向けて淳義。	最終原稿の提出。発表会に向けた資料作成など。引用方法などを含め、誤字脱字等、校正の上、提出。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業時間外の自主学習及びグループ学習等が求められます。先行研究(文献研究など)を踏まえた上での思想の構築が期待されます。		
フィードバックの方法:	毎回のゼミ内で、相互の学びを深めるコメントペーパーを作成します。ゼミ生同志の意見交換を含んだコメントペーパーを積極的に用います。学生からのコメントはゼミ内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有し、かつ個々人へフィードバックします。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	クラスへの参加・貢献	40	クラス内での互いの学びへの批判力、貢献度などにより評価します。

教科書： 教室にて指示します。

参考書： 教室にて指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法： 授業前後の対応を基本としますが、オフィスアワー、Eメール、別途個人面談など随時対応します。

授業テーマ:

社会福祉の歴史・制度・実践

授業の概要:

応用演習ⅠⅡで学んだ社会福祉の歴史・制度・実践を踏まえ、各自でテーマを絞り込み、研究計画に基づいて卒業論文の作成および論文要旨の口頭発表を行う。

到達目標:

卒業論文の完成

授業方法:

レポート発表、エクササイズ、ケーススタディ、グループ討議などをとし、一部で社会福祉見学・配属実習を行うことによって、各自の研究テーマを深めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	中間発表	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	中間発表	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
16.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
17.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
18.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
19.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
20.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
21.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
22.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
23.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
24.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
25.	最終発表	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
26.	最終発表	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
27.	論文修正	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
28.	論文提出	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
29.	論文講評	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
30.	論文講評	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

個々の提出物については、コメントを付け返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	30	出席を含む授業への参加・態度
	卒業論文	70	卒業論文および論文要旨の口頭発表による総合評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Eメール等を利用

授業テーマ:

社会心理学(日常を計量する)

授業の概要:

社会心理学は、日常生活の中で自分やまわりの人々が繰り広げる様々な「行動の饗宴」を素材として,そのような行動を「発現」させる「心の仕組み」を明らかにする学問ツールです。卒業研究では,「社会心理学」という学問ツールに触れることによって,だれもが「体感」している日常素材を対象として各自が実際に「心の冒険」をし<=研究>,卒業後の「社会」の中で自己成長を遂げるステップにすることを目標とします。とりわけ,学問領域だけでなく,実務・リサーチ系でも有力な統計ツールとして認知されている「SPSS」統計処理ソフトの活用能力や他の処理スキルを身につけることも併せて目指します。
この演習の最終目標は,各人が築きあげた成果を卒業研究としてまとめ発表することです。これは,「感想文」とは異なり,あくまでも社会心理学という学問ツールの適用結果としての研究(卒業論文+口頭発表)の形にします。これによって,演習生のキャンパス・ライフのアカデミックな部分を「形」として残すことになります。

到達目標:

特定主題での社会心理学的研究の達成

授業方法:

1時間30分の授業時間のみが「学習時間」ではなく,その合間に多くの「作業・学習時間」が必要となります。「皆出席」を前提に、各自が「期間中」にどのくらい格闘したかを評価の対象とします。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能), 授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 1年間の概観	本演習のシラバスでの確認
	2. 卒業研究テーマの同定作業	前回演習作業の確認
	3. 卒業研究テーマの同定作業と研究準備	前回演習作業の確認
	4. 卒業研究テーマの同定作業と研究準備	前回演習作業の確認
	5. 卒業研究の準備	前回演習作業の確認
	6. 卒業研究の準備と着手	前回演習作業の確認
	7. 卒業研究の着手	前回演習作業の確認
	8. 卒業研究の着手	前回演習作業の確認
	9. 収集データの整理	前回演習作業の確認
	10. 収集データの整理	前回演習作業の確認
	11. 収集データの整理	前回演習作業の確認
	12. 収集データの整理と解析	前回演習作業の確認
	13. 収集データの整理と解析	前回演習作業の確認
	14. 卒業研究の中間発表	前回演習作業の確認
	15. 卒業研究の中間発表	演習全体での作業確認
	16. 卒業論文作成に向けた概観	演習全体での作業確認
	17. 収集データの解析	演習全体での作業確認
	18. 収集データの解析	演習全体での作業確認
	19. 卒業研究データの「図表」化作業	演習全体での作業確認
	20. 卒業研究データの「図表」化作業	演習全体での作業確認
	21. 卒業研究データの「図表」化作業+卒業論文・本文の作成	演習全体での作業確認
	22. 卒業研究データの「図表」化作業+卒業論文・本文の作成	演習全体での作業確認
	23. 卒業研究データの「図表」化作業+卒業論文・本文の作成	演習全体での作業確認
	24. 卒業研究データの「図表」化作業+卒業論文・本文の作成	演習全体での作業確認
	25. 卒業論文全体の作成	演習全体での作業確認
	26. 卒業論文全体の作成	演習全体での作業確認
	27. 卒業論文の完成	演習全体での作業確認
	28. 発表会用の「要約」の作成, 発表会用の「発表スライド」の作成作業	演習全体での作業確認
	29. 発表会用の「発表スライド」の作成作業	演習全体での作業確認
	30. 発表会の最終準備(発表スライド+口頭発表)	演習全体での作業確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

準備学習(予習・復習)等の内容: 授業と授業の間の1週間にこそ, 自己進歩があることを忘れないようにしましょう。

フィードバックの方法:

演習時の応答およびマナビー

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席と研究取り組み状況	50	授業時・時間外の熱心さ
	卒業論文の完成	25	論文としての完成度
	卒論発表会パフォーマンス	25	呈示と発表の完成度

教科書:

演習時に指示する。

参考書:

適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:

マナビーおよび日常的接触

授業テーマ： 児童文化の世界の広がり深みを研究する。

授業の概要： 児童文化には、人間でも動物でもない、第三の幻の生き物がうごめいている。そういう第三の生き物と共に暮らしている私たちの世界の豊かさや、そういう世界に支えられている私たちのあり方を追求し研究する。

到達目標：

- ① 文献を調べ、実地見学もし、先行研究の広がり調べる。
- ② 調べたことは毎回パワーポイントにして発表し、みんなの意見を聞く。
- ③ みんなにわかるようにパワーポイントを作ることも大きな目標。
- ④ ゼミ生同士は、発表されたテーマについて意見を言い、疑問をぶつけ合う。
- ⑤ 質問に答えられなかった分を宿題として持ち帰り、さらに調べて発表し合う。
- ⑥ プレゼンテーションの力を付ける。

授業方法： パワーポイント使って毎回、自分の卒論のテーマに関わる研究を発表する。
司会者と発表者を順番に持ち回りして、学生同士で発表しやすい雰囲気をつくる。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

準備学習等の内容

1. オリエンテーション(1)
2. 自分なりのテーマ探し(2)
3. 自分なりのテーマ探し(3)
4. 自分なりのテーマ探し(4)
5. 自分なりのテーマ探し(5)
6. 自分なりのテーマ探し(6)
7. 自分なりのテーマ探し(7)
8. 自分なりのテーマ探し(8)
9. 自分なりのテーマ探し(9)
10. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(1)
11. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(2)
12. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(3)
13. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(4)
14. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(5)
15. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(6)
16. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(7)
17. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(8)
18. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(1)
19. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(2)
20. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(3)
21. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(4)
22. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(5)
23. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(6)
24. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(7)
25. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(8)
26. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(9)
27. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(10)
28. 研究の成果の冊子作り
29. 研究の成果の冊子作り
30. 研究の成果の冊子作り

[illegible]

受講者への
メッセージや
アドバイス:

好きな児童文学作品にこだわるのではなく、幅広く、世界の児童文化に関心を広げる努力をすること。

フィードバックの方法:

調べて発表してきたことは、冊子にして、それを元に卒論につなげる道筋をアドバイスする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表の内容	65	自分独自の視点で調べられていることを重視する。
	質疑応答の積極性	25	他に人の研究に積極的に関心を持ち、質問や助言ができているか、重視する。
	遅刻。欠席	10	厳しく、対応する。
教科書:	随時、指示する。		
参考書:	随時、指示する。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力、すべてが要求される。		
教員との連絡 方法:	ラインを使って、グループ同士の連絡の取り合い、教員との連絡も密に取っている。		

授業テーマ:

居住環境の評価

授業の概要:

人間生活学科における学びの集大成として卒業論文を執筆する

到達目標:

各自が設定するテーマに基づき、問題解決のための手法を検討し、その結果をわかりやすく提示する

授業方法:

各自のテーマに基づき、問題解決手法（文献調査、フィールド調査、心理実験）を実施し、進捗状況を授業内で発表・議論する。卒業論文を執筆し、卒業論文発表会にて発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究テーマ・研究手法の発表1	各自のテーマに基づき、適切な研究手法について先行研究などを調べる
2.	研究テーマ・研究手法の発表2	各自のテーマに基づき、適切な研究手法について先行研究などを調べる
3.	研究テーマ・研究手法の発表3	各自のテーマに基づき、適切な研究手法について先行研究などを調べる
4.	研究計画の発表1	各自のテーマに基づき、卒業研究全体のスケジュールを考える
5.	研究計画の発表2	各自のテーマに基づき、卒業研究全体のスケジュールを考える
6.	研究計画の発表3	各自のテーマに基づき、卒業研究全体のスケジュールを考える
7.	研究計画の発表4	他者からの指摘内容に対して、回答できるよう準備する
8.	研究計画の発表5	他者からの指摘内容に対して、回答できるよう準備する
9.	研究計画の発表6	他者からの指摘内容に対して、回答できるよう準備する
10.	進捗状況の発表1	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
11.	進捗状況の発表2	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
12.	進捗状況の発表3	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
13.	進捗状況の発表4	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
14.	進捗状況の発表5	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
15.	進捗状況の発表6	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
16.	中間発表1	これまでの進捗をまとめると同時に、今後必要となるデータ／分析をピックアップする
17.	中間発表2	これまでの進捗をまとめると同時に、今後必要となるデータ／分析をピックアップする
18.	研究結果の発表1	データから考察への論理展開について自身の考えをまとめる
19.	研究結果の発表2	データから考察への論理展開について自身の考えをまとめる
20.	研究結果の発表3	データから考察への論理展開について自身の考えをまとめる
21.	研究結果の発表4	他者の意見に対する自身の意見を述べるための資料を集める
22.	研究結果の発表5	他者の意見に対する自身の意見を述べるための資料を集める
23.	研究結果の発表6	他者の意見に対する自身の意見を述べるための資料を集める
24.	研究要旨の作成1	自身の研究内容を、端的にまとめられるよう研究ノートをまとめなおす
25.	研究要旨の作成2	自身の研究内容を、端的にまとめられるよう研究ノートをまとめなおす
26.	研究概要の作成1	自身の研究内容を、A4用紙2枚にまとめられるよう、図表を整理する
27.	研究概要の作成2	自身の研究内容を、A4用紙2枚にまとめられるよう、図表を整理する
28.	卒論発表資料の作成1	卒業研究の内容を、正しく、わかりやすく伝える手段／工夫を考える
29.	卒論発表資料の作成2	卒業研究の内容を、正しく、わかりやすく伝える手段／工夫を考える
30.	卒論発表資料の作成3	卒業研究の内容を、正しく、わかりやすく伝える手段／工夫を考える

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中にディスカッションしながらフィードバックする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	30	ゼミでの発表内容、他者発表時の質問・ディスカッションなど
	ディスカッション	30	他者の発表に関する議論、自身の発表に対する回答など
	論文	40	研究の実施状況、論文の出来栄

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

e-mail、マナビーによる

授業テーマ:

服飾文化の歴史と現在

授業の概要:

4年間の学びの集大成として卒業論文を執筆します。これまでにされてきた服飾文化に関する研究をととして生活文化のさまざまな課題を探究し、これからあるべき生活にむけてその可能性を示すことを目指します。ゼミでのプレゼンテーションや意見交換のなかで互いに知見を広め思考を深めるとともに論文執筆の手順と方法を習得します。

- 到達目標:
- ①卒業論文として適切な文章表現を身につける。

②卒業論文として適切な情報収集と論理的な分析の手法を身につける。

③互いの卒業研究に関して建設的なディスカッションができる。

③卒業論文の成果をプレゼンテーションで表現し伝えることができる。

授業方法:

ゼミナール形式を基本に個人指導も行います。各自で研究テーマを設定し、論文執筆にむけて計画をたて、それにもとづいて資料収集、調査、執筆をすすめます。中間報告や経過報告をととして進行状況を確認しながら卒業論文の完成を目指します。完成した卒業論文は所定の期日までに指導教員に提出し、その後、卒業論文発表会において論文要旨を口頭発表しま

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究の進め方	
2.	テーマ発表①	テーマについてのレポート作成および発表準備
3.	テーマ発表②	テーマについてのレポート作成および発表準備
4.	テーマ発表③	テーマについてのレポート作成および発表準備
5.	文献資料の検索と収集	
6.	研究計画を発表①	研究計画書の作成および発表準備
7.	研究計画を発表②	研究計画書の作成および発表準備
8.	研究計画を発表③	研究計画書の作成および発表準備
9.	文献資料研究①	文献資料に関するレポート作成
10.	文献資料研究②	文献資料に関するレポート作成
11.	文献資料研究③	文献資料に関するレポート作成
12.	中間報告Ⅰおよび意見交換①	中間レポートの作成および発表準備
13.	中間報告Ⅰおよび意見交換②	中間レポートの作成および発表準備
14.	中間報告Ⅰおよび意見交換③	中間レポートの作成および発表準備
15.	学外見学	
16.	中間発表Ⅱおよび意見交換①	中間レポートの作成および発表準備
17.	中間発表Ⅱおよび意見交換②	中間レポートの作成および発表準備
18.	中間発表Ⅱおよび意見交換③	中間レポートの作成および発表準備
19.	論文作成と経過報告	
20.	論文作成と経過報告	
21.	卒業論文タイトル検討①	
22.	卒業論文タイトル検討②	
23.	卒業論文要旨および概要作成①	要旨および概要の下書き
24.	卒業論文要旨および概要作成②	要旨および概要の下書き
25.	卒業論文要旨および概要作成③	要旨および概要の下書き
26.	卒業論文発表会準備 パワーポイント作成①	パワーポイント作成の準備
27.	卒業論文発表会準備 パワーポイント作成②	パワーポイント作成の準備
28.	卒業論文発表会準備 原稿作成①	原稿下書き
29.	卒業論文発表会準備 原稿作成②	原稿下書き
30.	卒業論文発表会準備 仕上げ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業内でコメントし、適宜授業時間外にも個人指導を行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	30	授業への準備と到達目標③に関する態度や発言を評価する。
	論文	50	到達目標①②および途中経過における取り組みについて達成度を評価する。
	口頭発表	20	到達目標④および途中経過における取り組みについて達成度を評価する。

教科書:

参考書:

適宜指示します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、

教員との連絡方法:

オフィスアワー マナビーの掲示板機能 メール

授業テーマ:

授業の概要: 各自が設定した卒業論文のテーマに基づき、先行研究調査、現地調査、データ分析等を行ない、その進捗状況を報告する。その際、積極的に質疑を受け、応答し、討議を行なう。また、個人ゼミを行なうことで、進行状況を確認しつつ、より卒業論文テーマの内容について深めていく。
最終的には、卒業論文を期日までに提出し、卒業論文発表会にて発表する。

到達目標: ・まちづくりに関する専門的な知識について、卒業論文の作成を通して理解を深める
・設定したテーマに対し、研究の方法、まとめ、発表の仕方を習得する
・卒業論文の完成

授業方法: ゼミナール形式で行なう。進捗状況の報告時にはレジュメを用意し、質疑応答、討議ができるようにしておく。なお、現地調査、データ分析などにおいて授業時間外の作業を伴うことが多い。
また、卒業論文の完成には数回の修正を求めることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業の進め方と卒業論文に関する説明	自身の研究テーマについて整理しておく。
	2. 研究計画の報告1	研究テーマの確認と研究計画について、スライドの作成を求める
	3. 研究計画の報告2	研究テーマの確認と研究計画について、スライドの作成を求める
	4. 研究の進捗状況報告1	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
	5. 研究の進捗状況報告2	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
	6. 研究の進捗状況報告3	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
	7. 研究の進捗状況報告4	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
	8. 研究の進捗状況報告5	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
	9. 研究の進捗状況報告6	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
	10. 研究の進捗状況報告7	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
	11. 研究の進捗状況報告8	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
	12. 研究の進捗状況報告9	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
	13. 研究の進捗状況報告10	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
	14. 中間報告1	中間発表に向けてスライドの作成を求める
	15. 中間報告2	中間発表に向けてスライドの作成を求める
	16. 研究の進捗状況報告と卒論目次の作成1	これまでの進捗状況と卒論目次についてレジュメの作成を求める
	17. 研究の進捗状況報告と卒論目次の作成2	これまでの進捗状況と卒論目次についてレジュメの作成を求める
	18. 研究結果の報告1	研究結果についてスライドの作成を求める
	19. 研究結果の報告2	研究結果についてスライドの作成を求める
	20. 研究結果の報告3	研究結果についてスライドの作成を求める
	21. 研究結果の報告4	研究結果についてスライドの作成を求める
	22. 研究結果の報告5	研究結果についてスライドの作成を求める
	23. 研究結果の報告6	研究結果についてスライドの作成を求める
	24. 卒業論文の要旨作成1	研究内容を要旨として端的にまとめる
	25. 卒業論文の要旨作成2	研究内容を要旨として端的にまとめる
	26. 卒業論文の概要作成1	卒業論文全体の概要を整理するとともに、結論について自身の考えをまとめる
	27. 卒業論文の概要作成2	卒業論文全体の概要を整理するとともに、結論について自身の考えをまとめる
	28. 卒業論文発表資料作成1	卒業論文口頭発表時に用いるスライドの作成を求める
	29. 卒業論文発表資料作成2	卒業論文口頭発表時に用いるスライドの作成を求める
	30. 卒業論文発表資料作成3	前回指摘を受けた箇所を修正し、スライドの作成を求める

受講者へのメッセージやアドバイス: 4年間の学びの集大成として、多少つらい時期があるかもしれないが、最後まで粘り強く取り組むことを望む。

フィードバックの方法: 個々の提出物については、コメントを付け、教室で返却するほか、マナビー掲示板機能によりコメントすることもある。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	50	積極的に授業に参加し、卒業論文の完成に向けて取り組んでいるかを評価する。
	卒業論文・口頭発表	50	自身が調べた内容に対し、きちんとまとめ、発表できているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: オフィスアワー、Eメール、マナビー掲示板機能を利用

授業テーマ:	被服造形とデザイン		
授業の概要:	大学での学びの集大成として、主に被服造形およびデザインの視点から被服学に関する研究に取り組む。研究成果は、論文にまとめ、所定の期日までに指導教員に提出する。また卒業論文発表会において論文要旨を口頭発表する。		
到達目標:	1.造形・デザインを中心に被服学分野の諸問題への関心を高め、知見を広げる。 2.被服学分野における独自の視点にたった思考力・表現力を養う。 3.効果的な研究成果のまとめとプレゼンテーションの手順および方法を習得する。		
授業方法:	ゼミナール形式および個人面談を中心とする。各自で研究に取り組み、授業時には報告とディスカッション等を行う。		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	各自の研究テーマ・手法について考える。	
	2. 研究テーマ・手法の発表(1)	発表準備を行う。 ディスカッションの内容を踏まえて研究準備を進める。	
	3. 研究テーマ・手法の発表(2)	発表準備を行う。 ディスカッションの内容を踏まえて研究準備を進める。	
	4. 研究計画(1)	研究計画書を作成する。	
	5. 研究計画(2)	研究計画書を作成する。	
	6. 経過報告とディスカッション(1)	研究に取り組む。 報告準備を行う。	
	7. 経過報告とディスカッション(2)	研究に取り組む。 報告準備を行う。	
	8. 経過報告とディスカッション(3)	研究に取り組む。 報告準備を行う。	
	9. 経過報告とディスカッション(4)	研究に取り組む。 報告準備を行う。	
	10. 経過報告とディスカッション(5)	研究に取り組む。 報告準備を行う。	
	11. 経過報告とディスカッション(6)	研究に取り組む。 報告準備を行う。	
	12. 経過報告とディスカッション(7)	研究に取り組む。 報告準備を行う。	
	13. 中間発表(1)	発表準備を行う。 ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。	
	14. 中間発表(2)	発表準備を行う。 ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。	
	15. 中間発表(3)	発表準備を行う。 ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。	
	16. 研究の進捗確認とディスカッション	これまでの研究成果と今後の計画についてまとめる。	
	17. 経過報告とディスカッション(8)	研究に取り組む。 報告準備を行う。	
	18. 経過報告とディスカッション(9)	研究に取り組む。 報告準備を行う。	
	19. 作品撮影と資料整理	作品・資料を整理する。	
	20. 論文作成(1)	論文を執筆する。	
	21. 論文作成(2)	論文を執筆する。	
	22. 論文作成(3)	論文を執筆する。	
	23. 論文作成(4)	論文をまとめ、仮提出する。	
	24. 卒業論文要旨および概要作成(1)	卒業論文要旨および概要を作成する。	
	25. 卒業論文要旨および概要作成(2)	卒業論文要旨および概要を作成する。	
	26. 卒業論文発表会の資料作成(1)	発表用のパワーポイントを作成する。	
	27. 卒業論文発表会の資料作成(2)	発表用のパワーポイントを作成する。	
	28. 卒業論文発表会の原稿作成(1)	発表原稿を作成する。	
	29. 卒業論文発表会の原稿作成(2)	発表原稿を作成する。	
	30. 卒業論文発表会の準備とまとめ	卒業論文発表会の発表練習を行う。	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法: 研究計画書はディスカッションの際に解説して返却する。
仮提出した要旨や論文は添削して返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	論文(作品を含む)	40	研究内容と作品および論文完成度により評価する。
	口頭発表	20	到達目標3を実践し、研究成果を正しく明瞭に伝えることができたかを基準とする。
	参加度	40	研究および授業への取り組みへの積極性、態度・意欲を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Eメール, オフィスアワー

授業テーマ:	研究の実施, 卒業論文の作成とプレゼンテーション		
授業の概要:	栄養・調理・食品の各分野の専任教員の指導のもとに大学4年間の締めくくりとして、テーマを定めて1年間研究を行う。その成果を卒業論文発表会において発表し、卒業論文としてまとめる。これらを通して、学術研究における倫理的規範を身につけると共に、研究のすすめ方、問題点の解決法、研究のまとめ方、プレゼンテーションの方法を学ぶ。		
到達目標:	持続的な研究活動により、配属研究室独自の高い技能を学修するだけでなく、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理力、協同性など、社会人として求められる資質を身につける。得られた最終成果を論文にまとめて指導教員に提出し、学科主催の卒業論文発表会において専任教員と在学生の前で口頭発表する。		
授業方法:	授業方法は担当する教員によって異なる。1テーマにつき1～複数名で行う。年間を通して教員の指導のもとで研究を進めるが、受け身ではなく、各自がグループ内で協調的に役割を果たしつつ、自律的に行動する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1.	1. オリエンテーション(心構え, 研究の進め方, 研究倫理など)	研究を遂行するに当たっては、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画をたて、実験や調査を行い、結果を分析する作業が必須である。そのため、授業時間外に継続的にまとめた時間を確保する必要がある。また、卒業論文発表会用のスライド作成や卒業論文をまとめる作業も、必要に応じて授業時間外に行う。
	2.	2-27. 文献検索, 討論, 実験・調査(準備, 測定, フィールドワーク, 培養・飼育, データ処理, 後片付けなど)を各研究室および各自の研究内容に応じて行い、研究室内で中間発表を行う。さらに、卒業論文発表会にむけて研究成果をまとめ、論文を作成する	
	3.	28-30. 卒業論文まとめ	
		3年次に実施したオリエンテーションでの説明を参照して下さい。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	教員が日常的に学生とディスカッションを行う。		
フィードバックの方法:			
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	積極的参加度および研究に対する貢献度	50	
	卒業論文発表会の発表および卒業論文	50	「卒業論文」に関しては、研究活動に対する取り組み状況、提出された論文や卒業論文発表会での内容に基づいて、指導教員が総合評価する。なお、卒業論文発表会では多数の専任教員と在学生の前で口頭発表し、その完成度が評価される。
教科書:	特に指定なし		
参考書:	卒業論文のテーマにより異なる		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	研究室内で対応		

691760

臨床栄養学特殊研究Ⅰ

西村 公雄、安達 美佐、今井 具子、神田 知子、小切間 美保、小松 龍史、近藤 慶
子、杉浦 実、高嶋 直敬、田中 浩子、森口 次郎、由田 克士、吉田 香

授業テーマ： 栄養学分野における課題発見力、研究遂行力、発信能力を養うことにより、最近の栄養分野の課題(トピックス)に対して、エビデンスに基づいて管理栄養士の進むべき方向性を考えられる人材の育成がテーマです。

授業の概要： 栄養学分野で話題の最新のトピックスを専任教員・学外講師によるリレー講義で実施し、演習形式でアカデミックライティングを指導する能力を養い、研究遂行力を高めます。

到達目標： 栄養学分野の最新のトピックスと、アカデミックライティングを理解することで、これからの管理栄養士としてのリーダーシップを涵養することが、この授業の目標です

授業方法： リレー方式の講義と演習(アカデミックライティング、プレゼンテーション、ディスカッションを含む)を組み合わせで行う。

	授業内容	準備学習等の内容
1.	アカデミックライティング1(演習1)	模擬データよりリサーチクエッション、アウトカムを設定し、研究デザイン、対象者抽出、データ収集方法を理解する。
2.	アカデミックライティング2(演習2)	模擬抄録の作成より、構造化論文の書き方、効果的なタイトル、キーワードの選び方等、研究デザインから学会発表への流れを理解する。
3.	職業倫理と栄養の指導	生命倫理、職業倫理、栄養専門職としての管理栄養士のすがたを理解する。
4.	管理栄養士に求められる研究手法(1)	研究デザイン、調査法、データクリーニング、データマイニング、解析手法、オープンデータについて理解する。
5.	管理栄養士に求められる研究手法(2)	情報を読み解く、クリティカル・シンキングを理解する。
6.	管理栄養士に求められる研究手法(3)	健康栄養データを解析するための基礎的な統計手法を理解する。
7.	アカデミックライティング3-1(演習3)	模擬抄録のプレゼンテーション。
8.	アカデミックライティング3-2(演習3)	模擬抄録発表のブラッシュアップの実際を学ぶ。
9.	データヘルス改革(特定健診・特定保健指導など)について(1)	健診データからみる日本人の健康状態・食事内容の変遷について理解するとともに、ビックデータについて理解する。
10.	データヘルス改革(特定健診・特定保健指導など)(2)	NIPPON DATAからみた食習慣と循環器疾患との関連を理解する。
11.	データヘルス改革(特定健診・特定保健指導など)(3)	日本人の健康増進における産業保健・事業所給食の役割を理解する。
12.	アカデミックライティング4-1(演習4)	模擬学会発表より、原稿・ポスター作成のコツ、話し方、質疑応答の対応について理解する。
13.	アカデミックライティング4-2(演習4)	効果的なプレゼンテーションのロジックを理解する。
14.	これからの臨床分野の管理栄養士(1)	診療所における継続支援型栄養相談を考える。
15.	これからの臨床分野の管理栄養士(2)	糖尿病における効果的な栄養教育の事例紹介。
16.	これからの臨床分野の管理栄養士(3)	対象者に合わせた生活習慣改善のための栄養教育を考える。
17.	アカデミックライティング5(演習5)	模擬データよりプロシーディング作成、ペーパーワークの意義、アカデミックライティングについて理解する。
18.	食ビジネスと管理栄養士(1)	管理栄養士の行うフードマネジメントを理解する。
19.	食ビジネスと管理栄養士(2)	特定給食のためのマーケティングを理解する。
20.	食ビジネスと管理栄養士(3)	少子高齢社会に対応する食品流通業について理解する。
21.	食品表示と食品の機能性(1)	食品表示と管理栄養士の役割を理解する。
22.	食品表示と食品の機能性(2)	食品機能性の開発と商品化の例から学ぶ管理栄養士の役割。
23.	公衆衛生と栄養(1)	サプリメントの功罪、食品安全行政、リスク管理を理解する。
24.	公衆衛生と栄養(2)	栄養表示と食品添加物の現状を理解する。
25.	管理栄養士のアドボカシー(1)	健康・栄養調査の企画・実施から施策提案、実施、評価、PDCAサイクルの実際を地方行政の取り組み例から学ぶ。
26.	管理栄養士のアドボカシー(2)	研究からヘルスプロモーションへの連携を理解する。
27.	管理栄養士のアドボカシー(3)	管理栄養士としての施策への関わり方を理解する。
28.	医療経営と健康経営(1)	医療経営と健康経営を理解する。
29.	医療経営と健康経営(2)	企業の実例紹介より医療経営・健康経営を理解する。
30.	医療経営と健康経営(3)	医療経営・健康経営と管理栄養士の役割を理解する。

受講者へのメッセージやアドバイス： 演習で行うアカデミックライティングでは、模擬データから模擬抄録作成、模擬学会発表、プロシーディング作成と順を追って実際にアカデミックライティングを行います。平行して行うリレー方式の講義の合間に、各自自主学習を行ってください。

フィードバックの方法： 授業中、授業前後にプレゼンテーション、ディスカッション等についてコメントします。必要な場合は、マナビーのレポート、掲示機能を用いて行います。

	評価方法	割合	評価基準
「成績評価方法」	プレゼンテーション	50	プレゼンテーションの内容、準備状況、プレゼンテーション力。
「成績評価基準」:	ディスカッション	30	ディスカッションへの貢献度、クリティカル・シンキングの理解度。
	授業態度	15	教員・他学生からのコメント・質疑応答への参加度。
	出席状況	5	出席数を点数化し、遅刻・欠席を減点する。

教科書： なし、必要に応じて適宜資料を配付します。

参考書： 初めての栄養学研究論文 人には聞けない要点とコツ 栄養学雑誌編集委員会編集 第一出版 2012年

教員との連絡
方法:

専任教員とはオフィスアワー・マナビーの掲示機能、授業前後の対応で行います。
非常勤教員は授業の前後に対応し、必要があれば専任教員を通しての連絡を行います。

授業テーマ：臨床栄養学

授業の概要：糖質、脂質、タンパク質の代謝異常による疾患の病態と栄養管理について学ぶ

到達目標：糖質、脂質、タンパク質の代謝異常による疾患の病態を理解して栄養管理を学ぶ

授業方法：講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	糖尿病 1	糖尿病について予習する
2.	糖尿病 2	前回の授業内容の復習
3.	糖尿病 3	前回の授業内容の復習
4.	糖尿病 4	前回の授業内容の復習
5.	糖尿病 5	前回の授業内容の復習
6.	糖尿病の栄養管理 1	糖尿病の栄養管理について予習する
7.	糖尿病の栄養管理 2	前回の授業内容の復習
8.	脂質異常症 1	脂質異常症について予習する
9.	脂質異常症 2	前回の授業内容の復習
10.	脂質異常症 3	前回の授業内容の復習
11.	脂質異常症の栄養管理 1	前回の授業内容の復習
12.	脂質異常症の栄養管理 2	前回の授業内容の復習
13.	肥満症の栄養管理	前回の授業内容の復習
14.	小児の肥満症	小児の肥満症についての予習
15.	まとめ	前回の授業内容の復習
16.	微量元素	予習
17.	食物繊維	予習
18.	高血圧・循環器疾患 1	高血圧・循環器疾患についての知識の整理
19.	高血圧・循環器疾患 2	前回の授業内容の復習
20.	高血圧・循環器疾患 3	前回の授業内容の復習
21.	高血圧・循環器疾患 4	前回の授業内容の復習
22.	高血圧・循環器疾患 5	前回の授業内容の復習
23.	高血圧・循環器疾患の栄養管理 1	前回の授業内容の復習
24.	高血圧・循環器疾患の栄養管理 2	前回の授業内容の復習
25.	高尿酸血症 1	高尿酸血症についての予習
26.	高尿酸血症 2	前回の授業内容の復習
27.	高尿酸血症の栄養管理	前回の授業内容の復習
28.	まとめ 1	前回の授業内容の復習
29.	まとめ 2	前回の授業内容の復習
30.	まとめ 3	前回の授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス：遅刻せずに皆出席可能な状況の年に受講すること
予習してあらかじめ知識の整理をしておく、授業後は必ず復習することにより効果的な学習が可能となる

フィードバックの方法：毎回の授業において質疑応答を行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	まとめの試験	100%	受験資格は出席80%以上、試験70点以上を合格

教科書：

参考書：伊藤節子編著 臨床病態学(化学同人)
各講師の配布資料

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：授業後

授業テーマ:	問題解決能力の醸成 薬学アドバンスド教育A-F-(2)		
授業の概要:	研究課題に基づき、それぞれの指導教員の教育指導により、研究を進める。		
到達目標:	研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解し、自らが実施する研究に係る法令、指針を理解した上で、それらを遵守して研究に取り組み、研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。		
授業方法:	実験を中心とした教育指導をおこなうが、それぞれの指導教員の専門分野によってその方法は異なる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1)薬学における研究の位置づけ G(1)－1)～4) 1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。 2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。 3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度) 4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度) (2)研究に必要な法規範と倫理 G(2)－1)～3) 1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。 2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)A-(2)・④-3再掲 (3)研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 G(3)－1)～6) 1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能) 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能) 3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度) 4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) 5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度) 6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。	
	2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。	
	3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。	
	4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。	
	5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。	
	6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。	
	7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。	
	8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。	
	9. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。	
	10. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。	
	11. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。	
	12. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。	
	13. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。	
	14. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。	

15.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
16.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
17.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
18.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
19.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
20.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
21.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
22.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
23.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
24.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
25.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
26.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
27.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
28.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
29.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
30.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

全員毎回出席が原則。

フィードバックの
方法:

指導教員から随時直接フィードバックを行う

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
積極的な研究態度	50%	積極的に研究しているかをルーブリックにより評価する。
発表・研究論文内容	50%	研究内容を適正に発表・纏めているかをルーブリックにより評価する。

教科書: それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。

参考書: それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

各教員で対応

授業テーマ:	問題解決能力の醸成																		
授業の概要:	研究課題に基づき、それぞれの指導教員の教育指導により、研究を進める。																		
到達目標:	薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。																		
授業方法:	実験を中心とした教育指導をおこなうが、それぞれの指導教員の専門分野によってその方法は異なる。																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1) 将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。 E1(1)－1)～7) 1. 課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。(態度) 2. 問題点を自ら進んで解決しようと努力する。(態度) 3. 課題の達成を目指して論理的思考を行い、生涯にわたって醸成する。(態度) 4. 課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。(態度) 5. 研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。(態度) 6. 環境に配慮して、研究に取り組む。(態度) 7. チームの一員としてのルールやマナーを守る。(態度) (2) 将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 E1(2)－1)～13) 1. 課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。(知識・技能) 2. 課題に関連するこれまでの発表論文を読解できる。 3. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。(技能) 4. 実験計画を立案できる。(知識・技能) 5. 実験系を組み、実験を実施できる。(技能) 6. 実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。(技能・態度) 7. 研究活動中に生じたトラブルを指導者に報告する。(態度) 8. 研究の各プロセスを正確に記録する。(技能・態度) 9. 研究の結果をまとめることができる。(技能) 10. 研究の結果を考察し、評価できる。(技能) 11. 研究の成果を発表し、適切に質疑応答ができる。(技能・態度) 12. 研究の成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 13. 自らの研究成果に基づいて、次の研究課題を提案する。(知識・技能) (3) 研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 E1(3)－1)～3) 1. 研究課題を通して、現象を的確に捉える観察眼を養う。(知識・技能・態度) 2. 新規な課題に常にチャレンジする研究者としての創造的精神を醸成する。(態度) 3. 科学の発展におけるセレンディピティについて説明できる。(知識・態度) </td><td> テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 </td></tr> <tr> <td>2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> </tbody> </table>	授業内容	準備学習等の内容	1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1) 将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。 E1(1)－1)～7) 1. 課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。(態度) 2. 問題点を自ら進んで解決しようと努力する。(態度) 3. 課題の達成を目指して論理的思考を行い、生涯にわたって醸成する。(態度) 4. 課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。(態度) 5. 研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。(態度) 6. 環境に配慮して、研究に取り組む。(態度) 7. チームの一員としてのルールやマナーを守る。(態度) (2) 将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 E1(2)－1)～13) 1. 課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。(知識・技能) 2. 課題に関連するこれまでの発表論文を読解できる。 3. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。(技能) 4. 実験計画を立案できる。(知識・技能) 5. 実験系を組み、実験を実施できる。(技能) 6. 実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。(技能・態度) 7. 研究活動中に生じたトラブルを指導者に報告する。(態度) 8. 研究の各プロセスを正確に記録する。(技能・態度) 9. 研究の結果をまとめることができる。(技能) 10. 研究の結果を考察し、評価できる。(技能) 11. 研究の成果を発表し、適切に質疑応答ができる。(技能・態度) 12. 研究の成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 13. 自らの研究成果に基づいて、次の研究課題を提案する。(知識・技能) (3) 研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 E1(3)－1)～3) 1. 研究課題を通して、現象を的確に捉える観察眼を養う。(知識・技能・態度) 2. 新規な課題に常にチャレンジする研究者としての創造的精神を醸成する。(態度) 3. 科学の発展におけるセレンディピティについて説明できる。(知識・態度)	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。	2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	
授業内容	準備学習等の内容																		
1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1) 将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。 E1(1)－1)～7) 1. 課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。(態度) 2. 問題点を自ら進んで解決しようと努力する。(態度) 3. 課題の達成を目指して論理的思考を行い、生涯にわたって醸成する。(態度) 4. 課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。(態度) 5. 研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。(態度) 6. 環境に配慮して、研究に取り組む。(態度) 7. チームの一員としてのルールやマナーを守る。(態度) (2) 将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 E1(2)－1)～13) 1. 課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。(知識・技能) 2. 課題に関連するこれまでの発表論文を読解できる。 3. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。(技能) 4. 実験計画を立案できる。(知識・技能) 5. 実験系を組み、実験を実施できる。(技能) 6. 実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。(技能・態度) 7. 研究活動中に生じたトラブルを指導者に報告する。(態度) 8. 研究の各プロセスを正確に記録する。(技能・態度) 9. 研究の結果をまとめることができる。(技能) 10. 研究の結果を考察し、評価できる。(技能) 11. 研究の成果を発表し、適切に質疑応答ができる。(技能・態度) 12. 研究の成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 13. 自らの研究成果に基づいて、次の研究課題を提案する。(知識・技能) (3) 研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 E1(3)－1)～3) 1. 研究課題を通して、現象を的確に捉える観察眼を養う。(知識・技能・態度) 2. 新規な課題に常にチャレンジする研究者としての創造的精神を醸成する。(態度) 3. 科学の発展におけるセレンディピティについて説明できる。(知識・態度)	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。																		
2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			

9. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
10. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
11. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
12. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
13. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
14. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
15. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
16. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
17. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
18. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
19. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
20. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
21. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
22. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
23. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
24. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
25. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
26. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
27. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
28. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
29. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
30. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。

[illegible]

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評鑑方法」
「成績評鑑基準」：

評価方法	割合	評価基準
積極的な研究態度	50%	積極的に研究しているかをルーブリックにより評価する。
発表・研究論文内容	50%	研究内容を適切に発表・纏められているかをルーブリックにより評価する。

発表・研究論文内容	50%	研究内容を適切に発表・纏められているかをルーブリックにより評価する。
-----------	-----	------------------------------------

教科書: それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。

参考書: それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	各教員で対応

授業テーマ:	問題解決能力の醸成	
授業の概要:	研究課題に基づき、それぞれの指導教員の教育指導により、研究を進める。	
到達目標:	薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。	
授業方法:	実験を中心とした教育指導をおこなうが、それぞれの指導教員の専門分野によってその方法は異なる。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1) 将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。 E1(1)－1)～7) 1. 課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。(態度) 2. 問題点を自ら進んで解決しようと努力する。(態度) 3. 課題の達成を目指して論理的思考を行い、生涯にわたって醸成する。(態度) 4. 課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。(態度) 5. 研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。(態度) 6. 環境に配慮して、研究に取り組む。(態度) 7. チームの一員としてのルールやマナーを守る。(態度) (2) 将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 E1(2)－1)～13) 1. 課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。(知識・技能) 2. 課題に関連するこれまでの発表論文を読解できる。 3. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。(技能) 4. 実験計画を立案できる。(知識・技能) 5. 実験系を組み、実験を実施できる。(技能) 6. 実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。(技能・態度) 7. 研究活動中に生じたトラブルを指導者に報告する。(態度) 8. 研究の各プロセスを正確に記録する。(技能・態度) 9. 研究の結果をまとめることができる。(技能) 10. 研究の結果を考察し、評価できる。(技能) 11. 研究の成果を発表し、適切に質疑応答ができる。(技能・態度) 12. 研究の成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 13. 自らの研究成果に基づいて、次の研究課題を提案する。(知識・技能) (3) 研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 E1(3)－1)～3) 1. 研究課題を通して、現象を的確に捉える観察眼を養う。(知識・技能・態度) 2. 新規な課題に常にチャレンジする研究者としての創造的精神を醸成する。(態度) 3. 科学の発展におけるセレンディピティについて説明できる。(知識・態度)	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
	2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
	3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
	4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
	5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
	6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
	7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
	8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

9. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
10. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
11. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
12. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
13. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
14. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
15. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
16. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
17. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
18. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
19. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
20. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
21. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
22. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
23. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
24. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
25. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
26. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
27. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
28. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
29. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
30. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。

[illegible]

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文	30%	研究内容が論文として適正に纏められているかをルーブリックにより評価する。
	発表会	20%	研究内容が適切に発表できているかをルーブリックにより評価する。
	研究(平常点)	50%	積極的に研究を行っているかを評価する。
教科書:	それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。		

参考書:	それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	各教員で対応

授業テーマ：安全で安楽な生活援助技術を修得する

授業の概要：看護の基本となる生活援助技術を、対象の安全・安楽と、看護者自身の安全・安楽、ボディメカニクスの視点を踏まえて学ぶ。
生活援助技術としては、環境、活動、清潔、食事、排泄、安楽の援助に関する項目を含む。

到達目標：1. 安全・安楽な生活援助技術を行うために必要な基礎的知識を習得することができる。
2. 安全・安楽に配慮した生活援助技術を獲得することができる。

授業方法：授業は、講義、デモンストレーション、演習より構成される。
講義では、科学的根拠および、対象者や看護者の安全・安楽に関する視点に重点をおいて行う。
演習では、2～4名の小グループで看護師役、患者役、観察者役を交代で実施し、倫理的態度を身に付ける視点も含める。
また、演習後も振り返りを実施することにより、学びを共有し、知識の習得および技術の獲得を高める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	科目オリエンテーション/生活環境とは	シラバスを読む(予習) 教科書関連ページを読む(予習・復習)
2.	安全・安楽に配慮した生活援助技術とは	シラバスを読む(予習) 教科書関連ページを読む(予習・復習)
3.	生活環境①【病床と病床内環境】 (グループワーク)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 発表準備を行う(復習)
4.	生活環境②【病床と病床内環境】 (発表・まとめ)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 発表後の振り返りを行う(復習)
5.	病床の作り方と整備① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
6.	病床の作り方と整備② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
7.	移動の援助とは	教科書関連ページを読み、指定した事前課題を実施する(予習) プラクティカルサポートセンターで自己・グループ学習を行う(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
8.	体位と体位変換① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読み、指定した事前課題を実施する(予習) プラクティカルサポートセンターで自己・グループ学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
9.	体位と体位変換② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読み、指定した事前課題を実施する(予習) プラクティカルサポートセンターで自己・グループ学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
10.	ストレッチャーと車椅子移乗と移送① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
11.	ストレッチャーと車椅子移乗と移送② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
12.	清潔の援助とは	教科書関連ページを読む(予習・復習)
13.	衣生活の援助とは	教科書関連ページを読む(予習・復習)
14.	リネン・寝衣交換① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
15.	リネン・寝衣交換② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
16.	全身清拭① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
17.	全身清拭② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
18.	整容・洗髪の援助とは	教科書関連ページを読む(予習・復習)
19.	整容・洗髪① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
20.	整容・洗髪② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習)
21.	食事・口腔清拭の援助とは	教科書関連ページを読み、指定した事前課題を行う(予習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
22.	食事・口腔清拭① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読み、指定した事前課題を行う(予習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)

23.	食事・口腔清拭② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習) プラクティカルサポートセンターでグループ学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
24.	排泄の援助とは	教科書関連ページを読む(予習) プラクティカルサポートセンターでグループ学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
25.	床上排泄・陰部洗浄① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習) プラクティカルサポートセンターでグループ学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
26.	床上排泄・陰部洗浄② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習) プラクティカルサポートセンターでグループ学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
27.	安楽の援助技術①【足浴・褥法】 (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読み、指定した事前課題を行う(予習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
28.	安楽の援助技術②【足浴・褥法】 (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読み、指定した事前課題を行う(予習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
29.	実技チェック	プラクティカルサポートセンター・実習室で自己学習を行う 全学習範囲の総復習を行う
30.	まとめ	全学習範囲の総復習を行う

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

上記30コマの授業内容は、順序を変更して開講することがあります。

各单元ごとに課したレポートの内容を確認後、個々にコメントをつけて返却します。
また、技術に対しコメントをします。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技チェック	40%	到達目標2. に対する達成度より評価する。
筆記試験	30%	到達目標1. に対する知識や理解度より評価する。
レポート	20%	到達目標1. 2. を踏まえ、実技演習の振り返りより、自分が根拠を理解し配慮をもって技術を達成できたかを基準とする。
演習態度	10%	到達目標2. に対する準備状態と態度・意欲より評価する。
欠席		減点する。

教科書: 阿曾洋子ほか、基礎看護技術、第7版、医学書院
看護技術がみえるVOL1 基礎看護技術、MEDIC MEDIA

参考書: 角濱春美ほか、看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術第2版、メヂカルフレンド社
竹尾恵子、看護技術プラクティス、学研

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: オフィスアワーを活用してください。

授業テーマ:	安全で安楽な診療の補助技術を修得する
授業の概要:	看護の基本となる診療の補助技術を、対象の安全・安楽および、看護者自身の安全・安楽に配慮して実施する視点に重点をおいて学ぶ。 また、診療の補助技術としては、感染予防、薬物療法、生体検査、呼吸に伴う医療処置(吸入・吸引)、排泄に関する医療処置(導尿・浣腸)が含まれる。
到達目標:	1. 科学的根拠に基づいて診療の補助技術を実施するために必要な基礎的知識を習得することができる。 2. 安全・安楽に配慮した診療の補助技術を獲得することができる。
授業方法:	授業は、講義、デモンストレーション、演習により構成される。 講義では、科学的根拠および、対象者や看護師の安全・安楽に関して重点をおく。 演習では、2～4名の小グループで看護師役、患者役、観察者役を交代して実施し、倫理的態度を身に付ける視点も含めながら行う。 また、演習後も振り返りを実施することにより、学びを共有し、知識の習得および技術の獲得を高める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	科目のオリエンテーション/診療の補助技術とは	シラバスを読む(予習) 教科書関連ページを読む(予習・復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
2.	感染予防の基礎知識とは	教科書関連ページを読む(予習・復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
3.	医療廃棄物の取り扱いとは	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習)
4.	感染予防【手洗い・標準予防策①】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習)
5.	感染予防【手洗い・標準予防策②】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習)
6.	感染予防【無菌操作・滅菌物の取り扱い①】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習)
7.	感染予防【無菌操作・滅菌物の取り扱い②】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習)
8.	治療と薬物療法①とは	教科書関連ページを読む(予習・復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
9.	治療と薬物療法②とは	教科書関連ページを読む(予習・復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
10.	薬物療法の基礎【滅菌物の確認・注射薬の吸い上げ①】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
11.	薬物療法の基礎【滅菌物の確認・注射薬の吸い上げ②】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
12.	注射法【皮下注射】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
13.	注射法【筋肉注射】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
14.	注射法【静脈内注射①】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
15.	注射法【静脈内注射②】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
16.	生体検査とは	教科書関連ページを読む(予習・復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
17.	採血法① (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) 関連項目のナースングスキルにおいて自己学習を行う(復習)
18.	採血法② (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) 関連項目のナースングスキルにおいて自己学習を行う(復習)
19.	呼吸に伴う医療処置【吸入・吸引】とは	教科書関連ページを読む(予習・復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)

20.	呼吸に伴う医療処置【吸入】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
21.	呼吸に伴う医療処置【吸引①】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
22.	呼吸に伴う医療処置【吸引②】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
23.	排泄に関する医療処置【導尿】とは	教科書関連ページを読む(予習・復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
24.	排泄に関する医療処置【導尿①】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習)
25.	排泄に関する医療処置【導尿②】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習)
26.	排泄に関する医療処置【導尿③】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習)
27.	排泄に関する医療処置【浣腸①】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
28.	排泄に関する医療処置【浣腸②】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)
29.	実技チェック	教科書関連ページを読む(復習) プラクティカルサポートセンター・実習室で自己学習を行う(復習) 全学習範囲の総復習を行う
30.	まとめ	全学習範囲の総復習を行う

受講者へのメッセージやアドバイス:
上記30コマの授業内容は、順序を変更し開講することがあります。

フィードバックの方法:
各单元ごとに課したレポート内容を確認後、個々にコメントをつけて返却します。
また、技術に対し、コメントをします。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技チェック	40%	到達目標2. に対する達成度より評価する。
	筆記試験	30%	到達目標1. に対する知識や理解度より評価する。
	レポート	20%	到達目標1. 2. を踏まえ、実技演習の振り返りより、自分が根拠を理解し配慮をもって技術を達成できたかを基準とする。
	演習態度	10%	到達目標2. に対する準備状態と態度、意欲より評価する。
	欠席		減点する。

教科書:
阿曾洋子ほか、基礎看護技術、第7版、医学書院
看護技術がみえるVOL2、基礎看護技術、MEDIC MEDIA

参考書:
角濱春美ほか、基礎看護技術、メヂカルフレンド社
竹尾恵子、看護技術プラクティス、学研
系統看護学講座、基礎看護技術Ⅱ、医学書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:
オフィスアワーを活用してください。

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)		
授業の概要:	在宅看護学または高齢者看護学領域における研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する		
到達目標:	1.文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2.研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3.自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4.研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5.研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。		
授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 卒業研究Ⅱガイダンス 文献検索の目的と意義	在宅看護学や高齢者看護学について関心のある研究テーマを持参する	
	2. 研究テーマの明確化:リサーチクエストionsを意識化する	実習場面や講義を振り返り、関心のある看護研究テーマを持参する	
	3. 研究テーマの明確化:リサーチクエストionsとキーワードを焦点化する	いくつかの研究テーマから絞り込み、キーワードを考えておく	
	4. 文献検索演習(1):キーワードをもとに検索	適切なキーワードを5つ程度考えておく	
	5. 文献検索演習(2):絞り込み検索	疾患や年齢、性別、看護方法や場等について絞りこみができる準備をしておく	
	6. 文献検索演習(3):有用な文献を選択	アブストラクトを読み、有用な文献を選択しておく	
	7. 研究テーマに関連した文献検討(1):文献を読み込み文献カード作成	収集した文献を読んでおく	
	8. 研究テーマに関連した文献検討(2):作成した文献カードを分類する	収集した文献を読み、整理する	
	9. 研究テーマに関連した文献検討(3):先行研究成果を明らかにする	収集した文献から、先行研究成果について発表できるように準備する	
	10. 研究テーマに関連した文献検討(4):先行研究結果から研究課題を明確にする	テーマに関する文献検討資料の作成	
	11. 研究テーマに関連した文献検討(5):先行研究結果から研究課題の意義をまとめる	テーマに関する文献検討資料の作成	
	12. 研究テーマに関連した文献検討(6):文献検討結果をわかりやすく整理し文章化する	文献検討結果をレポートにまとめておく	
	13. 研究テーマに関連した文献検討(7):文献検討結果をレポートとしてまとめる	レポート①を修正し、提出する	
	14. 研究テーマに関連した文献検討(8):文献検討結果のプレゼンテーション	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく	
	15. 研究計画書の意義、構成等について	資料を読み、計画書の作成について復習しておく。 卒業研究Ⅰで作成した計画書を見直す。	
	16. 研究方法の検討(対象者の選定やデザイン)	量的研究、質的研究の分析方法について学習しておく 研究実施の予算やスケジュールについて	
	17. 研究倫理について(1):研究倫理の現状、法律と制度	研究倫理について、卒業研究Ⅰの内容を復習しておく	
	18. 研究倫理について(2):倫理的配慮の手続方法きについて	倫理審査委員会について調べておく	
	19. 研究方法について(1):実験研究	実験研究方法について復習しておく	
	20. 研究方法について(2):質的研究法	質的研究方法について復習しておく	
	21. 研究方法について(3):事例研究	事例研究について復習しておく	
	22. 研究方法について(4):実態調査:質問紙法)	質問紙法について復習しておく	
	23. 研究計画について(分析方法の検討)	研究計画の検討	
	24. 研究計画書の作成(原案作成)	研究計画原案の作成	
	25. 研究計画書の作成(修正)	研究計画書(修正案)の作成	
	26. 研究計画書の作成(推敲)	研究計画書の見直しと修正案の作成	
	27. 研究計画書の作成(完成)	研究計画書(レポート②)の仕上げをしておく	
	28. 研究計画書のプレゼンテーション準備	資料の作成	
	29. 研究計画書のプレゼンテーション	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく	
	30. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	興味あるテーマを見つけて、将来的に看護の質の向上につながるような研究を計画しましょう。		
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70	到達目標2~5の到達について評価する。 研究の独自性、論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性
教科書:	適宜、紹介する。		
参考書:	必要時、紹介する。		

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

講義時又はメールで連絡する。

授業テーマ:

研究プロセスの理解と修得（研究計画書の作成）

授業の概要:

文献検索の意義と方法を理解し、関心ある研究に関する文献を検討する。そこから、自らの研究テーマを見出し、研究の意義や目的、取り組むための適切な方法などを検討し、研究計画を立案・作成する。ここでは、主として健康長寿に関するテーマを取り上げ、研究に取り組む。

- 到達目標:
1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索することができる。

2. 関心ある研究に関する文献を検討することができる。

3. 文献検討などから、自らの研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にすることができる。

4. 自らの研究テーマに取り組むための適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。

5. 自らの研究テーマに沿った研究計画書が作成できる。

授業方法:

演習・ゼミナール

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション:研究をすすめること	卒業研究Ⅰでの学びの確認
2.	在宅・高齢者看護学関連の研究とは1	関心あるテーマの資料の準備
3.	在宅・高齢者看護学関連の研究とは2	関心あるテーマの資料の準備
4.	文献検索とは何か1:目的・意義	関心あるテーマの資料の準備
5.	文献検索とは何か2:その方法	関心あるテーマの文献検討資料の作成
6.	疑問から研究テーマへ	関心あるテーマの文献検討資料の作成
7.	研究テーマの明確化1	関心あるテーマの文献検討資料の作成
8.	研究テーマの明確化2	関心あるテーマの文献検討資料の作成
9.	研究テーマに関連した文献検討1	関心あるテーマの文献検討資料の作成
10.	研究テーマに関連した文献検討2	関心あるテーマの文献検討資料の作成
11.	研究テーマに関連した文献検討3	関心あるテーマの文献検討資料の作成
12.	研究テーマに関連した文献検討4	関心あるテーマの文献検討資料の作成
13.	研究テーマに関連した文献検討5	関心あるテーマの文献検討資料の作成
14.	研究テーマに関連した文献検討6	関心あるテーマの文献検討資料の作成
15.	研究テーマに関連した文献検討7	関心あるテーマの文献検討資料の作成
16.	研究テーマに関連した文献検討8	関心あるテーマの文献検討資料の作成
17.	研究倫理を考える1	研究倫理に関する資料の準備
18.	研究倫理を考える2	研究倫理に関する資料の準備
19.	研究方法の検討1:研究テーマに取り組むための方法①	研究方法に関する資料の準備
20.	研究方法の検討2:研究テーマに取り組むための方法②	研究方法に関する資料の準備
21.	研究計画書の作成1:研究計画書をすすめる前に	研究計画書作成の準備
22.	研究計画書の作成2:研究テーマと取り組むための方法の確認	研究計画書作成の準備
23.	研究計画書の作成3:研究テーマと取り組むための方法の確認	研究計画書作成(原案)
24.	研究計画書の作成4:原案作成①	研究計画書作成(原案)
25.	研究計画書の作成5:原案作成②	研究計画書作成(原案)
26.	研究計画書の作成6:修正	研究計画書作成(修正)
27.	研究計画書の作成7:完成・確認	研究計画書作成(修正)
28.	研究計画書のプレゼンテーション1:準備	研究計画書のプレゼンテーション準備
29.	研究計画書のプレゼンテーション2:発表	研究計画書のプレゼンテーション準備
30.	研究計画書のプレゼンテーション3:まとめ	研究計画書のプレゼンテーション準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

楽しく研究しましょう

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)でまとめて解説し、計画書および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

適宜ゼミ内で助言する。

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)		
授業の概要:	看護実践の探究とその方法としての研究の必要性を学ぶことをねらいとする。卒業研究Ⅰの学修を基盤として、ウイメンズヘルス領域における研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する		
到達目標:	1) 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2) 研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3) 自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4) 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5) 研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。		
授業方法:	演習(プレゼンテーション、ディスカッションなど)		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス		
	2. 関心のあるテーマの模索① ブレインストーミング	これまでの学習や経験からウイメンズヘルス領域における関心のあるテーマについて考える	
	3. 関心のあるテーマの模索② ブレインストーミング後の情報整理、テーマを絞る	前回の授業内容から、情報整理をしておく	
	4. 関心のあるテーマと文献検討①	卒業研究Ⅰで学習した文献クリティークの視点を確認しておく	
	5. 関心のあるテーマと文献検討②	文献を丁寧に読んでおく	
	6. 関心のあるテーマと文献検討③	文献を丁寧に読んでおく	
	7. 関心のあるテーマと文献検討④	文献を丁寧に読んでおく	
	8. 関心のあるテーマと文献検討⑤	文献を丁寧に読んでおく	
	9. 関心のあるテーマと文献検討⑥	文献を丁寧に読んでおく	
	10. 関心のあるテーマと文献検討⑦	文献を丁寧に読んでおく	
	11. 関心のあるテーマと文献検討⑧	文献を丁寧に読んでおく	
	12. 関心のあるテーマと文献検討のまとめ①	文献レビューを作成する	
	13. 関心のあるテーマと文献検討のまとめ②	文献レビューを作成する	
	14. 研究テーマの絞り込み、研究の問いの明確化	文献検討の総括をする	
	15. 研究方法の検討① 研究倫理	卒業研究Ⅰで学習した研究倫理を確認しておく	
	16. 研究方法の検討② 研究デザイン	卒業研究Ⅰで学習した研究デザインを確認しておく	
	17. 研究方法の検討③ データ収集方法	卒業研究Ⅰで学習したデータ収集方法を確認しておく	
	18. 研究方法の検討④ データ分析方法	卒業研究Ⅰ、保健医療統計で学習したデータ分析方法を確認しておく	
	19. 研究計画書の作成① 背景	卒業研究Ⅰで学習した研究計画書の構成を確認しておく	
	20. 研究計画書の作成② 背景	これまでに作成した文献レビューを整理しておく	
	21. 研究計画書の作成③ 研究方法	研究目的・仮説を確認しておく	
	22. 研究計画書の作成④ 分析方法	研究目的・仮説・研究方法を確認しておく	
	23. 研究計画書の作成⑤ 倫理的配慮	卒業研究Ⅰで学習した「倫理的配慮の必要性やその理由について」再確認しておく	
	24. 研究計画書の作成⑥ 原案完成	授業19～23を振り返り、計画書の作成準備を行う	
	25. 研究計画書のプレゼンテーション①	プレゼンテーションの準備をしておく	
	26. 研究計画書のプレゼンテーション②	配付された資料を丁寧に読み、質問やコメントができるように準備する	
	27. 研究計画書の推敲	授業25,26を振り返り、アドバイスを参考に推敲しておく	
	28. 研究計画書の完成	誤字脱字などないように確認しておく	
	29. 夏期休暇中の課題の明確化	研究実施に向けて、具体的に進め方をイメージする	
	30. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	関心のあるテーマについての研究成果、統計資料、実践報告、有識者の提言などの文献を読み込み、論理的・批判的な思考力を学修していきます。		
フィードバックの方法:	授業内で解説・フィードバックを行う、計画書はコメントをつけて返却する		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	50	到達目標1)～5)の到達度や計画書の完成度により評価する
	発表、討論	30	到達目標1)2)の理解度やグループ討論での役割とその達成度で評価する
	授業への参加度	20	積極的な取り組みの姿勢、スケジュール管理について評価する
教科書:			
参考書:	テーマにあわせ適宜紹介する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	Eメールなど		

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要:

研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:

文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法:	文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	研究Ⅰを見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。
	2. リサーチクエスションの探索	看護に関する疑問の探索と追及。
	3. 研究テーマの明確化	関連のある文献を検索、検討。
	4. 研究テーマの決定	関連のある文献を検索、検討。
	5. 研究テーマに関連した文献検討1	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。
	6. 研究テーマに関連した文献検討2	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。
	7. 研究テーマに関連した文献検討3	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。
	8. 研究テーマに関連した文献検討4	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。
	9. 研究倫理	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。
	10. 仮説の検討	仮説を検討しておく。
	11. 研究方法の検討(研究デザインの検討)	研究デザインを検討しておく。
	12. 研究方法の検討(研究対象の検討)	研究対象を検討しておく。
	13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討)	データ収集方法を検討しておく。
	14. 研究方法の検討(分析方法の検討)	分析方法を検討しておく。
	15. 研究倫理の再確認	自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。
	16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1	資料を作成しておく。
	17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2	資料を作成しておく。
	18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)	資料を作成しておく。
	19. 研究計画書とは	研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく。
	20. 研究計画書の作成(背景・目的)1	研究計画書の作成。
	21. 研究計画書の作成(背景・目的)2	研究計画書の作成。
	22. 研究計画書の作成(用語の定義)	研究計画書の作成。
	23. 計画書の作成(研究方法)	研究計画書の作成。
	24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)	研究計画書の作成。
	25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)	研究計画書の作成。
	26. 計画書の作成(倫理的配慮)	研究計画書の作成。
	27. 研究計画書の作成(まとめ)	研究計画書の作成。
	28. 研究計画書の発表準備	発表資料の作成。
	29. 研究計画書の発表準備	発表資料の作成。
	30. 研究計画書の発表	発表の準備。

受講者へのメッセージやアドバイス:

研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。

参考書:

小笠原知枝, 松木光子編(2017) これからの看護研究―基礎と応用, ヌーヴェルヒロカワ。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要:

研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する。

到達目標:

・文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。

・研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。

・自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。

・研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。

・研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法:

学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究Ⅱの科目オリエンテーション	卒業研究Ⅰの授業資料を整理する(予習) シラバスを確認する(予習) オリエンテーション内容を整理する(復習)
2.	文献検索の目的と意義	授業内容を整理する(復習) 自身が受けた授業内容や実習体験などから、研究疑問を考える(復習)
3.	研究疑問(テーマ)の明確化	関心のあるテーマを探す(予習) 関心のあるテーマに関連した文献を探す(復習)
4.	研究テーマに関連した文献検討①	テーマに関する文献検討資料を作成する(予習・復習)
5.	研究テーマに関連した文献検討②	テーマに関する文献検討資料を作成する(予習・復習)
6.	研究テーマに関連した文献検討③	テーマに関する文献検討資料を作成する(予習・復習)
7.	研究計画書作成の目的と意義	研究計画書作成についての資料を読む(予習) 授業資料や講義内容を整理する(復習)
8.	研究計画書作成の方法	研究計画書作成についての資料を読む(復習) 授業資料や講義内容を整理する(復習)
9.	研究方法の検討(研究倫理①)	研究倫理に関する資料を読む(予習) 授業資料や講義内容を整理する(復習)
10.	研究方法の検討(研究倫理②)	研究倫理に関する資料を読む(予習) 授業資料や講義内容を整理する(復習)
11.	研究方法の検討(分析方法①)	研究分析方法に関する資料を読む(予習) 研究の分析方法について整理する(復習)
12.	研究方法の検討(分析方法②)	研究分析方法に関する資料を読む(予習) 研究の分析方法について整理し、自身の研究に適した分析方法について考える(復習)
13.	研究計画書(背景①)	研究計画(背景)を検討する(予習・復習)
14.	研究計画書(背景②)	研究計画(背景)を検討する(予習・復習)
15.	研究計画書(研究デザイン)	研究計画(研究デザイン)を検討する(予習・復習)
16.	研究計画書(倫理的配慮①)	研究計画(倫理的配慮)を検討する(予習・復習)
17.	研究計画書(倫理的配慮②)	研究計画(倫理的配慮)を検討する(予習・復習)
18.	研究計画書(分析方法の検討①)	研究計画(分析方法)を検討する(予習・復習)
19.	研究計画書(分析方法の検討②)	研究計画(分析方法)を検討する(予習・復習)
20.	研究計画書の作成(原案作成①)	研究計画書(案)を作成する(予習・復習)
21.	研究計画書の作成(原案作成②)	研究計画書(案)を作成する(予習・復習)
22.	研究計画書の作成(原案作成③)	研究計画書(案)を作成する(予習・復習)
23.	研究計画書の作成(推敲・修正①)	研究計画書(修正案)を作成する(予習・復習)
24.	研究計画書の作成(推敲・修正②)	研究計画書(修正案)を作成する(予習・復習)
25.	研究計画書の作成(完成)	研究計画書全体の検討を行う(予習・復習)
26.	研究計画書のプレゼンテーションに向けた準備	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)
27.	研究計画書のプレゼンテーション①	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)
28.	研究計画書のプレゼンテーション②	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)
29.	研究計画書のプレゼンテーション③	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)
30.	まとめ	研究計画書全体を振り返る(予習・復習)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考書:

基礎看護学④ 看護研究、メディカ出版、2018
D.F.ポーリット、C.T.ベック、看護研究 原理と方法、医学書院、2010
西條剛央、看護研究で迷わないための超入門講座、医学書院
黒田裕子、黒田裕子の 看護研究 Step by Step 第5版、医学書院、2017

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：
教員との連絡
方法：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

オフィスパワーを活用して下さい。

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要:

研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:

文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法:	学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. オリエンテーション 2. リサーチクエスションの探索 3. 研究テーマの明確化 4. 研究テーマの決定 5. 研究テーマに関連した文献検討1 6. 研究テーマに関連した文献検討2 7. 研究テーマに関連した文献検討3 8. 研究テーマに関連した文献検討4 9. 研究倫理 10. 仮説の検討 11. 研究方法の検討(研究デザインの検討) 12. 研究方法の検討(研究対象の検討) 13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討) 14. 研究方法の検討(分析方法の検討) 15. 研究倫理の再確認 16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1 17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2 18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど) 19. 研究計画書とは 20. 研究計画書の作成(背景・目的)1 21. 研究計画書の作成(背景・目的)2 22. 研究計画書の作成(用語の定義) 23. 計画書の作成(研究方法) 24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成) 25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成) 26. 計画書の作成(倫理的配慮) 27. 研究計画書の作成(まとめ) 28. 研究計画書の発表準備 29. 研究計画書の発表準備 30. 研究計画書の発表	準備学習等の内容 研究 I を見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。 看護に関する疑問の探索と追及。 関連のある文献を検索、検討。 関連のある文献を検索、検討。 研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。 研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。 研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。 研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。 仮説を検討しておく。 研究デザインを検討しておく。 研究対象を検討しておく。 データ収集方法を検討しておく。 分析方法を検討しておく。 自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。 資料を作成しておく。 資料を作成しておく。 資料を作成しておく。 研究 I で作成した研究計画書の再検討をしておく。 研究計画書の作成。 研究計画書の作成。 研究計画書の作成。 研究計画書の作成。 研究計画書の作成。 研究計画書の作成。 研究計画書の作成。 研究計画書の作成。 研究計画書の作成。 発表資料の作成。 発表資料の作成。 発表の準備。

受講者へのメッセージやアドバイス:

研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70%	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20%	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10%	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。

参考書:

小笠原知枝, 松木光子編(2017) これからの看護研究―基礎と応用,ヌーヴェルヒロカワ。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要:

研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:

①文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
②研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
③自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
④研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
⑤研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法:

学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	文献検索の目的と意義	研究Ⅰの復習をしておく
3.	研究疑問(テーマ)の明確化①	関心あるテーマの資料を持参する
4.	研究疑問(テーマ)の明確化②	関心あるテーマの資料を持参する
5.	研究テーマに関連した文献検討①	テーマに関する文献検討資料の作成
6.	研究テーマに関連した文献検討②	テーマに関する文献検討資料の作成
7.	研究テーマに関連した文献検討③	テーマに関する文献検討資料の作成
8.	研究テーマに関連した文献検討④	テーマに関する文献検討資料の作成
9.	研究計画書作成の目的と意義	
10.	研究計画書作成の方法	
11.	研究方法の検討(研究倫理①)	
12.	研究方法の検討(研究倫理②)	
13.	研究方法の検討(分析方法①)	
14.	研究方法の検討(分析方法②)	
15.	研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)①	研究計画の検討
16.	研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)②	研究計画の検討
17.	研究計画書(分析方法)①	研究計画の検討
18.	研究計画書(分析方法)②	研究計画の検討
19.	研究計画書の作成(原案作成)①	研究計画書(案)の作成
20.	研究計画書の作成(原案作成)②	研究計画書(案)の作成
21.	研究計画書の作成(推敲・修正)①	研究計画書(修正案)の作成
22.	研究計画書の作成(推敲・修正)②	研究計画書(修正案)の作成
23.	研究計画書の作成(推敲・修正)③	研究計画書(修正案)の作成
24.	研究計画書の作成(完成)	研究計画書(完成案)の作成
25.	研究計画書のプレゼンテーション(準備)①	資料の作成
26.	研究計画書のプレゼンテーション(準備)②	資料の作成
27.	研究計画書のプレゼンテーション	資料の作成
28.	研究計画書のプレゼンテーション(評価)	資料の作成
29.	研究計画書のプレゼンテーション(まとめ)	資料の作成
30.	まとめ	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

とくに指定しない

参考書:

適宜紹介する

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

講義前後およびメールで対応する

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要:

成人看護学領域における研究課題を明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:

1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2. 成人看護学領域の研究課題に関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
3. 成人看護学領域の研究課題を見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5. 研究の過程に基づいて自らの研究課題に沿った研究計画書を作成できる。

授業方法:

学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 卒業研究Ⅱの進め方	卒業研究Ⅰの復習
2.	関心領域の明確化1	成人領域の関心のある現象を考え、発表資料を準備する
3.	関心領域の明確化2	成人領域の関心のある現象を考え、発表資料を準備する
4.	関心領域の研究の動向の探索1	図書館の医学データベースで調べ、発表資料を準備する
5.	関心領域の研究の動向の探索2	図書館の医学データベースで調べ発表資料を準備する
6.	研究疑問の絞り込み1	実施可能性のあるテーマを考えておく
7.	研究疑問の絞り込み2	実施可能性のあるテーマを考えておく
8.	研究課題の明確化	実施可能性のあるテーマを考えておく
9.	研究課題に関する文献検討1	図書館の医学データベースで調べ発表資料を準備する
10.	研究課題に関する文献検討2	図書館の医学データベースで調べ発表資料を準備する
11.	研究の背景・意義・目的の検討1	文献から研究課題の位置づけを探る
12.	研究の背景・意義・目的の検討2	文献から研究課題の位置づけを探る
13.	研究デザインの検討(質的・量的)	研究課題に即した研究デザインを選択する
14.	研究方法の検討(質的・量的)1	研究課題に即した研究方法を選択する
15.	研究方法の検討(質的・量的)2	研究課題に即した研究方法を選択する
16.	研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)1	研究枠組の作成方法を復習する
17.	研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)2	研究枠組の作成方法を復習する
18.	研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)3	研究枠組の作成方法を復習する
19.	分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)1	統計方法を復習する
20.	分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)2	統計方法を復習する
21.	倫理的配慮の検討	研究倫理を復習する
22.	質問紙の作成・インタビューガイドの作成1	資料の作成
23.	質問紙の作成・インタビューガイドの作成2	資料の作成
24.	研究計画書(原案)章立ての作成	資料の作成
25.	研究計画書文献レビューの作成	資料の作成
26.	研究計画書の作成(推敲・修正)1	資料の作成
27.	研究計画書の作成(推敲・修正)2	資料の作成
28.	研究計画書の作成(完成)	資料の作成
29.	研究計画書のプレゼンテーション1	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく
30.	研究計画書のプレゼンテーション2	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

臨床実習や講義を通して関心ある看護現象を明らかにし、研究計画書作成までのプロセスを獲得してください。

フィードバックの方法:

研究計画書の作成に沿って、その都度助言をします。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70	到達目標2～5の到達について評価する。 研究の独自性、論理性、計画書の形式、
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

適宜、紹介する。

参考書:

必要時、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

講義時又はメールで連絡する。

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)
授業の概要:	成人看護学領域における研究課題を明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する
到達目標:	1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2. 成人看護学領域の研究課題に関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3. 成人看護学領域の研究課題を見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5. 研究の過程に基づいて自らの研究課題に沿った研究計画書を作成できる。
授業方法:	グループで一つの研究課題に取り組む。学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 卒業研究Ⅱの進め方	卒業研究Ⅰの復習
2.	関心領域の明確化1	成人領域の関心のある現象を考える
3.	関心領域の明確化2	成人領域の関心のある現象を考える
4.	関心領域の研究の動向の探索1	図書館の医学データベースで調べておく
5.	関心領域の研究の動向の探索2	図書館の医学データベースで調べておく
6.	研究疑問の絞り込み1	実施可能性のあるテーマを考える
7.	研究疑問の絞り込み2	実施可能性のあるテーマを考える
8.	研究課題の明確化	実施可能性のあるテーマを考える
9.	研究課題に関する文献検討1	図書館の医学データベースで調べておく
10.	研究課題に関する文献検討2	図書館の医学データベースで調べておく
11.	研究の背景・意義・目的の検討1	文献から研究課題の位置づけを探る
12.	研究の背景・意義・目的の検討2	文献から研究課題の位置づけを探る
13.	研究デザインの検討(質的・量的)	研究課題に即した研究デザインを選択する
14.	研究方法の検討(質的・量的)1	研究課題に即した研究方法を選択する
15.	研究方法の検討(質的・量的)2	研究課題に即した研究方法を選択する
16.	研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)1	研究枠組の作成方法を復習する
17.	研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)2	研究枠組の作成方法を復習する
18.	研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)3	研究枠組の作成方法を復習する
19.	分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)1	統計方法を復習する
20.	分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)2	統計方法を復習する
21.	倫理的配慮の検討	研究倫理を復習する
22.	質問紙の作成・インタビューガイドの作成1	資料の作成
23.	質問紙の作成・インタビューガイドの作成2	資料の作成
24.	研究計画書(原案)章立ての作成	資料の作成
25.	研究計画書文献レビューの作成	資料の作成
26.	研究計画書の作成(推敲・修正)1	資料の作成
27.	研究計画書の作成(推敲・修正)2	資料の作成
28.	研究計画書の作成(完成)	資料の作成
29.	研究計画書のプレゼンテーション1	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく
30.	研究計画書のプレゼンテーション2	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス: 臨床実習や講義・演習を通して関心ある看護現象を明らかにし、看護研究初学者としての第1歩を踏むためのプロセスを獲得してください。視線計測に関心のある学生は器機を使用してもらってもかまいません。

フィードバックの方法: 研究計画書の作成に沿って、助言をしていきます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	到達目標2～5の到達について評価する。
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	研究の独自性、論理性、計画書の形式、プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: 適宜、紹介する。

参考書: 必要時、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 講義時又はメールで連絡する。

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)		
授業の概要:	研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する		
到達目標:	1.文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2.研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3.自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4.研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5.研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。		
授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	興味・関心あるテーマを準備する。	
	2. 文献検索の目的と意義	文献検索するためのキーワードを準備する。	
	3. 研究疑問(テーマ)の明確化	興味・関心あるテーマを準備する。	
	4. 研究テーマに関連した文献収集	文献検索するためのキーワードを準備する。	
	5. 研究テーマに関連した文献検討①	収集した文献に目をとおし、必要な論文を選んで優先度をつける。	
	6. 研究テーマに関連した文献検討②	文献を丁寧に読んでおく	
	7. 研究テーマに関連した文献検討③	文献を丁寧に読んでおく	
	8. 文献検討結果の発表準備	文献検討結果を発表するための構成を考えておく。	
	9. 文献検討結果の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う	
	10. 文献検討結果の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う	
	11. 研究課題の明確化	プレゼンテーションの準備を行う	
	12. 研究計画書作成の目的と意義、方法	計画書の概要について復習しておく。	
	13. 研究方法の検討①	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。	
	14. 研究方法の検討②	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。	
	15. データ収集方法の学習	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。	
	16. データ収集方法の検討	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。	
	17. 研究倫理の確認	研究倫理について復習しておく	
	18. 分析方法の検討①	研究課題に沿った分析方法を学習しておく。	
	19. 分析方法の検討②	研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。	
	20. 研究計画書の作成①	研究計画書の構成について学習しておく。	
	21. 研究計画書の作成②	研究計画書の原案を作成する	
	22. 研究計画書の作成③	研究計画書の原案を作成する	
	23. 研究計画書の作成④	研究計画書の原案を作成する	
	24. 研究計画書の発表準備	研究計画書作成の準備を行う。	
	25. 研究計画書の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う	
	26. 研究計画書の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う。	
	27. 研究計画書の発表・ディスカッション③	プレゼンテーションの準備を行う	
	28. 研究計画書の見直し	研究計画書の修正を行う	
	29. 研究計画書の完成	研究計画書の修正を行う	
	30. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	文献を読み込み、自己の研究課題を明確化し、有用な研究のもととなる研究計画書を作成しましょう。		
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書の内容	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性
教科書:			
参考書:	適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	講義時、オフィスアワーに対応する。		

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)		
授業の概要:	研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する		
到達目標:	文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。		
授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 文献検索の目的と意義	卒業研究Ⅰの資料を読み直しておく	
	2. 研究疑問(テーマ)の明確化	関心あるテーマの資料を持参する	
	3. 研究疑問(テーマ)の明確化(推敲・修正)	前回の授業を受けて関心のあるテーマをさらに絞り込む	
	4. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献検討資料の作成	
	5. 研究テーマに関連した文献検討(推敲・修正)	テーマに関する文献検討資料の作成・修正	
	6. 研究テーマに関連した文献検討(推敲・修正)	テーマに関する文献検討資料の作成・修正	
	7. 研究計画書作成の目的と意義、方法(草案)	文献検討を元に、研究の目的・意義・方法について検討	
	8. 研究計画書の目的の明確化	文献検討を元に、研究の目的について検討	
	9. 研究計画書作成の意義の明確化	文献検討を元に、研究の意義について検討	
	10. 研究計画書作成の意義の明確化(推敲・修正)	文献検討を元に、研究の意義について検討	
	11. 研究計画書作成の方法の明確化	文献検討を元に、研究の方法について検討	
	12. 研究計画書作成の方法の明確化(推敲・修正)	文献検討を元に、研究の方法について検討	
	13. 研究方法の検討(研究倫理)	文献検討を元に、研究倫理について検討	
	14. 研究方法の検討(研究倫理)(推敲・修正)	文献検討を元に、研究倫理について検討	
	15. 研究方法の検討(分析方法)	文献検討を元に、研究の分析方法について検討	
	16. 研究方法の検討(分析方法)(推敲・修正)	文献検討を元に、研究の分析方法について検討	
	17. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)(原案作成)	研究計画の検討	
	18. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)(推敲・修正)	研究計画の検討	
	19. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)(推敲・修正)	分析手法の検討	
	20. 研究計画書(分析方法)(原案作成)	分析手法の修正	
	21. 研究計画書(分析方法)(推敲・修正)	研究計画書(案)の作成	
	22. 研究計画書の作成(原案作成)	研究計画書(案)の作成	
	23. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書(修正案)の作成	
	24. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書(修正案)の作成	
	25. 研究計画書の作成(完成)	資料の作成	
	26. 研究計画書のプレゼンテーション(準備)	資料の修正	
	27. 研究計画書のプレゼンテーション(準備)(推敲・修正)	資料の作成	
	28. 研究計画書のプレゼンテーション	資料の作成	
	29. 研究計画書のプレゼンテーション		
	30. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	Eメールを利用 葉山 yhayama@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要:

ウィメンズヘルス領域における研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:

文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 文献検索の目的と意義		
	2. ウィメンズヘルス領域に関する研究疑問(テーマ)の明確化(1)	ウィメンズヘルス領域で関心のあるテーマの資料を持参する	
	3. ウィメンズヘルス領域に関する研究疑問(テーマ)の明確化(2)	ウィメンズヘルス領域で関心のあるテーマの資料を持参する	
	4. 研究テーマに関連した文献検索(1)	文献検索の方法を復習しておく	
	5. 研究テーマに関連した文献検索(2)		
	6. 研究テーマに関連した文献検索(3)		
	7. 研究テーマに関連した文献検索(4)		
	8. 文献の講読・検討(1)		
	9. 文献の講読・検討(2)		
	10. 文献の講読・検討(3)		
	11. 文献の講読・検討(4)		
	12. 研究計画書作成の目的と意義、方法	テーマに関する文献検討資料の作成	
	13. 研究方法の検討(研究倫理)	研究計画の検討	
	14. 研究方法の検討(分析方法)	研究計画の検討	
	15. 研究計画書(背景)		
	16. 研究計画書(研究デザイン、方法)	研究デザイン・方法について復習しておく	
	17. 研究計画書(分析方法)	分析方法について復習しておく	
	18. 研究計画書(倫理的配慮)	倫理的配慮について復習しておく	
	19. 研究計画書の作成(原案作成)		
	20. 研究計画書の作成(原案作成)	研究計画書(案)の作成	
	21. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書(修正案)の作成	
	22. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書(修正案)の作成	
	23. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書(修正案)の作成	
	24. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書(修正案)の作成	
	25. 研究計画書の作成(完成)	研究計画書(修正案)の作成	
	26. 研究計画書のプレゼンテーション(準備)		
	27. 研究計画書のプレゼンテーション(準備)		
	28. 研究計画書のプレゼンテーション	資料の作成	
	29. 研究計画書のプレゼンテーション	資料の作成	
	30. まとめ		

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考書:

系統看護学講座別巻看護研究、坂下玲子他、医学書院
ナーシング・グラフィカ基礎看護学④看護研究、川村佐和子編、メディカ出版
黒田裕子の看護研究Step by Step 第5版、黒田裕子、医学書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

質問などは主にゼミ中に対応する

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)		
授業の概要:	精神看護学領域において関心のある研究テーマを明確にし、研究計画書を作成する。		
到達目標:	1.関心のあるテーマを明確にすることができる。 2.データベース(医学中央雑誌、CINAL、PubMed等)を活用して、関心のあるテーマに関する文献検索ができる。 3.文献検索で得た文献を整理し、関心のあるテーマについての現状を明らかにすることができる。 4.文献検討に基づき、自己の研究テーマを明確にすることができる。 5.研究テーマについての看護上の意義、目的を明確にすることができる。 6.研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。		
授業方法:	演習形式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	29. 研究計画書の提出 30. まとめ 1. 関心のあるテーマを明らかにする。 2. 関心のあるテーマについて:発表・意見交換 3. 関心のあるテーマについての文献検索(1) 4. 関心のあるテーマについての文献検索(2) 5. 関心のあるテーマについての文献検索(3) 6. 関心のあるテーマについての文献検索・文献検討(1) 7. 関心のあるテーマについての文献検索・文献検討(2) 8. 関心のあるテーマについての文献検索・文献検討(3) 9. 関心のあるテーマについての現状について(1) 10. 関心のあるテーマについての現状について(2) 11. 関心のあるテーマについての現状について(3):発表, 意見交換 12. 研究テーマの方向性についての検討 13. 研究テーマの方向性についての検討 14. 研究方法の検討(1) 15. 研究方法の検討(2) 16. 研究倫理について 17. 研究倫理の重要性について:発表, 意見交換 18. 研究計画書の作成(1):研究の背景 19. 研究計画書の作成(2):研究の背景 20. 研究計画書の作成(3):研究の目的 21. 研究計画書の作成(4):研究の目的 22. 研究計画書の作成(5):研究方法 23. 研究計画書の作成(6):研究方法 24. 研究計画書の作成(7):全体 25. 研究計画書の作成(8):全体 26. 研究計画書の作成(9):全体 27. 研究計画についての発表準備 28. 研究計画についての発表・意見交換	精神看護学領域において関心のある事象・テーマについて考えておくこと。 精神看護学領域において関心のある事象・テーマについて図書等を活用し調べておく。 データベースを活用した文献検索の方法を確認しておく。 文献検索で得た文献の整理 文献検索で得た文献の整理 文献検索で得た文献の整理 文献検索で得た文献の整理 文献検索で得た文献の整理 文献検討で得た関心のあるテーマの現状についてまとめる。 文献検討で得た関心のあるテーマの現状についてまとめる。 発表資料の作成 文献検討等の結果から、研究の目的を考えておく。 指導を受けて修正する。 研究テーマ、研究目的に合致した研究方法を考えておく。 指導を受けて修正する。 一般的に「人を対象とした研究」を実施する際の研究倫理の重要性、および倫理的配慮について図書等を活用し整理しておく 発表資料の作成 研究計画書の作成 指導を受けて、修正する。 研究計画書の作成 指導を受けて、修正する。 研究計画書の作成 指導を受けて、修正する。 指導を受けて、修正する。 発表資料の作成	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	グループ、あるいは個々にフィードバックする。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書の作成	80	研究計画書作成に至るプロセスを理解し、実施することができる。
	授業への取り組み	20	主体的に取り組むことができる。
教科書:	適宜紹介する。		
参考書:	適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	ykimura@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要:

研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:

文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法:	学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. オリエンテーション 2. リサーチクエスションの探索 3. 研究テーマの明確化 4. 研究テーマの決定 5. 研究テーマに関連した文献検討1 6. 研究テーマに関連した文献検討2 7. 研究テーマに関連した文献検討3 8. 研究テーマに関連した文献検討4 9. 研究倫理 10. 仮説の検討 11. 研究方法の検討(研究デザインの検討) 12. 研究方法の検討(研究対象の検討) 13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討) 14. 研究方法の検討(分析方法の検討) 15. 研究倫理の再確認 16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1 17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2 18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど) 19. 研究計画書とは 20. 研究計画書の作成(背景・目的)1 21. 研究計画書の作成(背景・目的)2 22. 研究計画書の作成(用語の定義) 23. 計画書の作成(研究方法) 24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)1 25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)2 26. 計画書の作成(倫理的配慮) 27. 研究計画書の作成(まとめ) 28. 研究計画書の発表準備1 29. 研究計画書の発表準備2 30. 研究計画書の発表	準備学習等の内容 研究 I を見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。 看護に関する疑問の探索と追及。 関連のある文献を検索、検討。 関連のある文献を検索、検討。 研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。 研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。 研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。 研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。 仮説を検討しておく。 研究デザインを検討しておく。 研究対象を検討しておく。 データ収集方法を検討しておく。 分析方法を検討しておく。 自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。 資料を作成しておく。 資料を作成しておく。 資料を作成しておく。 研究 I で作成した研究計画書の再検討をしておく。 研究計画書の作成。 研究計画書の作成。 研究計画書の作成。 研究計画書の作成。 研究計画書の作成。 研究計画書の作成。 研究計画書の作成。 研究計画書の作成。 発表資料の作成。 発表資料の作成。 発表の準備。

受講者へのメッセージやアドバイス:

研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。

参考書:

適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。

授業テーマ:

ウィメンズヘルスに関する課題の明確化と、研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要:

ウィメンズヘルスに関する研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する。

到達目標:

ウィメンズヘルスに関する課題や疑問を明らかにできる。
文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 研究の目的と意義(ガイダンス)	シラバスを持参する
	2. 文献検索の目的と意義	
	3. 文献検索①	関心あるテーマの資料を検索する
	4. 文献検索②	関心あるテーマの資料を検索する
	5. 研究疑問(テーマ)の明確化①	関心あるテーマの資料を持参する
	6. 研究疑問(テーマ)の明確化②	関心あるテーマの資料を持参する
	7. 研究テーマに関連した文献検討①	テーマに関する文献検討資料の作成
	8. 研究テーマに関連した文献検討②	テーマに関する文献検討資料の作成
	9. 研究テーマに関連した文献検討③	テーマに関する文献検討資料の作成
	10. 研究計画書作成の目的と意義、方法	
	11. 研究方法の検討(研究倫理)	
	12. 研究方法の検討(分析方法①:量的分析)	
	13. 研究方法の検討(分析方法②:量的分析)	
	14. 研究方法の検討(分析方法③:質的分析)	
	15. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)	
	16. 研究計画書の作成(原案作成①):背景	研究計画書(案)の作成
	17. 研究計画書の作成(原案作成②):推敲・修正	研究計画書(案)の作成
	18. 研究計画書の作成(原案作成③):研究デザイン	研究計画書(案)の作成
	19. 研究計画書の作成(原案作成④):推敲・修正	研究計画書(案)の作成
	20. 研究計画書の作成(原案作成⑤):方法	研究計画書(案)の作成
	21. 研究計画書の作成(原案作成⑥):推敲・修正	研究計画書(案)の作成
	22. 研究計画書の作成(原案作成⑦):倫理的配慮	研究計画書(案)の作成
	23. 研究計画書の作成(推敲・修正①)	研究計画書(修正案)の作成
	24. 研究計画書の作成(推敲・修正②)	研究計画書(修正案)の作成
	25. 研究計画書の作成(完成)	研究計画書(修正案)の作成
	26. 研究計画書のプレゼンテーション(準備①)	資料の作成
	27. 研究計画書のプレゼンテーション(準備②)	資料の作成
	28. 研究計画書のプレゼンテーション(準備③)	資料の作成
	29. 研究計画書のプレゼンテーション	
	30. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70%	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20%	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10%	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

ゼミにおける直接連絡

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)		
授業の概要:	研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する		
到達目標:	1.文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2.研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3.自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4.研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5.研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。		
授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	興味・関心あるテーマを準備する。	
	2. 文献検索の目的と意義	文献検索の方法の復習と、文献検索するためのキーワードを準備する。	
	3. 研究疑問(テーマ)の明確化	興味・関心あるテーマを準備する。	
	4. 研究テーマに関連した文献収集	文献検索するためのキーワードを準備する。	
	5. 研究テーマに関連した文献検討①	収集した文献に目をとおし、必要な論文を選んで優先度をつける。	
	6. 研究テーマに関連した文献検討②	文献を丁寧に読んでおく	
	7. 研究テーマに関連した文献検討③	文献を丁寧に読んでおく	
	8. 文献検討結果の発表準備	文献検討結果を発表するための構成を考えておく。	
	9. 文献検討結果の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う	
	10. 文献検討結果の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う	
	11. 研究課題の明確化	プレゼンテーションの準備を行う	
	12. 研究計画書作成の目的と意義、方法	計画書の概要について復習しておく。	
	13. 研究方法の検討①	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。	
	14. 研究方法の検討②	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。	
	15. データ収集方法の学習	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。	
	16. データ収集方法の検討	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。	
	17. 研究倫理の確認	研究倫理について復習しておく	
	18. 分析方法の検討①	研究課題に沿った分析方法を学習しておく。	
	19. 分析方法の検討②	研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。	
	20. 研究計画書の作成①	研究計画書の構成について学習しておく。	
	21. 研究計画書の作成②	研究計画書の原案を作成する	
	22. 研究計画書の作成③	研究計画書の修正案を作成する	
	23. 研究計画書の作成④	研究計画書の修正案を作成する	
	24. 研究計画書の発表準備	研究計画書発表の準備を行う。	
	25. 研究計画書の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う。	
	26. 研究計画書の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う。	
	27. 研究計画書の発表・ディスカッション③	プレゼンテーションの準備を行う	
	28. 研究計画書の見直し	研究計画書の修正を行う	
	29. 研究計画書の完成	研究計画書の修正を行う	
	30. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書の内容	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	講義時、オフィスアワーに対応する。		

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要:

研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する。

到達目標:

1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2. 研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
3. 自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5. 研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法:

学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
21.	研究計画書の作成(背景・目的)2	研究計画書の作成。
22.	研究計画書の作成(用語の定義)	研究計画書の作成。
23.	計画書の作成(研究方法)	研究計画書の作成。
24.	計画書の作成(添付資料の検討と作成)1	研究計画書の作成。
25.	計画書の作成(添付資料の検討と作成)2	研究計画書の作成。
26.	計画書の作成(倫理的配慮)	研究計画書の作成。
27.	研究計画書の作成(まとめ)	研究計画書の作成。
28.	研究計画書の発表準備1	発表資料の作成。
29.	研究計画書の発表準備2	発表資料の作成。
30.	研究計画書の発表	発表の準備。
1.	オリエンテーション	研究Ⅰを見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。
2.	リサーチクエスションの探索	看護に関する疑問の探索と追及。
3.	研究テーマの明確化	関連のある文献を検索、検討。
4.	研究テーマの決定	関連のある文献を検索、検討。
5.	研究テーマに関連した文献検討1	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。
6.	研究テーマに関連した文献検討2	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。
7.	研究テーマに関連した文献検討3	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。
8.	研究テーマに関連した文献検討4	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。
9.	研究倫理	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。
10.	仮説の検討	仮説を検討しておく。
11.	研究方法の検討(研究デザインの検討)	研究デザインを検討しておく。
12.	研究方法の検討(研究対象の検討)	研究対象を検討しておく。
13.	研究方法の検討(データ収集方法の検討)	データ収集方法を検討しておく。
14.	研究方法の検討(分析方法の検討)	分析方法を検討しておく。
15.	研究倫理の再確認	自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。
16.	データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1	資料を作成しておく。
17.	データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2	資料を作成しておく。
18.	データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)	資料を作成しておく。
19.	研究計画書とは	研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく。
20.	研究計画書の作成(背景・目的)1	研究計画書の作成。

受講者へのメッセージやアドバイス:

研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。

参考書:

適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)		
授業の概要:	研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する		
到達目標:	1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2. 研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3. 自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5. 研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。 6. 看護の事象について問題意識を持ち、積極的に探求する姿勢をもつ		
授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 文献検索の目的と意義	研究テーマとして考えていることをその理由も含めてまとめておく テーマに関する資料・文献を探す	
	2. 研究疑問(テーマ)の明確化	研究テーマとして考えていることをその理由も含めてまとめておく テーマに関する資料・文献を探す	
	3. 研究疑問(テーマ)の明確化	研究テーマとして考えていることをその理由も含めてまとめておく テーマに関する資料・文献を探す	
	4. 研究疑問(テーマ)の明確化	テーマに関する資料・文献を探す	
	5. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成	
	6. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成	
	7. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成	
	8. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成	
	9. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成	
	10. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成	
	11. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成	
	12. 研究テーマに関連した文献検討	卒業研究Ⅰの資料を読んでおく	
	13. 研究計画書作成の目的と意義、方法	研究テーマの背景についてまとめる	
	14. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)	研究デザインをまとめる	
	15. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)	研究方法をまとめる	
	16. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)	研究の倫理的配慮についてまとめる	
	17. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)	研究の分析方法について考える	
	18. 研究計画書(分析方法)	研究の分析方法をまとめる	
	19. 研究計画書(分析方法)	研究計画書の原案をまとめる	
	20. 研究計画書の作成(原案作成)	研究計画書を修正する	
	21. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正する	
	22. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正する	
	23. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正する	
	24. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を完成する	
	25. 研究計画書の作成(完成)	プレゼンテーションの準備をする	
	26. 研究計画書プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする	
	27. 研究計画書プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする	
	28. 研究計画書プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする	
	29. 研究計画書プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする	
	30. まとめ	研究計画書を修正し、完成させる データ収集など今後の計画についてまとめる	
受講者へのメッセージやアドバイス:	自ら積極的に学び、看護専門職者として看護研究を実践していく基礎となる力を身につけましょう。		
フィードバックの方法:	授業中にその都度フィードバックする 個別指導については、必要時メールで、または対面で時間外に行う		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70%	研究計画書を作成し、修正することができる(目標1～5)
	プレゼンテーション、ディスカッション	20%	自分の考えや学習成果を授業の中で明確に発表できること、ディスカッションに積極的に参加すること(目標1～6)
	態度	10%	自主性および授業に臨む態度(目標6)
教科書:			

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

メールまたはマナビーを通じて連絡する(hihashim@dwc.doshisha.ac.jp)
必要であれば研究室に来てください

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)		
授業の概要:	研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する		
到達目標:	1.文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2.研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3.自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4.研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5.研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。		
授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	興味・関心あるテーマを準備する	
	2. 文献検索の目的と意義	興味・関心あるテーマを準備する	
	3. 研究疑問(テーマ)の明確化	文献検索するためのキーワードを準備する	
	4. 研究テーマに関連した文献収集	文献検索するためのキーワードを準備する	
	5. 研究テーマに関連した文献検討①	収集した文献に目をとおり、必要な論文を選んで優先度をつける	
	6. 研究テーマに関連した文献検討②	文献を丁寧に読んでおく	
	7. 研究テーマに関連した文献検討③	文献を丁寧に読んでおく	
	8. 文献検討結果の発表準備	文献検討結果を発表するための構成を考えておく	
	9. 文献検討結果の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う	
	10. 文献検討結果の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う	
	11. 研究課題の明確化	プレゼンテーション結果をふまえ、研究課題を再検討する	
	12. 研究計画書作成の目的と意義、方法	計画書の概要について復習しておく	
	13. 研究方法の検討①	研究課題に沿った研究方法を学習しておく	
	14. 研究方法の検討②	研究課題に沿った研究方法を学習しておく	
	15. データ収集方法の学習	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく	
	16. データ収集方法の検討	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく	
	17. 研究倫理の確認	研究倫理について復習しておく	
	18. 分析方法の検討①	研究課題に沿った分析方法を学習しておく	
	19. 分析方法の検討②	研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。	
	20. 研究計画書の作成①	研究計画書の構成について学習しておく	
	21. 研究計画書の作成②	研究計画書の原案を作成する	
	22. 研究計画書の作成③	研究計画書の修正案を作成する	
	23. 研究計画書の作成④	研究計画書の修正案を作成する	
	24. 研究計画書の発表準備	研究計画書発表の準備を行う	
	25. 研究計画書の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う	
	26. 研究計画書の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う	
	27. 研究計画書の発表・ディスカッション③	プレゼンテーションの準備を行う。	
	28. 研究計画書の見直し	研究計画書の修正を行う	
	29. 研究計画書の完成	研究計画書の修正を行う	
	30. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加態度	10	研究に取り組む積極性、主体性
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	講義時、オフィスアワーに対応する		

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)
授業の概要:	成人看護学領域における研究課題を明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する
到達目標:	1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2. 成人看護学領域の研究課題に関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3. 成人看護学領域の研究課題を見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5. 研究の過程に基づいて自らの研究課題に沿った研究計画書を作成できる。
授業方法:	グループで一つの研究課題に取り組む。学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 卒業研究Ⅱの進め方	卒業研究Ⅰの復習
2.	関心領域の明確化1	成人領域の関心のある現象を考える
3.	関心領域の明確化2	成人領域の関心のある現象を考える
4.	関心領域の研究の動向の探索1	図書館の医学データベースで調べておく
5.	関心領域の研究の動向の探索2	図書館の医学データベースで調べておく
6.	研究疑問の絞り込み1	実施可能性のあるテーマを考える
7.	研究疑問の絞り込み2	実施可能性のあるテーマを考える
8.	研究課題の明確化	実施可能性のあるテーマを考える
9.	研究課題に関する文献検討1	図書館の医学データベースで調べておく
10.	研究課題に関する文献検討2	図書館の医学データベースで調べておく
11.	研究の背景・意義・目的の検討1	文献から研究課題の位置づけを探る
12.	研究の背景・意義・目的の検討2	文献から研究課題の位置づけを探る
13.	研究デザインの検討(質的・量的)	研究課題に即した研究デザインを選択する
14.	研究方法の検討(質的・量的)1	研究課題に即した研究方法を選択する
15.	研究方法の検討(質的・量的)2	研究課題に即した研究方法を選択する
16.	研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)1	研究枠組の作成方法を復習する
17.	研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)2	研究枠組の作成方法を復習する
18.	研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)3	研究枠組の作成方法を復習する
19.	分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)1	統計方法を復習する
20.	分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)2	統計方法を復習する
21.	倫理的配慮の検討	研究倫理を復習する
22.	質問紙の作成・インタビューガイドの作成1	資料の作成
23.	質問紙の作成・インタビューガイドの作成2	資料の作成
24.	研究計画書(原案)章立ての作成	資料の作成
25.	研究計画書文献レビューの作成	資料の作成
26.	研究計画書の作成(推敲・修正)1	資料の作成
27.	研究計画書の作成(推敲・修正)2	資料の作成
28.	研究計画書の作成(完成)	資料の作成
29.	研究計画書のプレゼンテーション1	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく
30.	研究計画書のプレゼンテーション2	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス: 臨床実習や講義・演習を通して関心ある看護現象を明らかにし、看護研究初学者としての第1歩を踏むためのプロセスを獲得してください。視線計測に関心のある学生は器機を使用してもらってもかまいません。

フィードバックの方法: 研究計画書の作成に沿って、助言をしていきます。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70	到達目標2～5の到達について評価する。 研究の独自性、論理性、計画書の形式、
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: 適宜、紹介する。

参考書: 必要時、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 講義時又はメールで連絡する。

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)		
授業の概要:	研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる		
到達目標:	1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。 2.データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。 3.既存の文献を用いて論理的に考察できる。 4.研究成果を論文形式にまとめることができる。 5.研究について発表およびディスカッションができる。		
授業方法:	学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 研究実施計画の作成	研究実施計画の作成のための準備	
	2. 卒業研究の実施準備－研究協力の依頼	実施計画書に沿った研究依頼の手順を考えておく。	
	3. 卒業研究の実施準備－研究調査の準備	調査の準備をしておく	
	4. 卒業研究の実施－データ収集 調査①	データ収集の準備をしておく	
	5. 卒業研究の実施－データ収集 調査②	データ収集の準備をしておく	
	6. 卒業研究の実施－データ収集 調査③	データ収集の準備をしておく	
	7. 卒業研究のデータ整理	収集したデータを確認し、持参する	
	8. 卒業研究データ入力①	入力準備をしておく	
	9. 卒業研究データ入力②	データ入力をすすめるとともに分析資料の作成	
	10. 卒業研究データ分析(統計的手法や質的分析方法の 確認)	分析資料を持参する	
	11. 卒業研究データ分析(統計的手法や質的分析方法の 確認)	分析資料を持参する	
	12. 卒業研究データの分析(統計的手法や質的分析の理 解)	分析資料の作成	
	13. 卒業研究データの分析(統計的手法や質的分析の理 解)	分析資料の作成	
	14. 論文作成(背景の記述:先行研究結果から位置づけ)	文献検討結果と分析結果を照合しておく	
	15. 論文作成(背景の記述:研究の目的と意義)	文献検討結果と分析結果を照合しておく	
	16. 論文作成(方法の記述(1))	方法を記述しておく	
	17. 論文作成(方法の記述(2))	方法を見直し記述しておく	
	18. 論文作成(結果の構成)	結果の構成を考えておく	
	19. 論文作成(図表の作成)	結果を正確かつわかりやすく示す図表を作成しておく	
	20. 論文作成(結果の記述)	結果のアウトラインを記述しておく	
	21. 論文作成(結果の記述)	結果を記述しておく	
	22. 論文作成(結果の推敲)	結果を見直ししておく	
	23. 論文作成(考察の構成)	考察の構成を考える	
	24. 論文作成(考察の記述)	考察を記述しておく	
	25. 論文作成(考察の推敲)	考察の見直しをしておく	
	26. 論文の結論及び抄録作成	結論と抄録の作成	
	27. 抄録の作成とプレゼンテーション準備	抄録と発表資料の作成	
	28. 研究のプレゼンテーション	発表資料の作成	
	29. 研究のプレゼンテーション	発表資料の作成	
	30. 研究実施プロセスの評価		
受講者への メッセージや アドバイス:	将来的に看護の質の向上につながる研究課題を論文としてまとめるプロセスを経験します。 専門職としての問題意識、学習姿勢を養い、生涯自己研鑽を続けるための基本姿勢を身に付けましょう。		
フィードバックの 方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70	到達目標1～4について、研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性等を評価する。
	プレゼンテーション	20	到達目標5について、プレゼンテーションの適切性等を評価する。
	取り組み姿勢や態度	10	研究に取り組む積極性、主体性
教科書:	適宜、紹介する。		
参考書:	必要時、紹介する。		

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

講義時又はメールにて連絡する。

授業テーマ:	研究プロセスの理解と修得(研究論文の作成と発表)																																																																
授業の概要:	作成した研究計画書を確認し、それにそって研究をすすめる。データを収集、整理と分析を行う。研究結果を解釈し、論文形式にまとめて、発表する。																																																																
到達目標:	1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。 2. データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。 3. 既存の文献を用いて論理的に考察できる。 4. 研究成果を論文形式にまとめることができる。 5. 研究について発表し、ディスカッションすることができる。																																																																
授業方法:	学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 研究実施計画の立案1:研究計画書の確認</td><td>卒業研究Ⅱ(研究計画書)の確認</td></tr><tr><td>2. 研究実施計画の立案2:実施計画の確認</td><td>研究実施計画の準備</td></tr><tr><td>3. 研究の実施1:研究協力依頼、予備的な調査①</td><td>実施計画に基づく準備・確認</td></tr><tr><td>4. 研究の実施2:研究協力依頼、予備的な調査②</td><td>実施計画に基づく準備・確認</td></tr><tr><td>5. 研究の実施3:データ収集①</td><td>実施計画に基づく研究の実施準備・確認</td></tr><tr><td>6. 研究の実施4:データ収集②</td><td>実施計画に基づく研究の実施準備・確認</td></tr><tr><td>7. 研究の実施5:データ収集③</td><td>実施計画に基づく研究の実施準備・確認</td></tr><tr><td>8. 研究の実施6:データ収集④</td><td>実施計画に基づく研究の実施準備・確認</td></tr><tr><td>9. 研究の実施7:データ収集⑤</td><td>実施計画に基づく研究の実施準備・確認</td></tr><tr><td>10. 研究の実施8:データ収集⑥</td><td>実施計画に基づく研究の実施準備・確認</td></tr><tr><td>11. 研究の実施9:データ収集⑦</td><td>実施計画に基づく研究の実施準備・確認</td></tr><tr><td>12. 研究の実施10:データ収集⑧</td><td>実施計画に基づく研究の実施準備・確認</td></tr><tr><td>13. 研究の実施11:データ収集⑨</td><td>実施計画に基づく研究の実施準備・確認</td></tr><tr><td>14. 研究の実施12:データ収集⑩</td><td>実施計画に基づく研究の実施準備・確認</td></tr><tr><td>15. 研究の実施13:データの整理・入力①</td><td>分析資料の作成準備</td></tr><tr><td>16. 研究の実施14:データの整理・入力②</td><td>分析資料の作成準備</td></tr><tr><td>17. 研究の実施15:データの分析①</td><td>分析資料の作成</td></tr><tr><td>18. 研究の実施16:データの分析②</td><td>分析資料の作成</td></tr><tr><td>19. 研究成果を論文にまとめる1:まとめ方の確認</td><td>論文作成</td></tr><tr><td>20. 研究成果を論文にまとめる2:表題や研究目的や意義、背景の記述</td><td>論文作成</td></tr><tr><td>21. 研究成果を論文にまとめる3:方法の記述①</td><td>論文作成</td></tr><tr><td>22. 研究成果を論文にまとめる4:方法の記述②</td><td>論文作成</td></tr><tr><td>23. 研究成果を論文にまとめる5:結果の記述①</td><td>論文作成</td></tr><tr><td>24. 研究成果を論文にまとめる6:結果の記述②</td><td>論文作成</td></tr><tr><td>25. 研究成果を論文にまとめる7:考察の記述①</td><td>論文作成</td></tr><tr><td>26. 研究成果を論文にまとめる8:考察の記述②</td><td>論文作成</td></tr><tr><td>27. 研究結果を論文にまとめる9:考察の記述③</td><td>論文作成</td></tr><tr><td>28. 研究成果を論文にまとめる10:なとめ・文献の記述、論文の体裁、流れなどの確認</td><td>論文作成</td></tr><tr><td>29. 研究成果の発表・デスカッション、抄録作成</td><td>抄録と発表資料の作成</td></tr><tr><td>30. 研究成果の発表・デスカッション、抄録作成</td><td>抄録と発表資料の作成</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 研究実施計画の立案1:研究計画書の確認	卒業研究Ⅱ(研究計画書)の確認	2. 研究実施計画の立案2:実施計画の確認	研究実施計画の準備	3. 研究の実施1:研究協力依頼、予備的な調査①	実施計画に基づく準備・確認	4. 研究の実施2:研究協力依頼、予備的な調査②	実施計画に基づく準備・確認	5. 研究の実施3:データ収集①	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	6. 研究の実施4:データ収集②	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	7. 研究の実施5:データ収集③	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	8. 研究の実施6:データ収集④	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	9. 研究の実施7:データ収集⑤	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	10. 研究の実施8:データ収集⑥	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	11. 研究の実施9:データ収集⑦	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	12. 研究の実施10:データ収集⑧	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	13. 研究の実施11:データ収集⑨	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	14. 研究の実施12:データ収集⑩	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	15. 研究の実施13:データの整理・入力①	分析資料の作成準備	16. 研究の実施14:データの整理・入力②	分析資料の作成準備	17. 研究の実施15:データの分析①	分析資料の作成	18. 研究の実施16:データの分析②	分析資料の作成	19. 研究成果を論文にまとめる1:まとめ方の確認	論文作成	20. 研究成果を論文にまとめる2:表題や研究目的や意義、背景の記述	論文作成	21. 研究成果を論文にまとめる3:方法の記述①	論文作成	22. 研究成果を論文にまとめる4:方法の記述②	論文作成	23. 研究成果を論文にまとめる5:結果の記述①	論文作成	24. 研究成果を論文にまとめる6:結果の記述②	論文作成	25. 研究成果を論文にまとめる7:考察の記述①	論文作成	26. 研究成果を論文にまとめる8:考察の記述②	論文作成	27. 研究結果を論文にまとめる9:考察の記述③	論文作成	28. 研究成果を論文にまとめる10:なとめ・文献の記述、論文の体裁、流れなどの確認	論文作成	29. 研究成果の発表・デスカッション、抄録作成	抄録と発表資料の作成	30. 研究成果の発表・デスカッション、抄録作成	抄録と発表資料の作成		
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. 研究実施計画の立案1:研究計画書の確認	卒業研究Ⅱ(研究計画書)の確認																																																																
2. 研究実施計画の立案2:実施計画の確認	研究実施計画の準備																																																																
3. 研究の実施1:研究協力依頼、予備的な調査①	実施計画に基づく準備・確認																																																																
4. 研究の実施2:研究協力依頼、予備的な調査②	実施計画に基づく準備・確認																																																																
5. 研究の実施3:データ収集①	実施計画に基づく研究の実施準備・確認																																																																
6. 研究の実施4:データ収集②	実施計画に基づく研究の実施準備・確認																																																																
7. 研究の実施5:データ収集③	実施計画に基づく研究の実施準備・確認																																																																
8. 研究の実施6:データ収集④	実施計画に基づく研究の実施準備・確認																																																																
9. 研究の実施7:データ収集⑤	実施計画に基づく研究の実施準備・確認																																																																
10. 研究の実施8:データ収集⑥	実施計画に基づく研究の実施準備・確認																																																																
11. 研究の実施9:データ収集⑦	実施計画に基づく研究の実施準備・確認																																																																
12. 研究の実施10:データ収集⑧	実施計画に基づく研究の実施準備・確認																																																																
13. 研究の実施11:データ収集⑨	実施計画に基づく研究の実施準備・確認																																																																
14. 研究の実施12:データ収集⑩	実施計画に基づく研究の実施準備・確認																																																																
15. 研究の実施13:データの整理・入力①	分析資料の作成準備																																																																
16. 研究の実施14:データの整理・入力②	分析資料の作成準備																																																																
17. 研究の実施15:データの分析①	分析資料の作成																																																																
18. 研究の実施16:データの分析②	分析資料の作成																																																																
19. 研究成果を論文にまとめる1:まとめ方の確認	論文作成																																																																
20. 研究成果を論文にまとめる2:表題や研究目的や意義、背景の記述	論文作成																																																																
21. 研究成果を論文にまとめる3:方法の記述①	論文作成																																																																
22. 研究成果を論文にまとめる4:方法の記述②	論文作成																																																																
23. 研究成果を論文にまとめる5:結果の記述①	論文作成																																																																
24. 研究成果を論文にまとめる6:結果の記述②	論文作成																																																																
25. 研究成果を論文にまとめる7:考察の記述①	論文作成																																																																
26. 研究成果を論文にまとめる8:考察の記述②	論文作成																																																																
27. 研究結果を論文にまとめる9:考察の記述③	論文作成																																																																
28. 研究成果を論文にまとめる10:なとめ・文献の記述、論文の体裁、流れなどの確認	論文作成																																																																
29. 研究成果の発表・デスカッション、抄録作成	抄録と発表資料の作成																																																																
30. 研究成果の発表・デスカッション、抄録作成	抄録と発表資料の作成																																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	楽しく研究しましょう																																																																
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する																																																																
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>研究論文</td><td>70</td><td>研究論文の形式、論理性、独往性、明瞭性、簡潔性</td></tr><tr><td>プレゼンテーション、ディスカッション</td><td>20</td><td>プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性</td></tr><tr><td>研究への態度</td><td>10</td><td>研究に取り組む積極性、主体性</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独往性、明瞭性、簡潔性	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性	研究への態度	10	研究に取り組む積極性、主体性																																																				
評価方法	割合	評価基準																																																															
研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独往性、明瞭性、簡潔性																																																															
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性																																																															
研究への態度	10	研究に取り組む積極性、主体性																																																															
教科書:																																																																	
参考書:																																																																	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																																																
教員との連絡方法:	適宜ゼミ内で助言する																																																																

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要:

看護実践の探究とその方法としての研究の必要性を学ぶことをねらいとする。卒業研究ⅠⅡの学修を基盤として、研究計画書にそって研究を実施し、研究成果の解釈・活用方法を学び、論文にまとめる

- 到達目標:
- 1)研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。

2)データを適切に分析し、成果を解釈できる。

3)文献や統計資料を用いて成果を解釈し、論理的に考察できる。

4)研究成果を論文や抄録にまとめることができる。

5)研究成果について発表することができる。

6)研究についてディスカッションすることができる。

授業方法:

演習（プレゼンテーション・ディスカッション・データ収集など）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究実施計画の検討①	夏期休暇中の進捗状況を報告できるように準備する
2.	研究実施計画の検討②	実施に向けての具体的な計画をイメージする
3.	研究実施の準備①	実施計画に基づき準備を進める
4.	研究実施の準備②	実施計画に基づき準備を進める
5.	卒業研究の実施① データ収集と整理	研究目的、対象者への説明について確認しておく、データ収集に必要な物品を準備しておく
6.	卒業研究の実施② データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する
7.	卒業研究の実施③ データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する
8.	卒業研究の実施④ データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する
9.	卒業研究の実施⑤ データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する
10.	卒業研究の実施⑥ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する
11.	卒業研究の実施⑦ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する
12.	卒業研究の実施⑧ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する
13.	卒業研究の実施⑨ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する
14.	卒業研究の実施⑩ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する
15.	卒業研究の実施⑪ データ分析と解釈	データ分析の可能性や方向性を検討する
16.	卒業研究の実施⑫ データ分析と解釈	データ分析に必要な知識（例えば、統計学など）を確認しておく
17.	卒業研究の実施⑬ データ分析と解釈	データ分析に必要な知識（例えば、統計学など）を確認しておく
18.	卒業研究の実施⑭ データ分析と解釈	図・表の書き方を確認しておく
19.	論文作成① 背景の記述	文献レビュー、仮説の再検討を行っておく
20.	論文作成② 背景の記述	文献レビュー、仮説の再検討を行っておく
21.	論文作成③ 方法の記述	記述に必要な文献を整理しておく
22.	論文作成④ 結果の記述	図・表を整理しておく
23.	論文作成⑤ 結果の記述	図・表の整理と文章の推敲をしておく
24.	論文作成⑥ 考察の記述	目的・仮説の確認と論点の整理をしておく
25.	論文作成⑦ 考察の記述	論点の整理と文章の推敲をしておく
26.	論文作成⑧ 要約の記述、抄録の作成	要約・抄録の作成準備をする
27.	研究成果のプレゼンテーション準備	発表のアウトラインの検討、資料の作成準備をする
28.	研究成果のプレゼンテーション	・時間内にポイントをしぼり、分かりやすく発表できるように準備する ・配付された資料を丁寧に読み、質問やコメントができるように準備する
29.	論文・抄録の完成	文章の推敲・修正をしておく
30.	まとめ	研究のプロセスを振り返り、今後の課題を考えておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

4年次の秋学期は、国家試験対策もあり重要な時期です。卒業研究Ⅲの学習計画を立案し、スケジュール管理を行い、計画的に進めてください。

フィードバックの方法:

授業内で解説・フィードバックを行う、論文はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	50	到達目標2)3)4)の到達度および論文の完成度により評価する
	発表・討論	30	到達目標5)6)の達成度やグループ討論での役割とその達成度で評価する
	授業への参加度	20	到達目標1)の到達度および積極的な取り組みの姿勢、スケジュール管理について評価する

教科書:

参考書:

テーマにあわせ適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

Eメールなど

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)		
授業の概要:	研究計画書にそって研究を実施し、論文にまとめ発表する		
到達目標:	研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。 データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。 既存の文献を用いて論理的に考察できる。 研究成果を論文形式にまとめることができる。 研究について発表することができる。 研究についてディスカッションすることができる。		
授業方法:	学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 1. データ収集に向けての準備	作成した研究計画書を熟読しておく。	
	2. 2. データの収集1	データを収集を進める。	
	3. 3. データの収集2	データを収集を進める。	
	4. 4. データの収集、整理、入力1	データを収集を進める。	
	5. 5. データの収集、整理、入力2	データを収集を進める。	
	6. 6. データのクリーニング、見直し	データを俯瞰する。	
	7. 7. データの分析1	データの分析を進める。	
	8. 8. データの分析2	データの分析を進める。	
	9. 9. データの分析3	データの分析を進める。	
	10. 10. データの分析4	データの分析を進める。	
	11. 11. 図表の作成1	図表などを作成する。	
	12. 12. 図表の作成2	図表などを作成する。	
	13. 13. 図表の作成3	図表などを作成する。	
	14. 14. データの分析、図表の見直し。	データ分析、図表などを見直す。	
	15. 15. 論文の記述に向けて	研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく。	
	16. 16. 論文作成(背景)	論文の作成を進める。	
	17. 17. 論文作成(方法)	論文の作成を進める。	
	18. 18. 論文作成(結果)1	論文の作成を進める。	
	19. 19. 論文作成(結果)2	論文の作成を進める。	
	20. 20. 論文作成(考察)1	論文の作成を進める。	
	21. 21. 論文作成(考察)2	論文の作成を進める。	
	22. 22. 論文作成(考察)3	論文の作成を進める。	
	23. 23. 論文作成(結論、引用参考文献の整理)	論文の作成を進める。	
	24. 24. 論文作成(見直し、印刷)	論文の作成を進める。	
	25. 25. 抄録の作成	研究論文の本筋部分を取り出しておく。	
	26. 26. 抄録の作成	抄録の作成	
	27. 27. 研究発表の準備	発表資料の作成。	
	28. 28. 研究発表の準備	発表資料の作成。	
	29. 29. 研究の発表	発表の準備。	
	30. 30. 研究の報告と研究後の倫理について	研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。		
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性
教科書:	南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。		
参考書:	小笠原知枝, 松木光子編(2007) これからの看護研究―基礎と応用, ニューヴェルヒロカワ。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。		

授業テーマ：研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要：研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる。

到達目標：・研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
・データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
・既存の文献を用いて論理的に考察できる。
・研究成果を論文形式にまとめることができる。
・研究について発表することができる。
・研究についてディスカッションすることができる。

授業方法：学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 本科目のオリエンテーション 卒業研究における実施計画とは	卒業研究ⅠⅡの授業資料を確認する(予習) シラバスを読む(予習) オリエンテーション内容を整理する(復習)
	2. 卒業研究における実施計画の方法	卒業研究Ⅱで作成した研究計画書内容を確認する(予習) 授業内容を整理する(復習)
	3. 卒業研究の実施－研究の依頼について	研究依頼方法について調べる(予習) 授業内容を整理する(復習)
	4. 卒業研究の実施－研究対象者の応募について	研究対象者の応募方法について調べる(予習) 授業内容を整理する(復習)
	5. 卒業研究の実施－データ収集①	データ収集の準備を行う(予習) データ収集内容を確認、整理する(復習)
	6. 卒業研究の実施－データ収集②	データ収集の準備を行う(予習) データ収集内容を確認、整理する(復習)
	7. 卒業研究の実施－データ収集③	データ収集の準備を行う(予習) データ収集内容を確認、整理する(復習)
	8. 卒業研究の実施－データ収集④	データ収集の準備を行う(予習) データ収集内容を確認、整理する(復習)
	9. 卒業研究の実施－データ収集⑤	データ収集の準備を行う(予習) データ収集内容を確認、整理する(復習)
	10. 卒業研究の実施－データ整理・データ入力①	データを整理し、資料を作成する(予習・復習)
	11. 卒業研究の実施－データ整理・データ入力②	データを整理し、資料を作成する(予習・復習)
	12. 卒業研究の実施－データ整理・データ入力③	データを整理し、資料を作成する(予習・復習)
	13. 卒業研究の実施－データ分析①(記述統計)	データを分析し、資料を作成する(予習・復習)
	14. 卒業研究の実施－データ分析②(記述統計)	データを分析し、資料を作成する(予習・復習)
	15. 卒業研究の実施－データ分析①(統計解析)	データを分析し、資料を作成する(予習・復習)
	16. 卒業研究の実施－データ分析②(統計解析)	データを分析し、資料を作成する(予習・復習)
	17. 論文作成－背景の記述①	論文(背景)を作成するために必要な引用文献を選定する(予習・復習) 論文(背景)を整理する(復習)
	18. 論文作成－背景の記述②	論文(背景)を作成するために必要な引用文献を選定する(予習・復習) 論文(背景)を整理する(復習)
	19. 論文作成－方法の記述①	研究計画書を踏まえ、実施した研究方法について整理する(予習・復習)
	20. 論文作成－方法の記述②	研究計画書を踏まえ、実施した研究方法について整理する(予習・復習)
	21. 論文作成－結果の記述①	収集したデータから結果を整理する(予習・復習)
	22. 論文作成－結果の記述②	収集したデータから結果を整理する(予習・復習)
	23. 論文作成－考察の記述①	研究結果から、先行文献を踏まえて考察を整理する(予習・復習)
	24. 論文作成－考察の記述②	研究結果から、先行文献を踏まえて考察を整理する(予習・復習)
	25. 抄録の作成①	論文から要点を取り出し、抄録を作成する(予習・復習)
	26. 抄録の作成②	論文から要点を取り出し、抄録を作成する(予習・復習)
	27. 抄録の作成③	論文から要点を取り出し、抄録を作成する(予習・復習)
	28. 研究についてのプレゼンテーション	プレゼンテーション資料を作成する(予習) プレゼンテーション後、プレゼンテーション資料を振り返る(復習)
	29. 研究についてのプレゼンテーションの振り返り	プレゼンテーションの振り返りを整理する(予習) プレゼンテーションの振り返りから、最終プレゼンテーション資料を作成する(復習)
	30. まとめ	本科目を振り返る(予習・復習)

受講者へのメッセージやアドバイス：フィードバックの方法：教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:	
参考書:	基礎看護学④ 看護研究、メディカ出版、2018 D.F、ポーリット、C.T、ベック、看護研究 原理と方法、医学書院、2010 西條剛央、看護研究で迷わないための超入門講座、医学書院 黒田裕子、黒田裕子の看護研究 Step by Step 第5版、医学書院、2017
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法:	オフィスパワーを活用して下さい。

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要:

研究計画書にそって研究を実施し、論文にまとめ発表する

到達目標:

研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究について発表することができる。
研究についてディスカッションすることができる。

授業方法:	学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. データ収集に向けての準備	作成した研究計画書を熟読しておく。
	2. データの収集1	データを収集を進める。
	3. データの収集2	データを収集を進める。
	4. データの収集、整理、入力1	データを収集を進める。
	5. データの収集、整理、入力2	データを収集を進める。
	6. データのクリーニング、見直し	データを俯瞰する。
	7. データの分析1	データの分析を進める。
	8. データの分析2	データの分析を進める。
	9. データの分析3	データの分析を進める。
	10. データの分析4	データの分析を進める。
	11. 図表の作成1	図表などを作成する。
	12. 図表の作成2	図表などを作成する。
	13. 図表の作成3	図表などを作成する。
	14. データの分析、図表の見直し。	データ分析、図表などを見直す。
	15. 論文の記述に向けて	研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく。
	16. 論文作成(背景)	論文の作成を進める。
	17. 論文作成(方法)	論文の作成を進める。
	18. 論文作成(結果)1	論文の作成を進める。
	19. 論文作成(結果)2	論文の作成を進める。
	20. 論文作成(考察)1	論文の作成を進める。
	21. 論文作成(考察)2	論文の作成を進める。
	22. 論文作成(考察)3	論文の作成を進める。
	23. 論文作成(結論、引用参考文献の整理)	論文の作成を進める。
	24. 論文作成(見直し、印刷)	論文の作成を進める。
	25. 抄録の作成	研究論文の本筋部分を取り出しておく。
	26. 抄録の作成	抄録の作成。
	27. 研究発表の準備	発表資料の作成。
	28. 研究発表の準備	発表資料の作成。
	29. 研究の発表	発表の準備。
	30. 研究の報告と研究後の倫理について	研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70%	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20%	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10%	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。

参考書:

小笠原知枝, 松木光子編(2017) これからの看護研究―基礎と応用,ヌーヴェルヒロカワ。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)		
授業の概要:	研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる		
到達目標:	①研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。 ②データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。 ③既存の文献を用いて論理的に考察できる。 ④研究成果を論文形式にまとめることができる。 ⑤研究について発表することができる。 ⑥研究についてディスカッションすることができる。		
授業方法:	学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 研究実施計画の作成①	研究実施計画の作成	
	2. 研究実施計画の作成②	研究実施計画の作成	
	3. 卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集①		
	4. 卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集②		
	5. 卒業研究の実施－データ収集 調査①		
	6. 卒業研究の実施－データ収集 調査②		
	7. 卒業研究の実施－データ収集 調査③		
	8. 卒業研究の実施－データ収集 調査④		
	9. 卒業研究の実施－データ収集 調査⑤		
	10. 卒業研究の実施－データ収集 調査⑥		
	11. 卒業研究の実施－データ整理①		
	12. 卒業研究の実施－データ整理②		
	13. 卒業研究の実施－データ入力①	分析資料の作成	
	14. 卒業研究の実施－データ入力②	分析資料の作成	
	15. 卒業研究の実施－データ分析(記述統計)①	分析資料の作成	
	16. 卒業研究の実施－データ分析(記述統計)②	分析資料の作成	
	17. 卒業研究の実施－データ分析(統計解析)①	分析資料の作成	
	18. 卒業研究の実施－データ分析(統計解析)②	分析資料の作成	
	19. 論文作成－背景の記述①	論文の作成	
	20. 論文作成－背景の記述②	論文の作成	
	21. 論文作成－方法の記述①	論文の作成	
	22. 論文作成－方法の記述②	論文の作成	
	23. 論文作成－結果の記述①	論文の作成	
	24. 論文作成－結果の記述②	論文の作成	
	25. 論文作成－考察の記述①	論文の作成	
	26. 論文作成－考察の記述②	論文の作成	
	27. 抄録の作成および研究についてのプレゼンテーション①	抄録と発表資料の作成	
	28. 抄録の作成および研究についてのプレゼンテーション②	抄録と発表資料の作成	
	29. 抄録の作成および研究についてのプレゼンテーション③	抄録と発表資料の作成	
	30. まとめ		

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

特に指定しない

参考書:

適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

講義前後及びメールで適宜対応する

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)		
授業の概要:	卒業研究Ⅱで作成した研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる		
到達目標:	1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。 2.量的研究ではデータに即した統計手法を選択し、分析できる。 質的研究では、対象者の言動の文脈を意味を踏まえて分析できる。 3.既存の文献を用いて論理的に考察できる。 4.論理的一貫性を担保して研究成果を論文にまとめることができる。 5.研究について発表およびディスカッションができる。		
授業方法:	学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1.	ガイダンス 卒業研究Ⅲの進め方	卒業研究Ⅱの研究計画書を見直す
	2.	質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)1	研究計画書の修正があれば修正案を考えておく
	3.	質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)2	印刷物を準備する
	4.	質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)3	印刷物を準備する
	5.	データ収集 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)4	対象者への協力を依頼しておく
	6.	データ収集1 質問紙調査・インタビュー調査	
	7.	データ収集2 質問紙調査・インタビュー調査	
	8.	データ収集3 質問紙調査・インタビュー調査	
	9.	データ入力1 エクセル入力	データ入力のフォーマットを作成しておく
	10.	データ入力2 エクセル入力	
	11.	データ入力3 エクセル入力	データ入力ミスがないか確認しておく
	12.	データ分析1 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする
	13.	データ分析2 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする
	14.	データ分析3 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	
	15.	データ分析4 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	
	16.	結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)1	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく
	17.	結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)2	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく
	18.	結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)3	
	19.	背景・目的・意義の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく
	20.	研究方法の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく
	21.	結果の記述1	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく
	22.	結果の記述2	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく
	23.	考察のための文献検討	結果を解釈するのに必要な追加文献を収集し、検討しておく
	24.	考察の記述1	結果を解釈できる考察を考えておく
	25.	考察の記述2	結果を解釈できる考察を考えておく
	26.	考察の記述3	
	27.	全体の推敲・修正	論旨の一貫性を担保した論文になっているか見直しておく
	28.	抄録の作成	指定された抄録のフォーマットを確認しておく
	29.	研究のプレゼンテーション1	PPTを使用して、7分程度で発表できる準備をしておく
	30.	研究のプレゼンテーション2	PPTを使用して、7分程度で発表する
受講者へのメッセージやアドバイス:	卒業研究Ⅱで作成した研究計画書にそって、研究プロセスを踏みながら、論旨の一貫性が確保された論文を作成しましょう。		
フィードバックの方法:	研究実施を通して、適宜助言・指導を行います。		

教科書:	適宜、紹介する。
参考書:	必要時、紹介する。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法:	講義時又はメールにて連絡する。

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要:

卒業研究Ⅱで作成した研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:

1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2.量的研究ではデータに即した統計手法を選択し、分析ができる。
質的研究では、対象者の言動の文脈を意味を踏まえて分析できる。
3.既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4.論理の一貫性を担保して研究成果を論文にまとめることができる。
5.研究について発表およびディスカッションができる。

授業方法:

グループで作成した計画書に基づいて研究を実施する。学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス 卒業研究Ⅲの進め方	卒業研究Ⅱの研究計画書を見直す
	2. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)1	研究計画書の修正があれば修正案を考えておく
	3. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)2	印刷物を準備する
	4. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)3	印刷物を準備する
	5. データ収集 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)4	対象者への協力を依頼しておく
	6. データ収集1 質問紙調査・インタビュー調査	
	7. データ収集2 質問紙調査・インタビュー調査	
	8. データ収集3 質問紙調査・インタビュー調査	
	9. データ入力1 エクセル入力	データ入力のフォーマットを作成しておく
	10. データ入力2 エクセル入力	
	11. データ入力3 エクセル入力	データ入力ミスがないか確認しておく
	12. データ分析1 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする
	13. データ分析2 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする
	14. データ分析3 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	
	15. データ分析4 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	
	16. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)1	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく
	17. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)2	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく
	18. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)3	
	19. 背景・目的・意義の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく
	20. 研究方法の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく
	21. 結果の記述1	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく
	22. 結果の記述2	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく
	23. 考察のための文献検討	結果を解釈するに必要な追加文献を収集し、検討しておく
	24. 考察の記述1	結果を解釈できる考察を考えておく
	25. 考察の記述2	結果を解釈できる考察を考えておく
	26. 考察の記述3	
	27. 全体の推敲・修正	論旨の一貫性を担保した論文になっているか見直しておく
	28. 抄録の作成	指定された抄録のフォーマットを確認しておく
	29. 研究のプレゼンテーション1	PPTを使用して、7分程度で発表できる準備をしておく
	30. 研究のプレゼンテーション2	PPTを使用して、7分程度で発表する

受講者へのメッセージやアドバイス:

科学的思考を培うための、研究プロセスを踏みながら、目的・方法・結果・考察にズレのない論旨の一貫性が確保された論文作成をしてください。視線計測に関心のある学生は器機を使用してもらってもかまいません。

フィードバックの方法:

研究実施を通して、適宜助言・指導を行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	到達目標1〜4について、研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性等を評価する。
	プレゼンテーション	20	到達目標5について、プレゼンテーションの適切性等を評価する。
	取り組み姿勢や態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:	適宜、紹介する。
参考書:	必要時、紹介する。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法:	講義時又はメールにて連絡する。

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)		
授業の概要:	研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる		
到達目標:	1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。 2.データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。 3.既存の文献を用いて論理的に考察できる。 4.研究成果を論文形式にまとめることができる。 5.研究について発表することができる。 6.研究についてディスカッションすることができる。		
授業方法:	学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	研究計画書を見直す	
	2. 研究実施計画の作成	データ収集方法について復習する	
	3. 卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	データを収集する	
	4. 卒業研究の実施－データ収集 調査①	データを収集する	
	5. 卒業研究の実施－データ収集 調査②	データを収集する	
	6. 卒業研究の実施－データ収集 調査③	データを収集する	
	7. 卒業研究の実施－データ収集 調査④	データを収集する	
	8. 卒業研究の実施－データ収集 調査⑤	データを収集する	
	9. 卒業研究の実施－データ収集 調査⑥	データを収集する	
	10. 卒業研究の実施－データ整理	データを準備する	
	11. 卒業研究の実施－データ入力	データを準備する	
	12. 卒業研究の実施－データ分析	データを準備する	
	13. 卒業研究の実施－データ分析	データを準備する	
	14. 卒業研究の実施－データ分析	データを準備する	
	15. 卒業研究の実施－データ分析	データを準備する	
	16. 論文作成①	論文作成を行う	
	17. 論文作成②	論文作成を行う	
	18. 論文作成③	論文作成を行う	
	19. 論文作成④	論文作成を行う	
	20. 論文作成⑤	論文作成を行う	
	21. 論文作成⑥	論文作成を行う	
	22. 論文作成⑦	論文作成を行う	
	23. 論文作成⑧	論文作成を行う	
	24. 論文作成⑨	論文作成を行う	
	25. 論文作成⑩	論文作成を行う	
	26. 抄録の作成	抄録の構成を考える	
	27. 研究の発表およびディスカッション①	発表の準備を行う	
	28. 研究の発表およびディスカッション②	発表の準備を行う	
	29. 研究の発表およびディスカッション③	発表の準備を行う	
	30. 研究の発表およびディスカッション④	発表の準備を行う	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	態度	10	研究に取り組む積極性、主体性
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	講義内およびオフィスアワーで対応する		

授業テーマ： 研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要： 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標： 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究について発表することができる。
研究についてディスカッションすることができる。

授業方法：	学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	14. 卒業研究の実施－データ分析（統計解析）	分析資料の作成
	15. 卒業研究の実施－データ分析（統計解析）（推敲・修正）	分析資料の作成
	16. 論文作成－背景の記述	論文の作成
	17. 論文作成－背景の記述（推敲・修正）	論文の作成
	18. 論文作成－方法の記述	論文の作成
	19. 論文作成－方法の記述（推敲・修正）	論文の作成
	20. 論文作成－結果の記述	論文の作成
	21. 論文作成－結果の記述（推敲・修正）	論文の作成
	22. 論文作成－考察の記述	論文の作成
	23. 論文作成－考察の記述（推敲・修正）	論文の作成
	24. 論文作成－考察の記述（推敲・修正）	論文の作成
	25. 抄録の作成	抄録の作成
	26. 抄録の作成（推敲・修正）	抄録の作成
	27. 研究についてのプレゼンテーション（準備）	発表資料の作成
	28. 研究についてのプレゼンテーション（準備）（推敲・修正）	発表資料の作成
	29. 研究についてのプレゼンテーション	発表準備
	30. 研究についてのプレゼンテーション	発表準備
	1. 研究実施計画の作成	研究実施計画の作成
	2. 研究実施計画の作成（推敲・修正）	研究実施計画の作成
	3. 卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	データ収集の準備
	4. 卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	データ収集の準備
	5. 卒業研究の実施－データ収集 調査①	データ収集の準備
	6. 卒業研究の実施－データ収集 調査②	データ収集の準備
	7. 卒業研究の実施－データ収集 調査③	データ収集の準備
	8. 卒業研究の実施－データ整理	分析資料の作成
	9. 卒業研究の実施－データ整理	分析資料の作成
	10. 卒業研究の実施－データ入力	分析資料の作成
	11. 卒業研究の実施－データ入力	分析資料の作成
	12. 卒業研究の実施－データ分析（記述統計）	分析資料の作成
	13. 卒業研究の実施－データ分析（記述統計）（推敲・修正）	分析資料の作成

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法： 教室（ゼミ）でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法： Eメールを利用 葉山 yhayama@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)		
授業の概要:	研究計画書にそってウィメンズヘルス領域関する研究を実施し、論文形式にまとめる		
到達目標:	研究対象者に倫理的配慮を行い、正確にデータ収集することができる。 データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。 既存の文献を用いて論理的に考察できる。 研究成果を論文形式にまとめることができる。 研究成果を発表することができる。 研究成果についてディスカッションすることができる。		
授業方法:	学生による発表、学生間での討論、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. オリエンテーション		研究計画書を持参する
	2. 研究実施計画の作成		研究計画書を持参する
	3. 卒業研究の実施－研究協力の依頼		
	4. 卒業研究の実施－データ収集 調査①		
	5. 卒業研究の実施－データ収集 調査②		
	6. 卒業研究の実施－データ収集 調査③		
	7. 卒業研究の実施－データ収集 調査④		
	8. 卒業研究の実施－データ収集 調査⑤		
	9. 卒業研究の実施－データ整理		
	10. 卒業研究の実施－データ入力①		
	11. 卒業研究の実施－データ入力②		
	12. 卒業研究の実施－データ分析(記述統計)		
	13. 卒業研究の実施－データ分析(統計解析)		
	14. 論文作成－背景の記述①		収集した文献と文献検討のまとめを持参する
	15. 論文作成－背景の記述②		収集した文献と文献検討のまとめを持参する
	16. 論文作成－方法の記述①		
	17. 論文作成－方法の記述②		
	18. 論文作成－結果の記述①		データ分析の結果をまとめておく
	19. 論文作成－結果の記述②		データ分析の結果をまとめておく
	20. 論文作成－結果の記述③		データ分析の結果をまとめておく
	21. 論文作成－考察の記述①		収集した文献と文献検討のまとめを持参する
	22. 論文作成－考察の記述②		収集した文献と文献検討のまとめを持参する
	23. 論文作成－考察の記述③		収集した文献と文献検討のまとめを持参する
	24. 論文作成－結論の記述		
	25. 論文全体の推敲・完成		論文(原案)を完成させておく 収集した文献と文献検討のまとめを持参する
	26. 抄録(原案)の作成		論文を完成させておく
	27. 抄録の修正・完成		抄録(原案)を完成させておく
	28. プレゼンテーション①		発表の準備(資料の作成)をしておく
	29. プレゼンテーション②		発表の準備(資料の作成)をしておく
	30. まとめ		
受講者への メッセージや アドバイス:			
フィードバックの 方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	出席・態度	10	研究に取り組む積極性、主体性
教科書:			
参考書:	系統看護学講座別巻看護研究、坂下玲子他、医学書院		
	ナースィング・グラフィカ基礎看護学④看護研究、川村佐和子編、メディカ出版		
	黒田裕子の看護研究Step by Step 第5版、黒田裕子、医学書院		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	質問などは主にゼミ中に対応する		

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得

授業の概要:

研究計画書に基づいた研究の実施, 研究論文の作成.

到達目標:

1.研究計画書に基づいてデータの収集・分析を行うことができる.
2.実施した研究を研究論文にまとめることができる.

授業方法:	演習	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 研究計画書に基づいた研究の実施準備(1)	具体的な実施計画を考える.
	2. 研究計画書に基づいた研究の実施準備(2):研究協力依頼等	研究協力を依頼する際の手続きについて
	3. データ収集(1)	データ収集の準備

4. データ収集(2)	収集したデータの整理
5. データ収集(3)	収集したデータの整理

6. データ収集(4)	収集したデータの整理
7. データ収集(5)	収集したデータの整理
8. 収集したデータの整理・分析(1)	データの分析
9. 収集したデータの整理・分析(2)	データの分析
10. 収集したデータの整理・分析(3)	データの分析
11. 収集したデータの整理・分析(4)	データの分析
12. 収集したデータの整理・分析(5)	データの分析
13. 分析結果についての発表, 意見交換	発表資料の作成
14. 論文作成(1)	
15. 論文作成(2)	
16. 論文作成(3)	
17. 論文作成(4)	
18. 論文作成(5)	
19. 論文作成(6)	
20. 論文作成(7)	
21. 論文作成(8)	
22. 論文作成(9)	
23. 論文作成(10)	
24. グループメンバーによる論文推敲(1)	予め配布されたグループメンバーの論文を熟読しておく.
25. グループメンバーによる論文推敲(2)	予め配布されたグループメンバーの論文を熟読しておく.
26. 抄録の作成	抄録の作成
27. 抄録の修正	指導を受けて, 抄録を修正する.
28. 研究についての発表(1)	発表資料の作成
29. 研究についての発表(2):発表, 意見交換	
30. まとめ	研究論文・抄録の提出

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

グループ, あるいは個別にフィードバックを行う.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究実施・研究論文作成	80	研究計画書に基づいて研究を行うことができる. 研究論文を作成することができる.
	授業への取り組み	20	積極的・主体的に取り組むことができる.

教科書:

適宜紹介する.

参考書:

適宜紹介する.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

ykimura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要:

研究計画書にそって研究を実施し、論文にまとめ発表する

到達目標:

研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究について発表することができる。
研究についてディスカッションすることができる。

授業方法:

学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	データ収集に向けての準備	作成した研究計画書を熟読しておく。
2.	データの収集1	データを収集を進める。
3.	データの収集2	データを収集を進める。
4.	データの収集、整理、入力1	データを収集を進める。
5.	データの収集、整理、入力2	データを収集を進める。
6.	データのクリーニング、見直し	データを俯瞰する。
7.	データの分析1	データの分析を進める。
8.	データの分析2	データの分析を進める。
9.	データの分析3	データの分析を進める。
10.	データの分析4	データの分析を進める。
11.	図表の作成1	図表などを作成する。
12.	図表の作成2	図表などを作成する。
13.	図表の作成3	図表などを作成する。
14.	データの分析、図表の見直し	データ分析、図表などを見直す。
15.	論文の記述に向けて	研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく。
16.	論文作成(背景)	論文の作成を進める。
17.	論文作成(方法)	論文の作成を進める。
18.	論文作成(結果)1	論文の作成を進める。
19.	論文作成(結果)2	論文の作成を進める。
20.	論文作成(考察)1	論文の作成を進める。
21.	論文作成(考察)2	論文の作成を進める。
22.	論文作成(考察)3	論文の作成を進める。
23.	論文作成(結論、引用参考文献の整理)	論文の作成を進める。
24.	論文作成(見直し、印刷)	論文の作成を進める。
25.	抄録の作成1	研究論文の本筋部分を取り出しておく。
26.	抄録の作成2	抄録の作成。
27.	研究発表の準備1	発表資料の作成。
28.	研究発表の準備2	発表資料の作成。
29.	研究の発表	発表の準備。
30.	研究の報告と研究後の倫理について	研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。

参考書:

適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。

授業テーマ:

ウィメンズヘルスにおけるケアの発展に向けた事象の探求と、研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要:

ウィメンズヘルスにおけるケアの発展に向け、研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:

ウィメンズヘルスにおけるケアの発展に向けた事象を探求することができる。
研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究について発表することができる。
研究についてディスカッションすることができる。

授業方法:	学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 研究実施計画の作成	研究実施計画の作成
	2. 卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	
	3. 卒業研究の実施－データ収集 調査①	
	4. 卒業研究の実施－データ収集 調査②	
	5. 卒業研究の実施－データ収集 調査③	
	6. 卒業研究の実施－データ整理	
	7. 卒業研究の実施－データ入力①	分析資料の作成
	8. 卒業研究の実施－データ入力②	分析資料の作成
	9. 卒業研究の実施－データ入力③	分析資料の作成
	10. 卒業研究の実施－データ分析(記述統計)①	分析資料の作成
	11. 卒業研究の実施－データ分析(統計解析)②	分析資料の作成
	12. 卒業研究の実施－データ分析(統計解析)③	分析資料の作成
	13. 卒業研究の実施－データ分析(統計解析)④	分析資料の作成
	14. 論文作成－背景の記述①	論文の作成
	15. 論文作成－背景の記述②	論文の作成
	16. 論文作成－方法の記述①	論文の作成
	17. 論文作成－方法の記述②	論文の作成
	18. 論文作成－結果の記述①	論文の作成
	19. 論文作成－結果の記述②	論文の作成
	20. 論文作成－結果の記述③	論文の作成
	21. 論文作成－考察の記述①	論文の作成
	22. 論文作成－考察の記述②	論文の作成
	23. 論文作成－考察の記述③	論文の作成
	24. 論文の推敲・修正①	論文の作成
	25. 論文の推敲・修正②	論文の作成
	26. 論文の推敲・修正③	論文の作成
	27. 抄録の作成	抄録の作成
	28. 研究についてのプレゼンテーションの準備①	発表資料の作成
	29. 研究についてのプレゼンテーションの準備②	発表資料の作成
	30. 研究についてのプレゼンテーション	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70%	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20%	プレゼンテーションの適切性
	態度	10%	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

ゼミにおける直接連絡

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)		
授業の概要:	研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる		
到達目標:	1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。 2.データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。 3.既存の文献を用いて論理的に考察できる。 4.研究成果を論文形式にまとめることができる。 5.研究について発表することができる。 6.研究についてディスカッションすることができる。		
授業方法:	学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	研究計画書を見直す	
	2. 研究実施計画の作成	データ収集方法について復習する	
	3. 卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	データを収集する	
	4. 卒業研究の実施－データ収集 調査①	データを収集する	
	5. 卒業研究の実施－データ収集 調査②	データを収集する	
	6. 卒業研究の実施－データ収集 調査③	データを収集する	
	7. 卒業研究の実施－データ収集 調査④	データを収集する	
	8. 卒業研究の実施－データ収集 調査⑤	データを収集する	
	9. 卒業研究の実施－データ収集 調査⑥	データを収集する	
	10. 卒業研究の実施－データ整理	データを準備する	
	11. 卒業研究の実施－データ入力	データを準備する	
	12. 卒業研究の実施－データ分析	データを準備する	
	13. 卒業研究の実施－データ分析	データを準備する	
	14. 卒業研究の実施－データ分析	データを準備する	
	15. 卒業研究の実施－データ分析	データを準備する	
	16. 論文作成①	論文作成を行う	
	17. 論文作成②	論文作成を行う	
	18. 論文作成③	論文作成を行う	
	19. 論文作成④	論文作成を行う	
	20. 論文作成⑤	論文作成を行う	
	21. 論文作成⑥	論文作成を行う	
	22. 論文作成⑦	論文作成を行う	
	23. 論文作成⑧	論文作成を行う	
	24. 論文作成⑨	論文作成を行う	
	25. 論文作成⑩	論文作成を行う	
	26. 抄録の作成	抄録の構成を考える	
	27. 研究の発表およびディスカッション①	発表の準備を行う	
	28. 研究の発表およびディスカッション②	発表の準備を行う	
	29. 研究の発表およびディスカッション③	発表の準備を行う	
	30. 研究の発表およびディスカッション④	発表の準備を行う	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	態度	10	研究に取り組む積極性、主体性
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	講義時、オフィスアワーに対応する。		

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要:

研究計画書にそって研究を実施し、論文にまとめ発表する。

到達目標:

1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2. データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
3. 既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4. 研究成果を論文形式にまとめることができる。
5. 研究について発表することができる。
6. 研究についてディスカッションすることができる。

授業方法:	学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. データ収集に向けての準備	作成した研究計画書を熟読しておく。
	2. データの収集1	データを収集を進める。
	3. データの収集2	データを収集を進める。
	4. データの収集、整理、入力1	データを収集を進める。
	5. データの収集、整理、入力2	データを収集を進める。
	6. データのクリーニング、見直し	データを俯瞰する。
	7. データの分析1	データの分析を進める。
	8. データの分析2	データの分析を進める。
	9. データの分析3	データの分析を進める。
	10. データの分析4	データの分析を進める。
	11. 図表の作成1	図表などを作成する。
	12. 図表の作成2	図表などを作成する。
	13. 図表の作成3	図表などを作成する。
	14. データの分析、図表の見直し。	データ分析、図表などを見直す。
	15. 論文の記述に向けて	研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめる。
	16. 論文作成(背景)	論文の作成を進める。
	17. 論文作成(方法)	論文の作成を進める。
	18. 論文作成(結果)1	論文の作成を進める。
	19. 論文作成(結果)2	論文の作成を進める。
	20. 論文作成(考察)1	論文の作成を進める。
	21. 論文作成(考察)2	論文の作成を進める。
	22. 論文作成(考察)3	論文の作成を進める。
	23. 論文作成(結論、引用参考文献の整理)	論文の作成を進める。
	24. 論文作成(見直し、印刷)	論文の作成を進める。
	25. 抄録の作成1	研究論文の本筋部分を取り出しておく。
	26. 抄録の作成2	抄録の作成
	27. 研究発表の準備1	発表資料の作成。
	28. 研究発表の準備2	発表資料の作成。
	29. 研究の発表	発表の準備。
	30. 研究の報告と研究後の倫理について	研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。

参考書:

適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。

授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)																																																																
授業の概要:	研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる																																																																
到達目標:	1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。 2. データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。 3. 既存の文献を用いて論理的に考察できる。 4. 研究成果を論文形式にまとめることができる。 5. 研究を発表することができる。 6. 研究を批判的に吟味し、ディスカッションすることができる。 7. 看護を探究する姿勢を持ち、研究に積極的に取り組む																																																																
授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><thead><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>1. 研究実施計画の作成</td><td>研究実施計画の作成</td></tr><tr><td>2. 研究協力の依頼</td><td>依頼文書・質問紙・インタビューガイド等の準備</td></tr><tr><td>3. データ収集</td><td>必要書類の印刷、物品等準備</td></tr><tr><td>4. データ収集</td><td>必要書類の印刷、物品等準備</td></tr><tr><td>5. データ整理・入力</td><td>データ入力票の作成</td></tr><tr><td>6. データ整理・入力</td><td>データの整理</td></tr><tr><td>7. データ分析ー記述統計</td><td>分析資料の作成</td></tr><tr><td>8. データ分析ー統計解析等</td><td>分析資料の作成</td></tr><tr><td>9. データ分析</td><td>分析資料の作成</td></tr><tr><td>10. データ分析</td><td>分析資料の作成</td></tr><tr><td>11. データ分析</td><td>分析資料の作成</td></tr><tr><td>12. データ分析(まとめ)</td><td>データ分析結果のまとめ</td></tr><tr><td>13. 研究(中間)報告会準備</td><td>資料作成</td></tr><tr><td>14. 研究報告会</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>15. 研究報告会</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>16. 研究論文の作成-序論</td><td>論文原稿作成</td></tr><tr><td>17. 研究論文の作成-序論</td><td>論文原稿作成</td></tr><tr><td>18. 研究論文の作成-方法</td><td>論文原稿作成</td></tr><tr><td>19. 研究論文の作成-方法</td><td>論文原稿作成</td></tr><tr><td>20. 研究論文の作成-結果</td><td>論文原稿作成</td></tr><tr><td>21. 研究論文の作成-結果</td><td>論文原稿作成</td></tr><tr><td>22. 研究論文の作成ー考察</td><td>論文原稿作成</td></tr><tr><td>23. 研究論文の作成ー考察</td><td>論文原稿作成</td></tr><tr><td>24. 研究論文の作成-結論</td><td>論文原稿作成</td></tr><tr><td>25. 研究論文の作成ー完成</td><td>論文原稿作成</td></tr><tr><td>26. 抄録作成</td><td>抄録作成</td></tr><tr><td>27. 抄録作成</td><td>抄録作成(修正)</td></tr><tr><td>28. 研究発表会準備</td><td>発表資料作成</td></tr><tr><td>29. 研究発表</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>30. 研究発表</td><td>発表準備</td></tr></tbody></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 研究実施計画の作成	研究実施計画の作成	2. 研究協力の依頼	依頼文書・質問紙・インタビューガイド等の準備	3. データ収集	必要書類の印刷、物品等準備	4. データ収集	必要書類の印刷、物品等準備	5. データ整理・入力	データ入力票の作成	6. データ整理・入力	データの整理	7. データ分析ー記述統計	分析資料の作成	8. データ分析ー統計解析等	分析資料の作成	9. データ分析	分析資料の作成	10. データ分析	分析資料の作成	11. データ分析	分析資料の作成	12. データ分析(まとめ)	データ分析結果のまとめ	13. 研究(中間)報告会準備	資料作成	14. 研究報告会	発表準備	15. 研究報告会	発表準備	16. 研究論文の作成-序論	論文原稿作成	17. 研究論文の作成-序論	論文原稿作成	18. 研究論文の作成-方法	論文原稿作成	19. 研究論文の作成-方法	論文原稿作成	20. 研究論文の作成-結果	論文原稿作成	21. 研究論文の作成-結果	論文原稿作成	22. 研究論文の作成ー考察	論文原稿作成	23. 研究論文の作成ー考察	論文原稿作成	24. 研究論文の作成-結論	論文原稿作成	25. 研究論文の作成ー完成	論文原稿作成	26. 抄録作成	抄録作成	27. 抄録作成	抄録作成(修正)	28. 研究発表会準備	発表資料作成	29. 研究発表	発表準備	30. 研究発表	発表準備		
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. 研究実施計画の作成	研究実施計画の作成																																																																
2. 研究協力の依頼	依頼文書・質問紙・インタビューガイド等の準備																																																																
3. データ収集	必要書類の印刷、物品等準備																																																																
4. データ収集	必要書類の印刷、物品等準備																																																																
5. データ整理・入力	データ入力票の作成																																																																
6. データ整理・入力	データの整理																																																																
7. データ分析ー記述統計	分析資料の作成																																																																
8. データ分析ー統計解析等	分析資料の作成																																																																
9. データ分析	分析資料の作成																																																																
10. データ分析	分析資料の作成																																																																
11. データ分析	分析資料の作成																																																																
12. データ分析(まとめ)	データ分析結果のまとめ																																																																
13. 研究(中間)報告会準備	資料作成																																																																
14. 研究報告会	発表準備																																																																
15. 研究報告会	発表準備																																																																
16. 研究論文の作成-序論	論文原稿作成																																																																
17. 研究論文の作成-序論	論文原稿作成																																																																
18. 研究論文の作成-方法	論文原稿作成																																																																
19. 研究論文の作成-方法	論文原稿作成																																																																
20. 研究論文の作成-結果	論文原稿作成																																																																
21. 研究論文の作成-結果	論文原稿作成																																																																
22. 研究論文の作成ー考察	論文原稿作成																																																																
23. 研究論文の作成ー考察	論文原稿作成																																																																
24. 研究論文の作成-結論	論文原稿作成																																																																
25. 研究論文の作成ー完成	論文原稿作成																																																																
26. 抄録作成	抄録作成																																																																
27. 抄録作成	抄録作成(修正)																																																																
28. 研究発表会準備	発表資料作成																																																																
29. 研究発表	発表準備																																																																
30. 研究発表	発表準備																																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	自ら積極的に学び、看護専門職者として看護研究を実践していける基礎となる力を身につけましょう。																																																																
フィードバックの方法:	授業中にその都度フィードバックする 個別指導については、メールを通して、または時間外に行う																																																																
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><thead><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr></thead><tbody><tr><td>研究論文</td><td>70%</td><td>研究計画書に沿って研究を進め、論文としてまとめることができる(目標1～4)</td></tr><tr><td>プレゼンテーション、ディスカッション</td><td>20%</td><td>自分の考えや学習成果を授業の中でわかりやすく発表できること、ディスカッションに積極的に参加すること(目標5, 6)</td></tr><tr><td>態度</td><td>10%</td><td>自主性および授業に臨む態度(目標7)</td></tr></tbody></table>	評価方法	割合	評価基準	研究論文	70%	研究計画書に沿って研究を進め、論文としてまとめることができる(目標1～4)	プレゼンテーション、ディスカッション	20%	自分の考えや学習成果を授業の中でわかりやすく発表できること、ディスカッションに積極的に参加すること(目標5, 6)	態度	10%	自主性および授業に臨む態度(目標7)																																																				
評価方法	割合	評価基準																																																															
研究論文	70%	研究計画書に沿って研究を進め、論文としてまとめることができる(目標1～4)																																																															
プレゼンテーション、ディスカッション	20%	自分の考えや学習成果を授業の中でわかりやすく発表できること、ディスカッションに積極的に参加すること(目標5, 6)																																																															
態度	10%	自主性および授業に臨む態度(目標7)																																																															
教科書:																																																																	
参考書:																																																																	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力																																																																
教員との連絡方法:	メールまたはマナビーを通じて連絡する(hihashim@dwc.doshisha.ac.jp) 必要であれば研究室に来てください																																																																

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要:

研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:

1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる
2.データを正確に分析し結果を明確に示すことができる
3.既存の文献を用いて論理的に考察できる
4.研究成果を論文形式にまとめることができる
5.研究について発表することができる
6.研究についてディスカッションすることができる

授業方法:

学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	研究実施計画の作成	研究実施計画の概要について復習しておく
3.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	研究協力の依頼方法について復習する
4.	卒業研究の実施－データ収集 調査①	データ収集の準備をする
5.	卒業研究の実施－データ収集 調査②	データ収集の準備をする
6.	卒業研究の実施－データ収集 調査③	データ収集の準備をする
7.	卒業研究の実施－データ収集 調査④	データ収集の準備をする
8.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑤	データ収集の準備をする
9.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑥	データ収集の準備をする
10.	卒業研究の実施－データ整理	データ整理方法について復習しておく
11.	卒業研究の実施－データ入力	データ入力に必要な物品を準備しておく
12.	卒業研究の実施－データ分析①	データ分析方法を復習しておく
13.	卒業研究の実施－データ分析②	データ分析方法を復習しておく
14.	卒業研究の実施－データ分析③	データ分析方法を復習しておく
15.	卒業研究の実施－データ分析④	データ分析方法を復習しておく
16.	論文作成①	論文の構成について復習しておく
17.	論文作成②	論文作成を行う
18.	論文作成③	論文作成を行う
19.	論文作成④	論文作成を行う
20.	論文作成⑤	論文作成を行う
21.	論文作成⑥	論文作成を行う
22.	論文作成⑦	論文作成を行う
23.	論文作成⑧	論文作成を行う
24.	論文作成⑨	論文作成を行う
25.	論文作成⑩	論文作成を行う
26.	抄録の作成	抄録の構成について復習しておく
27.	研究の発表およびディスカッション①	発表の準備をする
28.	研究の発表およびディスカッション②	発表の準備をする
29.	研究の発表およびディスカッション③	発表の準備をする
30.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	授業への参加態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

講義時、オフィスアワーに対応する

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要:

卒業研究Ⅱで作成した研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:

1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2.量的研究ではデータに即した統計手法を選択し、分析ができる。
質的研究では、対象者の言動の文脈を意味を踏まえて分析できる。
3.既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4.論理の一貫性を担保して研究成果を論文にまとめることができる。
5.研究について発表およびディスカッションができる。

授業方法:

グループで作成した計画書に基づいて研究を実施する。学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス 卒業研究Ⅲの進め方	卒業研究Ⅱの研究計画書を見直す
	2. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)1	研究計画書の修正があれば修正案を考えておく
	3. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)2	印刷物を準備する
	4. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)3	印刷物を準備する
	5. データ収集 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)4	対象者への協力を依頼しておく
	6. データ収集1 質問紙調査・インタビュー調査	
	7. データ収集2 質問紙調査・インタビュー調査	
	8. データ収集3 質問紙調査・インタビュー調査	
	9. データ入力1 エクセル入力	データ入力のフォーマットを作成しておく
	10. データ入力2 エクセル入力	
	11. データ入力3 エクセル入力	データ入力ミスがないか確認しておく
	12. データ分析1 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする
	13. データ分析2 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする
	14. データ分析3 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	
	15. データ分析4 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	
	16. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)1	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく
	17. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)2	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく
	18. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)3	
	19. 背景・目的・意義の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく
	20. 研究方法の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく
	21. 結果の記述1	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく
	22. 結果の記述2	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく
	23. 考察のための文献検討	結果を解釈するに必要な追加文献を収集し、検討しておく
	24. 考察の記述1	結果を解釈できる考察を考えておく
	25. 考察の記述2	結果を解釈できる考察を考えておく
	26. 考察の記述3	
	27. 全体の推敲・修正	論旨の一貫性を担保した論文になっているか見直しておく
	28. 抄録の作成	指定された抄録のフォーマットを確認しておく
	29. 研究のプレゼンテーション1	PPTを使用して、7分程度で発表できる準備をしておく
	30. 研究のプレゼンテーション2	PPTを使用して、7分程度で発表する

受講者へのメッセージやアドバイス:

科学的思考を培うための、研究プロセスを踏みながら、目的・方法・結果・考察にズレのない論旨の一貫性が確保された論文作成をしてください。視線計測に関心のある学生は器機を使用してもらってもかまいません。

フィードバックの方法:

研究実施を通して、適宜助言・指導を行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	到達目標1〜4について、研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性等を評価する。
	プレゼンテーション	20	到達目標5について、プレゼンテーションの適切性等を評価する。
	取り組み姿勢や態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:	適宜、紹介する。
参考書:	必要時、紹介する。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法:	講義時又はメールにて連絡する。

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
----------------------------------	------	----------

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
-----------------------	------	----	------

教科書:

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
------------------------	--

教員との連絡
方法:

授業テーマ：

授業の概要：

到達目標：

授業方法：

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」：	授業内容	準備学習等の内容
----------------------------------	------	----------

受講者への
メッセージや
アドバイス：

フィードバックの
方法：

「成績評価方法」 「成績評価基準」：	評価方法	割合	評価基準
-----------------------	------	----	------

教科書：

参考書：

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
------------------------	--

教員との連絡
方法：

授業テーマ：

授業の概要：

到達目標：

授業方法：

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」：	授業内容	準備学習等の内容
----------------------------------	------	----------

受講者への
メッセージや
アドバイス：

フィードバックの
方法：

「成績評価方法」 「成績評価基準」：	評価方法	割合	評価基準
-----------------------	------	----	------

教科書：

参考書：

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
------------------------	--

教員との連絡
方法：

授業テーマ:	博物館学芸員としての基礎的技術の習得																																																															
授業の概要:	今日の博物館は、学校教育のみならず生涯教育の場として、また文化の保存・伝承と研究発信の場として現代社会の中で大きな役割を果たしている。この「博物館実習」は「博物館学芸員資格」取得のための要となる授業であり博物館学芸員としての基礎的な心構えと技術を習得することを目的とする。 そうした実際の博物館での実習を行う上で必要な博物館資料の取り扱いから展示の実現まで、主として考古学・歴史学の立場を軸としつつも、地理学・民俗学・美術史など幅広い観点から、多様な実務についての基礎技術を実習し、また、さまざまな博物館のあり方を現地で学び、地域社会における博物館のあり方を総合的に学習することを目標とする。 また「博物館実習」の単位を取得するためには大学内での受講だけではなく実際の博物館の現場でおこなわれる「館園実習」(5～14日間程度)に参加することが必要となる。																																																															
到達目標:	博物館学芸員としての基礎的な技術を習得する。																																																															
授業方法:	実習形式とする。教室における屋内実習、野外でおこなう屋外実習、学外の博物館を訪れる見学実習がある。実際の作業や、ディスカッション等も含めて積極的な姿勢が前提となる。また、夏期を中心として実際の博物館での「館園実習」への参加も前提となる。また受講にあたっては定められた実習費を納めることが必要である。 なお、この科目は、京田辺キャンパスと今出川キャンパスの双方で開講する。それぞれのキャンパスの特性を活かして、京田辺では博物館資料の取り扱い方に重点を置き、今出川では京都市内の博物館の実地見学実習(入館料・交通費は自己負担となる)を多く取り入れることとする。																																																															
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. ガイダンス 博物館実習の心構え(両キャンパス共通)</td><td>これまでの博物館学芸員関係科目の内容を復習しておく。 なお、この回は学期最初の授業であるため、欠席してはならない。</td></tr><tr><td>2. 博物館の実地見学実習1(共通)</td><td>博物館の見学のマナーを考えておく。</td></tr><tr><td>3. 博物館広報チラシの比較検討(共通)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>4. 博物館資料室の見学(京田辺)/博物館の実地見学実習2(今出川)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>5. 民俗資料実習1～信仰資料の整理(共通)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>6. 民俗資料実習2～信仰資料の整理(共通)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>7. 民俗資料実習3～信仰資料の整理(共通)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>8. 考古学資料実習1～遺物の扱い方(京田辺)/博物館の実地見学実習3(今出川)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>9. 考古学資料実習2～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習1～拓本(今出川)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>10. 考古学資料実習3～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習2～拓本(今出川)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>11. 考古学資料実習4～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習3～拓本(今出川)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>12. 考古学資料実習5～拓本(京田辺)/博物館の実地見学実習4(今出川)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>13. 考古学資料実習5～拓本(京田辺)/博物館の実地見学実習5(今出川)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>14. 考古学資料実習6～拓本(京田辺)/博物館学芸員の仕事(今出川)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>15. 博物館館園実習に関する事前指導(共通)</td><td>自分が館園実習に行く博物館についてまとめておく。</td></tr><tr><td>16. 博物館館園実習の個別報告1(共通)</td><td>館園実習で経験したことをまとめ、説明できるようにしておく。</td></tr><tr><td>17. 博物館館園実習の個別報告2(共通)/博物館の実地見学実習6(今出川)</td><td>館園実習で経験したことをまとめ、説明できるようにしておく。</td></tr><tr><td>18. 歴史地理学資料実習1～古地図資料(京田辺)/考古学資料実習4～遺物実測(今出川)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>19. 歴史地理学資料実習2～近代地図資料(京田辺)/考古学資料実習5～遺物実測(今出川)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>20. 美術資料実習1～掛軸(京田辺)/博物館の実地見学実習7(今出川)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>21. 美術資料実習2～巻物(京田辺)/美術資料実習1～掛軸・巻物(今出川)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>22. 美術資料実習3～文書(京田辺)/美術資料実習2～文書・典籍(今出川)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>23. 美術資料実習4～典籍(京田辺)/博物館の実地見学実習8(今出川)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>24. 写実実習1(共通)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>25. 写実実習2(共通)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>26. 展示図録1～印刷の知識(共通)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>27. 展示図録2～図録のレイアウト(共通)</td><td>博物館資料についての取り扱い方を考えておく。</td></tr><tr><td>28. 展示会の構成1～展示計画の立案(共通)</td><td>展示計画を立案する。</td></tr><tr><td>29. 展示会の構成2～展示計画の発表(共通)</td><td>立案した展示計画を発表できるようにしておく。</td></tr><tr><td>30. 博物館実習の総括</td><td>授業全般をふりかえり、自分なりに総括しておく。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. ガイダンス 博物館実習の心構え(両キャンパス共通)	これまでの博物館学芸員関係科目の内容を復習しておく。 なお、この回は学期最初の授業であるため、欠席してはならない。	2. 博物館の実地見学実習1(共通)	博物館の見学のマナーを考えておく。	3. 博物館広報チラシの比較検討(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	4. 博物館資料室の見学(京田辺)/博物館の実地見学実習2(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	5. 民俗資料実習1～信仰資料の整理(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	6. 民俗資料実習2～信仰資料の整理(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	7. 民俗資料実習3～信仰資料の整理(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	8. 考古学資料実習1～遺物の扱い方(京田辺)/博物館の実地見学実習3(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	9. 考古学資料実習2～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習1～拓本(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	10. 考古学資料実習3～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習2～拓本(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	11. 考古学資料実習4～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習3～拓本(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	12. 考古学資料実習5～拓本(京田辺)/博物館の実地見学実習4(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	13. 考古学資料実習5～拓本(京田辺)/博物館の実地見学実習5(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	14. 考古学資料実習6～拓本(京田辺)/博物館学芸員の仕事(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	15. 博物館館園実習に関する事前指導(共通)	自分が館園実習に行く博物館についてまとめておく。	16. 博物館館園実習の個別報告1(共通)	館園実習で経験したことをまとめ、説明できるようにしておく。	17. 博物館館園実習の個別報告2(共通)/博物館の実地見学実習6(今出川)	館園実習で経験したことをまとめ、説明できるようにしておく。	18. 歴史地理学資料実習1～古地図資料(京田辺)/考古学資料実習4～遺物実測(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	19. 歴史地理学資料実習2～近代地図資料(京田辺)/考古学資料実習5～遺物実測(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	20. 美術資料実習1～掛軸(京田辺)/博物館の実地見学実習7(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	21. 美術資料実習2～巻物(京田辺)/美術資料実習1～掛軸・巻物(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	22. 美術資料実習3～文書(京田辺)/美術資料実習2～文書・典籍(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	23. 美術資料実習4～典籍(京田辺)/博物館の実地見学実習8(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	24. 写実実習1(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	25. 写実実習2(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	26. 展示図録1～印刷の知識(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	27. 展示図録2～図録のレイアウト(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。	28. 展示会の構成1～展示計画の立案(共通)	展示計画を立案する。	29. 展示会の構成2～展示計画の発表(共通)	立案した展示計画を発表できるようにしておく。	30. 博物館実習の総括	授業全般をふりかえり、自分なりに総括しておく。	
授業内容	準備学習等の内容																																																															
1. ガイダンス 博物館実習の心構え(両キャンパス共通)	これまでの博物館学芸員関係科目の内容を復習しておく。 なお、この回は学期最初の授業であるため、欠席してはならない。																																																															
2. 博物館の実地見学実習1(共通)	博物館の見学のマナーを考えておく。																																																															
3. 博物館広報チラシの比較検討(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
4. 博物館資料室の見学(京田辺)/博物館の実地見学実習2(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
5. 民俗資料実習1～信仰資料の整理(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
6. 民俗資料実習2～信仰資料の整理(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
7. 民俗資料実習3～信仰資料の整理(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
8. 考古学資料実習1～遺物の扱い方(京田辺)/博物館の実地見学実習3(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
9. 考古学資料実習2～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習1～拓本(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
10. 考古学資料実習3～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習2～拓本(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
11. 考古学資料実習4～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習3～拓本(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
12. 考古学資料実習5～拓本(京田辺)/博物館の実地見学実習4(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
13. 考古学資料実習5～拓本(京田辺)/博物館の実地見学実習5(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
14. 考古学資料実習6～拓本(京田辺)/博物館学芸員の仕事(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
15. 博物館館園実習に関する事前指導(共通)	自分が館園実習に行く博物館についてまとめておく。																																																															
16. 博物館館園実習の個別報告1(共通)	館園実習で経験したことをまとめ、説明できるようにしておく。																																																															
17. 博物館館園実習の個別報告2(共通)/博物館の実地見学実習6(今出川)	館園実習で経験したことをまとめ、説明できるようにしておく。																																																															
18. 歴史地理学資料実習1～古地図資料(京田辺)/考古学資料実習4～遺物実測(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
19. 歴史地理学資料実習2～近代地図資料(京田辺)/考古学資料実習5～遺物実測(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
20. 美術資料実習1～掛軸(京田辺)/博物館の実地見学実習7(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
21. 美術資料実習2～巻物(京田辺)/美術資料実習1～掛軸・巻物(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
22. 美術資料実習3～文書(京田辺)/美術資料実習2～文書・典籍(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
23. 美術資料実習4～典籍(京田辺)/博物館の実地見学実習8(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
24. 写実実習1(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
25. 写実実習2(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
26. 展示図録1～印刷の知識(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
27. 展示図録2～図録のレイアウト(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。																																																															
28. 展示会の構成1～展示計画の立案(共通)	展示計画を立案する。																																																															
29. 展示会の構成2～展示計画の発表(共通)	立案した展示計画を発表できるようにしておく。																																																															
30. 博物館実習の総括	授業全般をふりかえり、自分なりに総括しておく。																																																															
受講者へのメッセージやアドバイス:	実習の各作業に積極的に参加する姿勢が求められる。実習授業であるので、4分の1以上の欠席は、理由のいかんを問わず認めない(公欠は除く)。特に、学期最初、学期末の授業は欠席してはならない。多くの博物館を自主的に見学することも必須となる。特に実際の博物館の現場でおこなわれる「館園実習」は学外の博物館の厚意によって受け入れていただくものであるから生半可な気持ちで参加することは許されないことを肝に銘じていただきたい。とにかく、真摯に学ぶ覚悟を持たない者はこの授業を受講してはならないことを強調しておく。																																																															
フィードバックの方法:	教室内でまとめておこなう。																																																															

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席及びペーパー提出	50	遅刻せずに出席し、また、指定されたペーパー等を提出したか。実習授業であるので、4分の1以上の欠席は、理由のいかんを問わず認めない(公欠は除く)。博物館学芸員としての基礎的な技術を習得できたかどうか。
	授業への積極的参加度	30	きちんと受講し、授業への積極的に参加し、博物館学芸員としての基礎的な技術を習得できたかどうか。
	館園実習での評価	20	館園実習をきちんと受講したかどうか。
教科書:			
参考書:	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『博物館実習マニュアル』(芙蓉書房出版2002年2,700円＋税)		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	kyamada@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:	情報資源組織論の講義を受けて、記述目録法及び主題組織法(分類法、件名索引法)の実践演習
授業の概要:	本科目では情報資源組織論の講義を受けて、記述目録法、分類法・件名索引法の実践を演習し、理解を図る。 春学期には記述目録法について、演習を通じて書誌レコードのコピーカタログリング、新規作成を学習する。さらに、典拠レコードの作成と書誌レコードとのリンクを演習して、書誌コントロールの意味を実体験し、理解を獲得する。また、作成した書誌レコードを使用して、簡易OPACを構築し、評価する。 秋学期には主題索引法(分類法、件名索引法)について、演習を通じて学習する。分類法の演習では、『日本十進分類法』を使用する。件名索引法では、『基本件名標目表』を使用する。ともに、日本図書館界で標準的に使用されている主題索引のツールである。本演習を通じて、主題索引法(分類法、件名索引法)の理解を図るとともに、実戦能力の獲得を目指す。
到達目標:	本科目では情報資源組織論の講義を受けて、記述目録法、分類法・件名索引法の実践を演習し、理解を図る。 春学期には記述目録法について、演習を通じて書誌レコードのコピーカタログリング、新規作成を学習する。さらに、典拠レコードの作成と書誌レコードとのリンクを演習して、書誌コントロールの意味を実体験し、理解を獲得する。また、作成した書誌レコードを使用して、簡易OPACを構築し、評価する。 秋学期には主題索引法(分類法、件名索引法)について、演習を通じて学習する。分類法の演習では、『日本十進分類法』を使用する。件名索引法では、『基本件名標目表』を使用する。ともに、日本図書館界で標準的に使用されている主題索引のツールである。本演習を通じて、主題索引法(分類法、件名索引法)の理解を図るとともに、実践能力の獲得を目指す。
授業方法:	演習(事前に示した課題を提出する。その中から発表をし、講評や解説を行う。また、毎回、コメントペーパーの提出を求めらる。)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	科目概要の確認	DOORS、CiNii、国立国会図書館サーチなどで、実際の資料を検索しておくこと。
2.	図書書誌レコードの検索、書誌レコードの表現、所蔵レコードとのリンク1	自分の気に入りの本を図書館より借りて、該当図書に関する情報をOPACでプリントアウトするなどして持参する。
3.	図書書誌レコードの検索、書誌レコードの表現、所蔵レコードとのリンク2	NACSIS-CATのファイル構造をネットで確認し、書誌レコード、所蔵レコードの関係を理解しておくこと。
4.	図書書誌レコードの流用入力、その修正1	NACSIS-CATのファイル構造をネットで確認し、流用入力の意味を理解しておくこと。
5.	図書書誌レコードの流用入力、その修正2	同上
6.	図書書誌レコードの新規入力1	コード化情報ブロックにおけるコード類を教科書により確認しマスターしておく。
7.	図書書誌レコードの新規入力2	同上
8.	図書書誌レコードの新規入力3	同上
9.	図書書誌レコードの流用入力と典拠レコードとのリンク形成	NDLの著者名典拠データの仕組みをネットで調べ理解しておくこと。
10.	図書書誌レコードの流用入力と典拠レコード新規作成とリンク形成	同上
11.	雑誌レコードの所蔵登録	DOORSで雑誌の書誌レコードと所蔵レコードの関係を理解しておくこと。
12.	雑誌レコードの修正入力と所蔵レコードのリンク	所蔵レコードの実際の記載方法をDOORSで理解しておく。
13.	雑誌レコードの新規作成と所蔵レコードのリンク	雑誌の新規レコード作成の基準を理解しておくこと。
14.	簡易OPACの構築と書誌レコードの評価	USBに蓄積したものを持参する。
15.	記述目録法演習全体のまとめ	春学期のまとめをしておくこと。
16.	主題分析、要約、圧縮、表現の理解と演習	配布資料の熟読
17.	分類表本表(NDC):記号の階層性と概念の階層構造の理解と演習	配布資料の熟読
18.	分類表の本表の構造、各種指示の意味の理解と演習1	配布資料の熟読、演習問題の予習
19.	分類表の本表の構造、各種指示の意味の理解と演習2	配布資料の熟読、演習問題の予習
20.	相関索引の使用法、本表との関係の理解と演習	配布資料の熟読、演習問題の予習
21.	補助表:知識と形式の索引の理解の理解と演習1	配布資料の熟読、演習問題の予習
22.	補助表:知識と形式の索引の理解の理解と演習2	配布資料の熟読、演習問題の予習
23.	本表中の補助表:その適用の実際演習	配布資料の熟読、演習問題の予習
24.	書誌分類付与と所在記号の決定演習	演習問題の予習
25.	件名標目表:件名標目の構造理解とその演習1	配布資料の熟読、演習問題の予習
26.	件名標目表:件名標目の構造理解とその演習2	配布資料の熟読、演習問題の予習
27.	件名標目表:細目展開とその演習	配布資料の熟読、演習問題の予習
28.	分類表と件名標目表の関係理解とその演習	演習問題をNDCで付与しBSHに変換する。
29.	他の主題索引体系の演習	NDLSC(国立国会図書館分類表)、NDLSH(国立国会図書館件名標)を、ネットで調べておくこと。
30.	分類法、件名索引法全体のまとめ	秋学期のまとめをしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

- ・USBメモリを必ず持参すること。(毎回、作成したデータを保存するため、忘れると授業を受講することができない。システムはUSBメモリーがないと保存ができない仕組みになっているため、授業を受けることができないので注意すること。)
- ・教科書に従って授業を行う。教科書は必ず購入のこと。(春学期・秋学期と同じ教科書)
- ・ほぼ毎回ホームワークの課題を出す。
- ・一つ一つ積み上げの授業のため、遅刻は認めない。また、欠席しないように努力すること。
- ・欠席した場合、教科書・レジュメを基に独習し、課題・レポートは必ず提出すること。

フィードバックの方法:

コメントペーパーの質問、要望等については、次回、教室でまとめて回答します。なお、提出物は返却しません。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業態度	20	演習の回答発表
	課題	30	提出率と課題の正確性
	試験	50	正答率

教科書:	北克一・村上泰子共著『資料組織演習』改訂第4版、M.B.A、2017
参考書:	『日本目録規則 1987年版 改訂3版』、日本図書館協会、2003（授業時貸出） 『日本十進分類法 第10版』、日本図書館協会、2014（授業時貸出） 『基本件名標目表 第4版』、日本図書館協会、1999（授業時貸出） 田窪直規ほか『改訂 情報資源組織演習』、樹村房、2017 田窪直規ほか『改訂 情報資源組織論』、樹村房、2016 和中幹夫ほか『改訂 情報資源組織演習』、日本図書館協会、2016
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で対応。Eメールを利用。

授業テーマ：高齢者・在宅看護学領域の研究課題への取り組み

授業の概要：看護学研究特論等で学修した知識をもとに、高齢者・在宅看護学領域の研究課題を、国内外の文献クリティークを通してを焦点化する。研究課題を明確にするための研究デザインを検討し、研究計画書を作成する。

到達目標：1.専門領域における看護学研究特論などで学修した知識をもとに、国内外の文献を系統的に収集できる。
2.文献検討した結果を集約し報告できる。
3.1,2を通して、研究課題を明確化することができる。
4.研究方法を検討し、研究計画書の作成ができる。

授業方法：講義とゼミナール形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	高齢者・在宅看護学演習ガイダンス	興味・関心あるテーマを準備する。
2.	研究課題で扱う概念と文献検討の準備について	これまでに行った研究について整理しておく。
3.	国内論文の文献検討①	キーワードを用いて検索するため、キーワードを列挙しておく。
4.	国内論文の文献検討②	検索した論文に目を通し、不足している場合は、再度検索する。
5.	国内論文の文献検討③	収集した文献を読み込み、必要な論文を選定、クリティークする。
6.	文献検討結果の発表、ディスカッション	収集した文献を読み込み、必要な論文を選定、クリティークする。
7.	海外論文の文献検索	文献検討結果をまとめてプレゼンテーション準備をしておく。
8.	海外論文の文献整理	キーワードを用いて検索するため、キーワードを列挙しておく。
9.	海外論文の文献検討①	論文のアブストラクトに目を通し、不足している場合は、再度検索する。
10.	海外論文の文献検討②	収集した文献を読み込み、必要な論文を選択し文献検討しておく。
11.	海外論文の文献検討③	研究に有用な論文は、文献カードを作成する。
12.	海外文献検討結果の発表・ディスカッション	海外の先行研究結果をまとめる準備をしておく。
13.	国内外の文献検討結果の発表	国内外の文献検討結果をまとめるための構成をを考えておく。
14.	文献レビューの作成(構成)	国内外の文献検討結果をまとめ、発表する準備をしておく。
15.	文献レビューの作成(文章化)	文献レビューを執筆するために、内容を振り返る。
16.	研究課題の明確化	文献レビューを執筆するために、準備しておく。
17.	研究方法(デザイン)の検討①	レポート①の提出
18.	研究方法(デザイン)の検討②	これまでに行った文献検討結果から、研究課題を明確化する。
19.	研究倫理の確認	研究課題に沿った研究方法(デザイン)を学習しておく。
20.	データ収集方法の検討	研究課題に沿った研究方法を焦点化しておく。
21.	データ収集方法の準備学習	研究倫理について復習しておく
22.	研究計画書の作成①	データ収集方法の可能性や限界について考えておく。
23.	研究計画書の作成②	予定するデータ収集方法の手順や留意点を予習する。
24.	分析方法の検討	研究計画書の構成について学習しておく。
25.	分析方法の決定	計画書の方法までを記載しておく。
26.	研究計画書の作成③	分析方法を学習しておく。統計的手法又は質的分析方法の資料を収集しておく。
27.	研究計画書の完成	選択した分析方法の資料を熟読しておく。
28.	倫理審査委員会の書類作成に向けて	研究計画書の作成を進めておく。
29.	倫理審査委員会の書類作成	研究計画書を執筆し、レポート②を作成する。
30.	まとめ	倫理審査委員会の手続きについて調べておく
		書類作成に必要な資料を集めておく。

受講者へのメッセージやアドバイス：先行文献の検討を通して、研究課題を明確化し、看護の質の向上に有用な研究計画を作成しましょう。

フィードバックの方法：課題について、講義内でコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	80	目標2、3、4の到達について評価する。
	授業の参加態度、ディスカッション内容	20	目標1、2、3の到達について評価する。

教科書：指定しない。必要時紹介する。

参考書：適宜、紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法：講義時又はメールにて連絡する。

授業テーマ:	ウイメンズヘルス領域における研究課題への取り組み																																																																
授業の概要:	ウイメンズヘルス特論ⅠⅡなどで学修した概念・理論をもとに、その実際や国内外の文献を検討し、文献レビュー、クリティーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行うことにより自らの研究課題の明確化を進める。具体的には、妊産褥婦及び育児期の女性とその家族を対象とした健康教育の実施、ライフスタイルの実態調査や臨床での経験などにより生じた疑問から、ウイメンズヘルス領域における看護実践上の課題を見出し、その追求や課題解決の方策を研究的視点から検討する。																																																																
到達目標:	1)ウイメンズヘルス領域における看護実践上の課題について説明できる。 2)ケアの対象者やその場に応じた看護実践上の課題解決の方策を探究できる。 3)取り組むべき研究課題・研究目的を明確化できる。 4)研究目的に即した研究方法を立案できる。 5)論理的かつ倫理的配慮のある研究計画書を作成できる。																																																																
授業方法:	演習・ゼミナール形式での個人発表、12～19は臨床現場でのフィールドワーク。																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td></td></tr><tr><td>2. 関心のあるテーマの模索</td><td>関心のあるテーマについて考える、文献クリティークの視点を確認しておく</td></tr><tr><td>3. 関心のあるテーマと文献検討①</td><td>文献を検索し、文献検討の準備をする</td></tr><tr><td>4. 関心のあるテーマと文献検討②</td><td>文献を丁寧に読んでおく</td></tr><tr><td>5. 関心のあるテーマと文献検討③</td><td>文献を丁寧に読んでおく</td></tr><tr><td>6. 関心のあるテーマと文献検討④</td><td>文献を丁寧に読んでおく</td></tr><tr><td>7. 関心のあるテーマと文献検討⑤</td><td>文献を丁寧に読んでおく</td></tr><tr><td>8. 関心のあるテーマと文献検討⑥</td><td>文献を丁寧に読んでおく</td></tr><tr><td>9. 関心のあるテーマと文献検討⑦</td><td>文献を丁寧に読んでおく</td></tr><tr><td>10. 関心のあるテーマと文献検討のまとめ</td><td>文献レビューを作成する</td></tr><tr><td>11. 関心あるテーマに関するフィールドワークの計画</td><td>フィールドワーク計画書を作成する</td></tr><tr><td>12. 関心あるテーマに関するフィールドワーク①</td><td>フィールドワーク計画書を作成する</td></tr><tr><td>13. 関心あるテーマに関するフィールドワーク②</td><td>フィールドワーク計画書を作成する</td></tr><tr><td>14. 関心あるテーマに関するフィールドワーク③</td><td>フィールドワーク計画書を作成する</td></tr><tr><td>15. 関心あるテーマに関するフィールドワーク④</td><td>計画書の確認、進捗状況を確認する</td></tr><tr><td>16. 関心あるテーマに関するフィールドワーク⑤</td><td>計画書の確認、進捗状況を確認する</td></tr><tr><td>17. 関心あるテーマに関するフィールドワーク⑥</td><td>計画書の確認、進捗状況を確認する</td></tr><tr><td>18. 関心あるテーマに関するフィールドワーク⑦</td><td>計画書の確認、進捗状況を確認する</td></tr><tr><td>19. 関心あるテーマに関するフィールドワーク⑧</td><td>計画書の確認、進捗状況を確認する</td></tr><tr><td>20. フィールドワークまとめ</td><td>報告書にまとめる</td></tr><tr><td>21. 研究テーマの絞り込み、研究の問いの明確化</td><td>文献検討、フィールドワークの総括をする</td></tr><tr><td>22. 研究方法の明確化①デザイン</td><td>研究方法に関する資料の準備を行う</td></tr><tr><td>23. 研究方法の明確化②対象と測定指標</td><td>研究方法に関する資料の準備を行う</td></tr><tr><td>24. 研究方法の明確化③測定用具の信頼性と妥当性</td><td>研究方法に関する資料の準備を行う</td></tr><tr><td>25. 研究方法の明確化④倫理的配慮</td><td>研究方法に関する資料の準備を行う</td></tr><tr><td>26. 研究方法の明確化⑤データの分析方法</td><td>研究方法に関する資料の準備を行う</td></tr><tr><td>27. 研究計画書の作成①背景</td><td>文献レビューを見直す</td></tr><tr><td>28. 研究計画書の作成②研究方法・データ分析方法</td><td>授業27での課題を検討し、研究計画書を推敲する</td></tr><tr><td>29. 研究計画書の作成③倫理的配慮・タイムスケジュール</td><td>授業28での課題を検討し、研究計画書を推敲する</td></tr><tr><td>30. 研究実施計画の検討</td><td>授業29までの検討から、具体的な研究実施をイメージする</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション		2. 関心のあるテーマの模索	関心のあるテーマについて考える、文献クリティークの視点を確認しておく	3. 関心のあるテーマと文献検討①	文献を検索し、文献検討の準備をする	4. 関心のあるテーマと文献検討②	文献を丁寧に読んでおく	5. 関心のあるテーマと文献検討③	文献を丁寧に読んでおく	6. 関心のあるテーマと文献検討④	文献を丁寧に読んでおく	7. 関心のあるテーマと文献検討⑤	文献を丁寧に読んでおく	8. 関心のあるテーマと文献検討⑥	文献を丁寧に読んでおく	9. 関心のあるテーマと文献検討⑦	文献を丁寧に読んでおく	10. 関心のあるテーマと文献検討のまとめ	文献レビューを作成する	11. 関心あるテーマに関するフィールドワークの計画	フィールドワーク計画書を作成する	12. 関心あるテーマに関するフィールドワーク①	フィールドワーク計画書を作成する	13. 関心あるテーマに関するフィールドワーク②	フィールドワーク計画書を作成する	14. 関心あるテーマに関するフィールドワーク③	フィールドワーク計画書を作成する	15. 関心あるテーマに関するフィールドワーク④	計画書の確認、進捗状況を確認する	16. 関心あるテーマに関するフィールドワーク⑤	計画書の確認、進捗状況を確認する	17. 関心あるテーマに関するフィールドワーク⑥	計画書の確認、進捗状況を確認する	18. 関心あるテーマに関するフィールドワーク⑦	計画書の確認、進捗状況を確認する	19. 関心あるテーマに関するフィールドワーク⑧	計画書の確認、進捗状況を確認する	20. フィールドワークまとめ	報告書にまとめる	21. 研究テーマの絞り込み、研究の問いの明確化	文献検討、フィールドワークの総括をする	22. 研究方法の明確化①デザイン	研究方法に関する資料の準備を行う	23. 研究方法の明確化②対象と測定指標	研究方法に関する資料の準備を行う	24. 研究方法の明確化③測定用具の信頼性と妥当性	研究方法に関する資料の準備を行う	25. 研究方法の明確化④倫理的配慮	研究方法に関する資料の準備を行う	26. 研究方法の明確化⑤データの分析方法	研究方法に関する資料の準備を行う	27. 研究計画書の作成①背景	文献レビューを見直す	28. 研究計画書の作成②研究方法・データ分析方法	授業27での課題を検討し、研究計画書を推敲する	29. 研究計画書の作成③倫理的配慮・タイムスケジュール	授業28での課題を検討し、研究計画書を推敲する	30. 研究実施計画の検討	授業29までの検討から、具体的な研究実施をイメージする		
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. オリエンテーション																																																																	
2. 関心のあるテーマの模索	関心のあるテーマについて考える、文献クリティークの視点を確認しておく																																																																
3. 関心のあるテーマと文献検討①	文献を検索し、文献検討の準備をする																																																																
4. 関心のあるテーマと文献検討②	文献を丁寧に読んでおく																																																																
5. 関心のあるテーマと文献検討③	文献を丁寧に読んでおく																																																																
6. 関心のあるテーマと文献検討④	文献を丁寧に読んでおく																																																																
7. 関心のあるテーマと文献検討⑤	文献を丁寧に読んでおく																																																																
8. 関心のあるテーマと文献検討⑥	文献を丁寧に読んでおく																																																																
9. 関心のあるテーマと文献検討⑦	文献を丁寧に読んでおく																																																																
10. 関心のあるテーマと文献検討のまとめ	文献レビューを作成する																																																																
11. 関心あるテーマに関するフィールドワークの計画	フィールドワーク計画書を作成する																																																																
12. 関心あるテーマに関するフィールドワーク①	フィールドワーク計画書を作成する																																																																
13. 関心あるテーマに関するフィールドワーク②	フィールドワーク計画書を作成する																																																																
14. 関心あるテーマに関するフィールドワーク③	フィールドワーク計画書を作成する																																																																
15. 関心あるテーマに関するフィールドワーク④	計画書の確認、進捗状況を確認する																																																																
16. 関心あるテーマに関するフィールドワーク⑤	計画書の確認、進捗状況を確認する																																																																
17. 関心あるテーマに関するフィールドワーク⑥	計画書の確認、進捗状況を確認する																																																																
18. 関心あるテーマに関するフィールドワーク⑦	計画書の確認、進捗状況を確認する																																																																
19. 関心あるテーマに関するフィールドワーク⑧	計画書の確認、進捗状況を確認する																																																																
20. フィールドワークまとめ	報告書にまとめる																																																																
21. 研究テーマの絞り込み、研究の問いの明確化	文献検討、フィールドワークの総括をする																																																																
22. 研究方法の明確化①デザイン	研究方法に関する資料の準備を行う																																																																
23. 研究方法の明確化②対象と測定指標	研究方法に関する資料の準備を行う																																																																
24. 研究方法の明確化③測定用具の信頼性と妥当性	研究方法に関する資料の準備を行う																																																																
25. 研究方法の明確化④倫理的配慮	研究方法に関する資料の準備を行う																																																																
26. 研究方法の明確化⑤データの分析方法	研究方法に関する資料の準備を行う																																																																
27. 研究計画書の作成①背景	文献レビューを見直す																																																																
28. 研究計画書の作成②研究方法・データ分析方法	授業27での課題を検討し、研究計画書を推敲する																																																																
29. 研究計画書の作成③倫理的配慮・タイムスケジュール	授業28での課題を検討し、研究計画書を推敲する																																																																
30. 研究実施計画の検討	授業29までの検討から、具体的な研究実施をイメージする																																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	本科目における学修を2年次の特別研究においてさらに発展させる。自己の研究テーマを焦点化するために多くの文献をクリティークし、ゼミにおけるディスカッションやフィールドワークを行い、研究のプロセスを進めます。																																																																
フィードバックの方法:	ゼミ内で解説する																																																																
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>発表・討議</td><td>50</td><td>到達目標1)2)3)の達成度を評価する</td></tr><tr><td>レポート</td><td>50</td><td>到達目標3)4)5)の達成度を評価する</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	発表・討議	50	到達目標1)2)3)の達成度を評価する	レポート	50	到達目標3)4)5)の達成度を評価する																																																							
評価方法	割合	評価基準																																																															
発表・討議	50	到達目標1)2)3)の達成度を評価する																																																															
レポート	50	到達目標3)4)5)の達成度を評価する																																																															
教科書:																																																																	
参考書:																																																																	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力																																																																
教員との連絡方法:	Eメールやゼミの前後に教室で対応																																																																

授業テーマ:

高齢者看護学領域における研究課題への取り組み

授業の概要:

高齢者の健康の維持増進、回復支援、介護予防、健康長寿など高齢者ケアの様々な局面を取り上げ、その実態や文献レビュー、クリティークなどを行うことにより自らの研究課題を明らかにしていく。研究課題に取り組むための研究方法を検討し、研究計画書を作成する。

到達目標:

1.高齢者看護学領域の看護実践における研究課題を明確にする。
2.研究課題検討のための文献検索と文献レビューを行う。
3.研究課題に取り組むための研究方法を検討する。
4.研究課題に対する研究計画書を作成する。

授業方法:

演習・ゼミナール形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション:研究課題を明確化するために	文献検索と文献検討の準備
2.	高齢者看護学領域での研究動向と課題①	文献検索と文献検討の準備
3.	高齢者看護学領域での研究動向と課題②	文献検索と文献検討の準備
4.	高齢者看護学領域での研究動向と課題③	文献検索と文献検討の準備
5.	高齢者看護学領域での研究動向と課題④	文献検索と文献検討の準備
6.	関心ある研究課題への模索①	文献検索と文献検討の準備
7.	関心ある研究課題への模索②	文献検索と文献検討の準備
8.	関心ある研究課題に関連する文献検討①	文献検索と文献検討の準備
9.	関心ある研究課題に関連する文献検討②	文献検索と文献検討の準備
10.	関心ある研究課題に関連する文献検討③	文献検索と文献検討の準備
11.	関心ある研究課題に関連する文献検討④	文献検索と文献検討の準備
12.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑤	文献検索と文献検討の準備
13.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑥	文献検索と文献検討の準備
14.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑦	文献検索と文献検討の準備
15.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑧	文献検索と文献検討の準備
16.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑨	文献検索と文献検討の準備
17.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑩	文献検索と文献検討の準備
18.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑪まとめ	文献レビューの作成
19.	研究倫理を考える①	研究倫理に関する資料の準備
20.	研究倫理を考える②	研究倫理に関する資料の準備
21.	研究課題に取り組む研究方法の検討①	研究方法に関する資料の準備
22.	研究課題に取り組む研究方法の検討②	研究方法に関する資料の準備
23.	研究課題に取り組む研究方法の検討③	研究方法に関する資料の準備
24.	研究課題に取り組む研究方法の検討④	研究方法に関する資料の準備
25.	研究課題に取り組む研究方法の検討⑤	研究方法に関する資料の準備
26.	研究計画書の作成①	研究計画書の作成
27.	研究計画書の作成②	研究計画書の作成
28.	研究計画書の作成③	研究計画書の作成
29.	研究計画書の作成④	研究計画書の作成
30.	研究計画書の発表	プレゼンテーション資料作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

じっくり文献を読み込み、自己の研究課題を焦点化し、研究を進めましょう。

フィードバックの方法:

適宜ゼミ内で助言する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への取り組み	40	授業への参加度
	レポート	60	到達目標1～4の習得状況

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業前後に教室内で対応

授業テーマ:

高齢者看護学領域における研究課題への取り組み

授業の概要:

高齢者の健康の維持・増進や回復支援、介護予防、健康長寿など高齢者ケアの様々な局面を取り上げ、その実際や文献レビュー、クリティークなどを行うことにより自らの研究課題を明らかにしていく。研究課題に取り組むための研究方法を検討し、研究計画書を作成する。

- 到達目標:
1. 高齢者看護学領域の看護実践における研究課題を明確にする。

2. 研究課題検討のための文献検索と文献レビューを行う。

3. 研究課題に取り組むための研究方法を検討する。

4. 研究課題に対する研究計画書を作成する。

授業方法:

演習・ゼミナール形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション: 研究課題を明確化するために	文献検索と文献検討の準備
2.	高齢者看護学領域での研究動向と課題①	文献検索と文献検討の準備
3.	高齢者看護学領域での研究動向と課題②	文献検索と文献検討の準備
4.	高齢者看護学領域での研究動向と課題③	文献検索と文献検討の準備
5.	高齢者看護学領域での研究動向と課題④	文献検索と文献検討の準備
6.	関心ある研究課題への模索①	文献検索と文献検討の準備
7.	関心ある研究課題への模索②	文献検索と文献検討の準備
8.	関心ある研究課題に関連する文献検討①	文献検索と文献検討の準備
9.	関心ある研究課題に関連する文献検討②	文献検索と文献検討の準備
10.	関心ある研究課題に関連する文献検討③	文献検索と文献検討の準備
11.	関心ある研究課題に関連する文献検討④	文献検索と文献検討の準備
12.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑤	文献検索と文献検討の準備
13.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑥	文献検索と文献検討の準備
14.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑦	文献検索と文献検討の準備
15.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑧	文献検索と文献検討の準備
16.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑨	文献検索と文献検討の準備
17.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑩	文献検索と文献検討の準備
18.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑪まとめ	文献レビューの作成
19.	研究倫理を考える①	研究倫理に関する資料の準備
20.	研究倫理を考える②	研究倫理に関する資料の準備
21.	研究課題に取り組む研究方法の検討①	研究方法に関する資料の準備
22.	研究課題に取り組む研究方法の検討②	研究方法に関する資料の準備
23.	研究課題に取り組む研究方法の検討③	研究方法に関する資料の準備
24.	研究課題に取り組む研究方法の検討④	研究方法に関する資料の準備
25.	研究課題に取り組む研究方法の検討⑤	研究方法に関する資料の準備
26.	研究計画書の作成①	研究計画書の作成
27.	研究計画書の作成②	研究計画書の作成
28.	研究計画書の作成③	研究計画書の作成
29.	研究計画書の作成④	研究計画書の作成
30.	研究計画書の発表	プレゼンテーション資料作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

じっくり文献を読み込み、自己の研究課題を焦点化し、研究を進めましょう。

フィードバックの方法:

適宜ゼミ内で助言する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への取り組み	40	授業への参加度
	レポート	60	到達目標1～4の修得状況

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業前後に教室内で対応

授業テーマ:

成人領域の研究計画書の作成

授業の概要:

成人看護学領域における看護現象を研究疑問として捉え、その研究疑問を研究課題にしていく。研究課題について当該領域での意義を明確にするために文献検討を行い、研究における主要概念の定義を行う。さらに、研究課題解決に向けた適切な研究方法論を検討する。このような過程を通して研究計画書を作成する。

- 到達目標:
1. 成人看護学領域の看護検証から研究課題を明確化する。

2. 研究課題に関する文献検索を行い、文献レビューを作成する。

3. 研究における主要概念を決定し、概念分析を行う。

4. 研究課題を達成するための研究方法を理解し、説明できる。

5. 研究課題に対する研究計画書を作成する。

授業方法:

受講生のプレゼンテーション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 研究計画書を作成するための導入1	
	2. 研究計画書を作成するための導入2	プレゼンテーション資料を作成する
	3. 研究疑問から研究課題への検討1	プレゼンテーション資料を作成する
	4. 研究疑問から研究課題への検討2	プレゼンテーション資料を作成する
	5. 研究課題に関連した文献検討の発表1	プレゼンテーション資料を作成する
	6. 研究課題に関連した文献検討の発表2	プレゼンテーション資料を作成する
	7. 研究課題に関連した文献検討の発表3	プレゼンテーション資料を作成する
	8. 研究課題に関連した文献検討の発表4	プレゼンテーション資料を作成する
	9. 成人看護学領域での研究課題の意義について1	プレゼンテーション資料を作成する
	10. 成人看護学領域での研究課題の意義について2	プレゼンテーション資料を作成する
	11. 主要概念の概念分析の発表1	プレゼンテーション資料を作成する
	12. 主要概念の概念分析の発表2	プレゼンテーション資料を作成する
	13. 主要概念の概念分析の発表3	プレゼンテーション資料を作成する
	14. 主要概念の概念分析の発表4	プレゼンテーション資料を作成する
	15. 主要概念と類似概念の比較1	プレゼンテーション資料を作成する
	16. 主要概念と類似概念の比較2	プレゼンテーション資料を作成する
	17. 主要概念と類似概念の比較3	プレゼンテーション資料を作成する
	18. 主要概念と類似概念の比較4	プレゼンテーション資料を作成する
	19. 研究課題解決に向けた研究デザインの検討1	プレゼンテーション資料を作成する
	20. 研究課題解決に向けた研究デザインの検討2	プレゼンテーション資料を作成する
	21. 研究課題解決に向けた研究デザインの検討3	プレゼンテーション資料を作成する
	22. 研究課題解決に向けた研究デザインの検討4	プレゼンテーション資料を作成する
	23. 研究課題解決に向けた研究デザインの検討5	プレゼンテーション資料を作成する
	24. 研究における倫理的問題の検討1	プレゼンテーション資料を作成する
	25. 研究における倫理的問題の検討2	プレゼンテーション資料を作成する
	26. 研究計画書の作成1	プレゼンテーション資料を作成する
	27. 研究計画書の作成2	プレゼンテーション資料を作成する
	28. 研究計画書の作成3	プレゼンテーション資料を作成する
	29. 研究計画書の作成4	プレゼンテーション資料を作成する
	30. リサーチミーティングでの発表	プレゼンテーション資料を作成する

受講者へのメッセージやアドバイス:

修士論文作成に向けての準備段階です。時間をかけてプロセスを踏んでください。

フィードバックの方法:

適宜指導・助言をします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	90	到達目標1～4のプロセスと、到達目標5の遂行可能性を評価します。
	課題への取り組み	10	主体的な取り組みを評価します。

教科書:

PamelaJBrink,小玉香津子・輪湖史子監訳、看護研究計画書-作成の基本ステップ、日本看護協会、1999

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

メール 適宜面談

授業テーマ：看護の研究課題への取り組み

授業の概要：ウィメンズヘルス領域における特論などで学修した知識をもとに、その実際や国内外の文献を検討し、文献レビュー、クリティーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行うことにより自らの研究課題の明確化を進める。特に、妊産褥婦及び育児期の女性とその家族の健康の維持増進を目指したケアのあり方を探求する。

到達目標：文献レビュー、クリティークの方法を修得し、研究課題の焦点化ができる(看護実践を通じて抱いた疑問を文献的に整理し、課題を明らかにする)。研究課題に関しての実際(フィールドワーク)や文献から研究動向を確認し、研究課題、研究デザイン、研究方法、研究倫理について検討でき、その結果をまとめてプレゼンテーションできる。看護実践に寄与できる研究課題を明確に説明でき、研究課題を追求、解明するための適切な研究デザインや研究方法を研究倫理に基づいて検討できる。

授業方法：	ゼミ形式	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	専門領域での学習をもとに関心のあるテーマを決めておく
	3. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	文献検索した文献を読み込んでおく
	4. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	文献検索した文献を全て読み込んでおく
	5. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	文献検索した文献を全て読み込んでおく
	6. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	文献検索した文献を全て読み込んでおく
	7. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	文献検索した文献を全て読み込んでおく
	8. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	文献検索した文献を全て読み込んでおく
	9. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	文献検索した文献を全て読み込んでおく
	10. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	文献検索した文献を全て読み込んでおく
	11. 文献レビューのまとめの作成(研究課題の明確化)	
	12. 文献レビューのまとめのプレゼンテーション	文献レビューとフィールドワークのまとめを作成し、発表の準備をしておく
	13. 研究課題に関する実態の全体像把握のためのフィールドワーク	
	14. 研究課題に関する実態の全体像把握のためのフィールドワーク	
	15. 研究課題に関する実態の全体像把握のためのフィールドワーク	
	16. 研究課題に関する実態の全体像把握のためのフィールドワーク	
	17. 研究課題に関する実態の全体像把握のためのフィールドワーク	
	18. 研究課題に関する実態の全体像把握のためのフィールドワーク	
	19. 研究課題に関する実態把握のためのフィールドワーク(ナラティブアプローチ)	
	20. 研究課題に関する実態把握のためのフィールドワーク(ナラティブアプローチ)	
	21. 文献レビューとフィールドワークのまとめ(研究課題の修正と明確化)	
	22. 文献レビューとフィールドワークのまとめ(研究課題の修正と明確化)	
	23. 文献レビューとフィールドワークのまとめ(研究課題の修正と明確化)	
	24. 文献レビューとフィールドワークのまとめ(研究課題の修正と明確化)	
	25. 文献レビューとフィールドワークのまとめのプレゼンテーション	文献レビューとフィールドワークのまとめを作成し、発表の準備をしておく
	26. 研究課題と研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討	
	27. 研究課題と研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討	
	28. 研究課題と研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討	
	29. 研究課題と研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討	発表の準備をしておく
	30. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：課題については授業内でコメントする

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート(まとめ)	50	レポート(まとめ)から授業目標の到達度を評価する
	プレゼンテーション	30	プレゼンテーションの明確性、適切性を評価する
	授業への参加度	20	授業に取り組む積極性、主体性を評価する

教科書：特に指定しない

参考書:	適時提示する
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力
教員との連絡 方法:	質問などは主に授業内で対応する

授業テーマ:

授業の概要: 公衆衛生看護活動及びその関連文献を検討し、文献レビュー、クリティーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行うことにより自らの研究課題を明確化する。また、公衆衛生看護学領域の支援対象である個人・家族、集団、地域に関する研究のデザイン、方法、倫理的配慮について理解する。

到達目標: 1. 公衆衛生看護学領域における看護実践上の課題について説明できる
2. 個人・家族、集団、地域など支援対象の特性や場に応じた課題解決の方法を考えることができる
3. 自らの研究課題、研究目的を明確化できる
4. 研究目的に即した、また倫理的配慮をふまえた研究方法を考えることができる
5. 研究計画書を作成できる

授業方法: ゼミナール形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	関心のあるテーマに関する公衆衛生看護活動の実態と研究に関する文献レビュー①	関心のあるテーマに関する情報を収集しておく 文献レビュー、クリティークについて復習しておく
3.	関心のあるテーマに関する公衆衛生看護活動の実態と研究に関する文献レビュー②	関心のあるテーマに関する文献を検索し、文献検討の準備をする
4.	関心のあるテーマに関する公衆衛生看護活動の実態と研究に関する文献レビュー③	文献を丁寧に読み、文献レビューを作成する
5.	関心のあるテーマに関する公衆衛生看護活動の実態と研究に関する文献レビュー④	文献を丁寧に読み、文献レビューを作成する
6.	関心のあるテーマに関する公衆衛生看護活動の実態と研究に関する文献レビュー⑤	文献を丁寧に読み、文献レビューを作成する
7.	関心のあるテーマに関する公衆衛生看護活動の実態と研究に関する文献レビュー⑥	文献を丁寧に読み、文献レビューを作成する
8.	関心のあるテーマに関する公衆衛生看護活動の実態と研究に関する文献レビュー⑦	文献を丁寧に読み、文献レビューを作成する
9.	関心のあるテーマに関する公衆衛生看護活動の実態と研究に関する文献レビュー⑧	文献を丁寧に読み、文献レビューを作成する
10.	文献レビューのまとめ（研究課題の明確化）	文献レビューとディスカッションの結果をまとめる
11.	研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討①	研究方法について情報収集し、検討資料を準備しておく
12.	研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討②	研究方法について情報収集し、検討資料を準備しておく
13.	研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討③	研究方法について情報収集し、検討資料を準備しておく
14.	研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討④	研究方法について情報収集し、検討資料を準備しておく
15.	研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討⑤	研究方法について情報収集し、検討資料を準備しておく
16.	研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討⑥	研究方法について情報収集し、検討資料を準備しておく
17.	研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討⑦	研究方法について情報収集し、検討資料を準備しておく
18.	研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討⑧	研究方法について情報収集し、検討資料を準備しておく
19.	研究計画書の作成①	計画書の構成について復習しておく
20.	研究計画書の作成②	計画書を作成する
21.	研究計画書の作成③	計画書を作成する
22.	研究計画書の作成④	計画書を作成する
23.	研究計画書の作成⑤	計画書を作成する
24.	研究計画書の作成⑥	計画書を作成する
25.	研究計画書の作成⑦	計画書を作成する
26.	研究計画書の発表・ディスカッション	発表の準備をする
27.	研究計画書の見直し	計画書の修正課題について検討する
28.	研究計画書の見直し	計画書の修正課題について検討する
29.	研究計画書の完成	計画書の修正課題について検討する
30.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業内にコメントする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	50	到達目標3,4,5の達成状況
	授業への参加態度（発表内容含む）	50	到達目標1,2の達成状況

教科書: 特に指定しない

参考書: 適宜提示する

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力
教員との連絡 方法:	Eメール及び授業内に対応する

授業テーマ:

成人慢性期看護・終末期看護研究演習

授業の概要:

成人看護学領域における看護現象を研究疑問として捉え、その研究疑問を研究課題にしていく。研究課題について当該領域での意義を明確にするために文献検討を行い、研究における主要概念の定義を行う。さらに、研究課題解決に向けた適切な研究方法論を検討する。このような過程を通して研究計画書を作成する。

- 到達目標:
1. 成人看護学領域における看護検証から研究課題を明確化する。

2. 研究課題に関する文献検索を行い、文献レビューを作成する。

3. 研究における主要概念を決定し、概念分析を行う。

4. 研究課題に達成するための研究方法を理解し、説明できる。

5. 研究課題に対する研究計画書を作成する。

授業方法:

受講生のプレゼンテーション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 研究計画書を作成するための導入1	
	2. 研究計画書を作成するための導入2	プレゼンテーション資料を作成する
	3. 研究疑問から研究課題への検討1	プレゼンテーション資料を作成する
	4. 研究疑問から研究課題への検討2	プレゼンテーション資料を作成する
	5. 研究課題に関連した文献検討の発表1	プレゼンテーション資料を作成する
	6. 研究課題に関連した文献検討の発表2	プレゼンテーション資料を作成する
	7. 研究課題に関連した文献検討の発表3	プレゼンテーション資料を作成する
	8. 研究課題に関連した文献検討の発表4	プレゼンテーション資料を作成する
	9. 成人看護学領域での研究課題の意義について1	プレゼンテーション資料を作成する
	10. 成人看護学領域での研究課題の意義について2	プレゼンテーション資料を作成する
	11. 主要概念の概念分析の発表1	プレゼンテーション資料を作成する
	12. 主要概念の概念分析の発表2	プレゼンテーション資料を作成する
	13. 主要概念の概念分析の発表3	プレゼンテーション資料を作成する
	14. 主要概念の概念分析の発表4	プレゼンテーション資料を作成する
	15. 主要概念と類似概念の比較1	プレゼンテーション資料を作成する
	16. 主要概念と類似概念の比較2	プレゼンテーション資料を作成する
	17. 主要概念と類似概念の比較3	プレゼンテーション資料を作成する
	18. 主要概念と類似概念の比較4	プレゼンテーション資料を作成する
	19. 研究課題解決に向けた研究デザインの検討1	プレゼンテーション資料を作成する
	20. 研究課題解決に向けた研究デザインの検討2	プレゼンテーション資料を作成する
	21. 研究課題解決に向けた研究デザインの検討3	プレゼンテーション資料を作成する
	22. 研究課題解決に向けた研究デザインの検討4	プレゼンテーション資料を作成する
	23. 研究課題解決に向けた研究デザインの検討5	プレゼンテーション資料を作成する
	24. 研究における倫理的問題の検討1	プレゼンテーション資料を作成する
	25. 研究における倫理的問題の検討2	プレゼンテーション資料を作成する
	26. 研究計画書の作成1	プレゼンテーション資料を作成する
	27. 研究計画書の作成2	プレゼンテーション資料を作成する
	28. 研究計画書の作成3	プレゼンテーション資料を作成する
	29. 研究計画書の作成4	プレゼンテーション資料を作成する
	30. リサーチミーティングでの発表	プレゼンテーション資料を作成する

受講者へのメッセージやアドバイス:

修士論文作成に向けての準備段階です。時間をかけてプロセスを踏んでください。

フィードバックの方法:

適宜指導・助言します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	90	到達目標1～4のプロセスと、到達目標5の遂行可能性を評価します。主体的な取り組みを評価します。
	課題への取り組み	10	

教科書:

1. Pamela J. Brink. 小玉香津子・輪湖史子監訳、看護研究計画書の基本ステップ、日本看護協会.2000

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

メール 適宜面接

891710

看護学演習

杉原 百合子

授業テーマ:

看護学の研究課題への取り組み

授業の概要:

高齢者・在宅看護学領域における研究課題や個人的に興味・関心のある研究課題について、高齢者看護学特論などで学修した知識をもとに、文献レビュー、クリティーク、プレゼンテーション、ディスカッションを通して焦点化し、研究の必要性や意義、研究方法について検討する。

到達目標:

1. 高齢者看護学特論などで学修した知識をもとに、研究課題・研究目的を明確化できる。
2. 研究課題検討のための文献を系統的に収集できる。
3. 収集した文献のレビュー、クリティークを行い、報告およびディスカッションできる。
4. 研究目的に即した研究方法を立案できる。
5. 論理的で倫理的配慮のある研究計画書が作成できる。

授業方法:

ゼミナール形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
7. 文献クリティーク②	研究に有用な論文は、文献カードを作成する。
8. 文献クリティーク③	研究に有用な論文は、文献カードを作成する。
9. 文献クリティーク④	研究に有用な論文は、文献カードを作成する。
10. 文献クリティーク⑤	研究に有用な論文は、文献カードを作成する。
11. 文献クリティーク⑥	研究に有用な論文は、文献カードを作成する。
12. 文献クリティーク結果の発表準備	クリティークした結果を発表するための構成を考えておく。
13. 文献クリティーク結果の発表・ディスカッション①	クリティークした結果を発表するための準備を行う。
14. 文献クリティーク結果の発表・ディスカッション②	クリティークした結果を発表するための準備を行う。
15. 文献レビューの作成(構成)	文献レビューを執筆するために、発表内容を振り返る。
16. 文献レビューの作成(文章化)	文献レビューを執筆するために、準備しておく。
17. 研究課題の明確化	これまでに行った文献検討結果から、研究課題を明確化する。
18. 研究方法の検討①	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。
19. 研究方法の検討②	研究課題に沿った研究方法を焦点化しておく。
20. 研究計画書の作成①	研究計画書の構成について学習しておく。
21. データ収集方法の学習	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。
22. データ収集方法の検討	研究課題に沿った研究方法を焦点化しておく。
23. 研究計画書の作成②	研究計画書作成の準備を行う。
24. 分析方法の検討	研究課題に沿った分析方法について学習しておく。
25. 分析方法の決定	研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。
26. 研究倫理の確認	研究倫理について学習しておく。
27. 研究計画書の完成	研究計画書完成に向けた準備を行う。
28. 倫理審査委員会の書類作成に向けて	倫理審査の書類の内容について整理しておく。
29. 倫理審査委員会の書類作成	倫理審査の書類作成に向けて準備しておく。
30. まとめ	
1. オリエンテーション: 高齢者・在宅看護学演習ガイダンス	これまでの実践・研究について整理し、興味・関心あるテーマを準備する。
2. 研究課題に関連する研究動向の確認①(研究課題検討のための文献収集)	文献検索するためのキーワードを準備する。
3. 研究課題に関連する研究動向の確認②(研究課題検討のための文献収集)	検索した文献に目を通し、必要に応じて再検索する。
4. 研究課題に関連する研究動向の確認③(研究課題検討のための文献収集)	検索した文献に目を通し、必要に応じて再検索する。
5. 文献クリティークの準備	収集した文献に目をおし、必要な論文を選んで優先度をつける。
6. 文献クリティーク①	研究に有用な論文は、文献カードを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

文献を読み込み、自己の研究課題を明確化し、有用な研究を目指しましょう。

フィードバックの方法:

フィードバックは、ゼミ内で行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書の内容	70	目標1～5の到達度から評価する。
発表・討議	30	ゼミにおける積極性・主体性を評価する。

教科書:

指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書:

適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

ゼミの前後、オフィスアワーに対応する。

授業テーマ：周産期に必要な助産診断・技術に関する実践能力の修得

授業の概要：妊娠・分娩・産褥・新生児期助産診断技術で習得した知識や理論を統合し、助産過程の展開や助産実践に必要な諸技能・ケアの評価方法を習得する。周産期のケア場面のシミュレーション学習や助産OSCEを通して、助産診断の統合や援助技術の習得状況を評価し、自らの課題を明確にする。周産期に必要な助産診断・技術を修得していくプロセスにおいて、助産師に期待される役割や姿勢・態度を探究する。

到達目標：[和泉美枝／5回]
妊娠・産褥期の問診、全身のフィジカルイグザミネーション、新生児期のフィジカルイグザミネーションなどから得られた情報のアセスメント、個別性を尊重した計画立案、実行、評価などの助産過程の展開ができる。
妊娠や産褥期に必要な保健指導や健康教育を対象の時期や背景を考慮して、集団と個人への指導を組み合わせた効果的な方法で企画・実践できる。
[植松紗代／6回]
女性の産む力をひきだす自然で安全・快適、バースプランを尊重し、根拠に基づいた分娩期のケア技術、分娩助産法、分娩促進ケアや出生直後の新生児の胎外生活への適応促進のための支援方法を修得できる。
産婦や新生児の事例を用いて助産過程を展開し、分娩期に必要な助産診断のプロセスを理解すると共に対象の個別性を尊重したケア技術を修得できる。
[谷口利絵／4回]
フリースタイル出産における分娩助産技術の原理と技法が修得できる。
[越山茂代／6回]
科学的・効果的な母乳育児支援技術、母乳育児についての基本的知識、妊娠中から出産後の母乳育児支援、エモーショナル・サポートの技法を修得できる。
[大内裕美／4回]
シミュレーターを用いた演習を実施し、国際基準の新生児蘇生法の基礎知識と技術を修得できる。
[緒方あかね／2回]
事例を通して、リスクのある妊産婦のケアや周産期におけるメンタルヘルスへの支援方法が修得できる。
[渡邊裕也／3回]
女性を対象としたエクササイズに関する教室展開の基礎として、身体活動、有酸素運動、筋力トレーニングなどの原理と基本動作や特徴、留意点について理解できる。

授業方法：講義・演習形式で行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	妊娠期のフィジカルイグザミネーション技術（和泉）	妊娠期助産診断技術学の復習をしておく
2.	妊娠期の健康診査：シミュレーションシナリオトレーニング（和泉）	妊娠期助産診断技術学の復習をしておく
3.	妊娠期の保健指導：シミュレーションシナリオトレーニング（和泉）	妊娠期助産診断技術学の復習をしておく
4.	助産OSCE：妊娠期（和泉）	妊娠期助産診断技術学の復習をしておく
5.	分娩助産技術（1）分娩進行にかかわる診断技術（内診、導尿、人工破膜等）（植松）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
6.	分娩助産技術（2）分娩助産に伴う清潔操作（植松）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
7.	分娩助産技術（3）分娩助産技術（会陰保護等）（植松）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
8.	分娩助産技術（4）分娩助産技術（胎盤娩出、縫合助産等）（植松）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
9.	分娩助産技術（5）技術試験（シミュレーション）（植松）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
10.	助産OSCE：分娩期（植松）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
11.	産褥・新生児期の保健指導：シミュレーションシナリオトレーニング（和泉）	産褥・新生児期助産診断技術学の復習をしておく
12.	アクティブバースとは、メリットとデメリット（谷口）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
13.	フリースタイル分娩助産 仰臥位・側臥位・四つん這い・立位での分娩助産（谷口）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
14.	フリースタイル分娩助産 児の回旋と会陰保護（谷口）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
15.	会陰裂傷予防（谷口）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
16.	乳房・母乳の基礎知識、母乳育児の利点（越山）	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく
17.	母乳育児成功のための10ヵ条の実践とBFHの取り組み（越山）	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく
18.	母乳育児支援① 早期接触、抱き方含ませ方（越山）	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく
19.	母乳育児支援② エモーショナルケア（越山）	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく
20.	母乳育児支援③ 問題のあるケースへの支援（越山）	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく
21.	授乳中の諸問題とその支援（越山）	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく
22.	新生児の蘇生（NCPR）① 基礎（大内）	産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に出生直後の新生児のケアについて復習しておく
23.	新生児の蘇生（NCPR）② アルゴリズムと蘇生技術（大内）	産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に出生直後の新生児のケアについて復習しておく
24.	新生児の蘇生（NCPR）③ シミュレーションシナリオトレーニング（大内）	産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に出生直後の新生児のケアについて復習しておく
25.	新生児の蘇生（NCPR）④ シミュレーションシナリオトレーニング（大内）	産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に出生直後の新生児のケアについて復習しておく
26.	身体的ハイリスク妊産婦の看護援助と評価（緒方）	妊娠期助産診断技術学の復習、特に妊娠期の心理的・社会的変化とアセスメントについて復習しておく
27.	心理・社会的ハイリスク妊産婦の看護援助と評価（緒方）	妊娠期助産診断技術学の復習、特に妊娠期の心理的・社会的変化とアセスメントについて復習しておく

28. 身体活動、エクササイズの種類と特徴(渡邊)
29. 有酸素運動の原理と基本動作、留意点(渡邊)
30. 筋力トレーニングの原理と基本動作、留意点(渡邊)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

課題については授業内でコメントする

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
助産OSCE	20	OSCEの評価点から評価する
授業への積極的態度	80	積極的、主体的に授業に参加しているなど態度、意欲も評価する

教科書: UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシック・コース「母乳育児のための10ヵ条」の実践, 医学書院
細野茂春監修, 日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト第3版, メジカルビュー社

参考書: 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期, 医学書院
助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期, 医学書院
助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期, 医学書院
NCPR 新生児蘇生法テキスト 第3版 日本周産期・新生児医学会・新生児蘇生法委員会委員長細野茂春(監修)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡
方法:

質問などは主に授業内で対応する